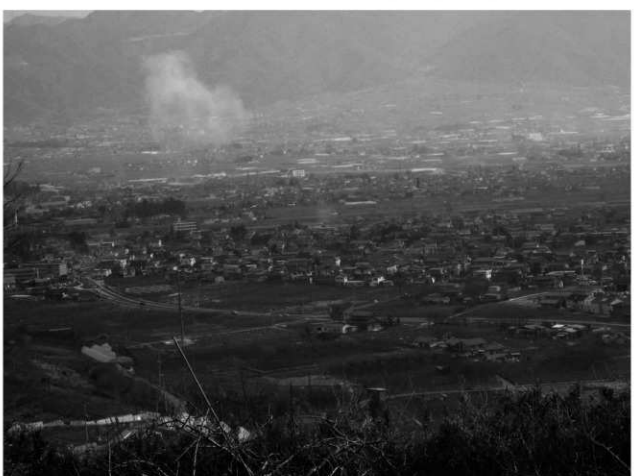
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第246集

足原田遺跡 II

Ishiharada Site II

西関東連絡道路関連発掘調査報告書



2007.3
山梨県教育委員会
山 梨 県 土 木 部

第 2 次調査区全景

口絵 2

第 3 次調査区東側全景

第 3 次調査区西側全景

口絵 4

第４次調査区全景

第２次
(9 図 79)

第２次
(9 図 77)

第２次
(9 図 78)

第３次　20 住
(63 図 36)

第３次　9 住
(53 図 3)

第３次　14 住
(57 図 1)

第３次　4 溝
(69 図 1)

第４次
(79 図 99)

第４次
(69 図 1)

第４次
(59 図 3)

序

本報告書は，山梨県土木部による西関東連絡道路建設事業（甲府市～山梨市区間）に伴い，山梨県埋蔵文化財センターが平成16・17・18年度に発掘調査を行った，足原田遺跡の発掘調査報告書です。

足原田遺跡は，山梨市万力に所在する，古墳・平安時代の遺跡であり，平成15～18年度の4ヵ年に渡って調査を実施しました。なお，平成15年度調査の成果は，発掘調査報告書『足原田遺跡Ⅰ』に記載されています。

平成16年度行った調査では，約500㎡から旧河道を確認し，破片ではありましたが，縄文土器1点や古墳時代前期の土器，平安時代の土師器等が出土し，遺物の数は3000点を超えました。

平成17年度の調査では，約2,000㎡から旧河道を確認し，平安時代後期の住居跡を23軒発見したほか，溝5条，土坑7基，畝状遺構を確認しました。また，遺物のみでしたが，古墳時代前期の土師器や中世の陶磁器も出土しました。

なお，22号住居跡から出土した須恵器の破片は，接合した結果「凸帯付三耳壺」となりました。長野県では「凸帯付四耳壺」と呼ばれる須恵器の壺が出土しており，県内では峡北地域で多く，峡東地域では国分寺周辺に限られています。それから，14号住居跡から出土した「□寺」と墨書された土器は，集落内に寺院の存在したことを示しています。これらのことから，本遺跡が峡東地域の中核となる拠点集落の一つであった可能性が推測されます。さらに5号土坑から出土した鞴の羽口は，この場所に鍛冶工房があったと断言することはできませんが，近くにそのような施設があったものと思われます。

平成18年度は約300㎡を調査し，旧河道を確認し，古墳・平安時代の土器片や鉄滓，縄文時代の磨製石斧が出土するとともに平安時代の住居跡を1軒発見しました。

今回の調査では以上のような貴重な成果を得ることができました。

本書が学術的にはもとより，地域の歴史を学ぶ一般の方にも広く活用されることを願っております。

最後になりましたが，今回の調査・報告書刊行に至るまで，調査に関係された方々や関係機関，また発掘調査・整理作業に従事された方など，多くの方々にご協力いただきました。厚く感謝申し上げます。

平成19年3月

山梨県埋蔵文化財センター
所長　末木　健

例　言

1　本書は平成16・17・18年度に行われた西関東連絡道路建設に伴う、山梨市万力851外の足原田遺跡の発掘調査報告書である。2003（平成15）年度（第1次）調査分については『足原田遺跡Ⅰ』を刊行した。
2　発掘調査及び報告書作成事業は山梨県土木部の委託を受けて、山梨県教育委員会・山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
3　本書の執筆・編集は山梨県埋蔵文化財センターの田口明子・鶴田　博・上野桜が担当した。
4　本書に掲載した発掘現場の写真は各担当が撮影した。遺物写真は田口が撮影した。
5　委託関係は、発掘調査時の基準点測量は昭和測量株式会社に、空中写真と空撮図化（3次調査）は株式会社シン技術コンサルに委託し、整理作業時の金属製品の保存処理およびX線写真撮影は、財団法人山梨文化財研究所に委託した。また自然科学分析はパリノサーヴェイ株式会社に、鉄関連遺物の分析はJFEテクノリサーチ株式会社に委託し、その報告原稿を転載した。
6　発掘調査時の遺構・遺物出土地点の光波測量機による計測情報および整理・報告書作成時のデータ管理等には、株式会社シン技術コンサルのコンピュータシステム「遺跡管理システム2000」を使用した。
7　本遺跡の出土品および記録図面・写真は、山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センターに保管している。
8　報告書作成に至るまで、以下の方にご教示いただいた記して感謝申し上げたい。
三澤達也（山梨市教育委員会）

凡　例

1　住居跡の主軸方位は、西壁の真北に対する角度を示す。
2　平面図中のスクリーントーンは、特に注記のないものは硬化面を表す。
3　挿図の縮尺は、住居跡：1/60、カマド：1/30、土坑：1/30、溝等：1/60、遺物：1/3
4　遺物観察表の（　　）は現存値、〔　　〕は推定値を表す。
5　灰釉陶器の色調は、胎土の色を表す。
6　遺物実測図の断面黒色は須恵器、スクリーントーンは陶器を表す。
7　遺物実測図の断面の左側に外面、右側に内面の拓本がある。
8　砥石等の使用面はスクリーントーンで表す。
9　自然化学分析の樹種の解剖学的特徴と種実の形態的特徴と写真図版は紙幅の関係で割愛させていただいた。
10　鉄関連遺物の成分分析で、顕微鏡組織写真・資料切断位置と切断面写真・X線回折チャート・鉱物組織の英文、化学式などは紙幅の関係で割愛させていただいた。
11　土層と遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』1993年度版を使用した。

目　次

序
例言・凡例
目次・挿図目次
第１章　調査の経緯と経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の経過 …… 1
　第３節　調査組織 …… 2
第２章　遺跡の環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　調査の方法 …… 4
　第１節　グリッド設定 …… 4
　第２節　遺構と遺物の記録 …… 4
　第３節　基本層序 …… 4
第４章　調査の成果 …… 5
　第１節　第２次調査　２００４（平成１６）年度 …… 5
　　１．グリッド出土遺物 …… 5
　第２節　第３次調査　２００５（平成１７）年度 …… 5
　　１．遺構 …… 5
　　住居跡 …… 5
　　土坑 …… 10
　　溝 …… 10
　　流れ跡 …… 11
　　畝 …… 11
　　２．グリッド出土遺物 …… 11
　第３節　第４次調査　２００６（平成１８）年度 …… 11
　　１．遺構 …… 12
　　住居跡 …… 12
　　ピット …… 12
　　２．グリッド出土遺物 …… 12
第５章　科学分析 …… 93
　第１節　自然科学分析 …… 93
　第２節　鉄関連遺物の成分分析 …… 96
第６章　まとめ …… 104

挿図目次

第１図　足原田遺跡位置図（S＝1/25,000）
第２図　周辺の遺跡（S＝1/20,000）
第３図　調査区位置図（S＝1/2,000）
第４図　第２次・第３次（１）　全体図
第５図　第３次（２）　全体図
第６図　第４次　全体図
第７図　第２次　グリッド出土遺物（１）
第８図　第２次　グリッド出土遺物（２）
第９図　第２次　グリッド出土遺物（３）
第10図　第３次　１号住居跡・カマド(1/60・1/30)
第11図　第３次　２号住居跡(1/60)
第12図　第３次　３号住居跡(1/60)
第13図　第３次　３号住居跡カマド(1/30)
第14図　第３次　４号住居跡(1/60)
第15図　第３次　４号住居跡カマド(1/30)
第16図　第３次　５号住居跡(1/60)
第17図　第３次　５号住居跡カマド(1/30)
第18図　第３次　６号住居跡(1/60)
第19図　第３次　６号住居跡カマド(1/30)
第20図　第３次　７号住居跡(1/60)
第21図　第３次　７号住居跡カマド(1/30)
第22図　第３次　８号住居跡(1/60)
第23図　第３次　８号住居跡カマド(1/30)
第24図　第３次　９・10号住居跡(1/60)
第25図　第３次　９・10号住居跡遺物出土状況(1/60)
第26図　第３次　10号住居跡カマド１(1/30)
第27図　第３次　10号住居跡カマド２(1/30)
第28図　第３次　11号住居跡(1/60)
第29図　第３次　12号住居跡・カマド１(1/60・1/30)
第30図　第３次　12号住居跡カマド２・３(1/30)
第31図　第３次　13号住居跡(1/60)
第32図　第３次　13号住居跡カマド(1/30)
第33図　第３次　14号住居跡(1/60)
第34図　第３次　15・19号住居跡(1/60)
第35図　第３次　16号住居跡(1/60)
第36図　第３次　16号住居跡カマド(1/30)
第37図　第３次　17・18号住居跡・カマド(1/60・1/30)
第38図　第３次　20号住居跡・カマド１(1/60・1/30)
第39図　第３次　20号住居跡・カマド２(1/30)
第40図　第３次　21号住居跡(1/60)
第41図　第３次　22号住居跡(1/60)
第42図　第３次　23号住居跡・カマド(1/60・1/30)
第43図　第３次　１～５号土坑 (1/30)
第44図　第３次　６・７号土坑 (1/30)
第45図　第３次　１号溝(1/60)
第46図　第３次　２・３号溝(1/60)
第47図　第３次　４・５・６号溝、流れ跡(1/60)
第48図　第３次　１～14号畝(1/100)
第49図　第３次　１号住居跡出土遺物
第50図　第３次　２・３・４・５号住居跡出土遺物
第51図　第３次　６・７号住居跡出土遺物
第52図　第３次　８号住居跡出土遺物
第53図　第３次　９号住居跡・10号住居跡（１）出土遺物
第54図　第３次　10号住居跡（２）出土遺物
第55図　第３次　11号住居跡・12号住居跡（１）出土遺物
第56図　第３次　12号住居跡（２）・13号住居跡（１）出土遺物
第57図　第３次　13号住居跡（２）・14号住居跡・15号住居跡（１）出土遺物
第58図　第３次　15号住居跡（２）出土遺物
第59図　第３次　16・17号住居跡出土遺物
第60図　第３次　18・19号住居跡出土遺物
第61図　第３次　20号住居跡（１）出土遺物
第62図　第３次　20号住居跡（２）出土遺物
第63図　第３次　20号住居跡（３）出土遺物
第64図　第３次　21号住居跡出土遺物
第65図　第３次　22号住居跡（１）出土遺物
第66図　第３次　22号住居跡（２）出土遺物
第67図　第３次　23号住居跡、１・２・４号土坑出土遺物
第68図　第３次　５号土坑、１・２・３号溝出土遺物
第69図　第３次　４・５号溝、流れ跡、14号畝・グリッド出土遺物（１）
第70図　第３次　グリッド出土遺物（２）
第71図　第３次　グリッド出土遺物（３）
第72図　第４次　１号住居跡・カマド、１～３号ピット(1/60・1/30)
第73図　第４次　１号住居跡・グリッド出土遺物（１）
第74図　第４次　グリッド出土遺物（２）
第75図　第４次　グリッド出土遺物（３）
第76図　第４次　グリッド出土遺物（４）
第77図　第４次　グリッド出土遺物（５）
第78図　第４次　グリッド出土遺物（６）
第79図　第２次・第３次　グリッド出土遺物分布図
第80図　第２次　C・D－７・８グリッド出土遺物分布図
第81図　第３次　グリッド出土遺物分布図
第82図　第４次　グリッド出土遺物分布図

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

西関東連絡道路の建設に伴い、山梨県埋蔵文化財センターは２００２（平成１４）年１０月３～４日の期間で埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を行った。その結果、古墳時代前期の甕破片等がまとまって出土したことから、翌年に本格的な発掘調査（第１次調査／山梨市万力９５０外）を実施した（このときの成果は、山梨県教育委員会２００５『足原田遺跡Ⅰ－西関東連絡道路関連発掘調査報告書－』に掲載されている）。

２００４（平成１６）年５月、県新環状・西関東道路建設事務所建設課西関東担当、県教育委員会学術文化財課、県埋蔵文化財センターによる現地協議を行い、同年６月に第１次調査の西側（山梨市万力６１７－１外）について試掘調査を実施した。その結果、古墳時代前期の壺や平安時代の土師器片が検出されたほか、住居跡や溝状遺構などのプランを確認することができ、周知の埋蔵文化財包蔵地である本遺跡の範囲を追加修正した。そして、同年１１月から１２月にかけて追加修正した本遺跡の東側（山梨市万力８５１外）を対象に本格的な発掘調査を実施し（第２次調査）、翌年５月から第２次調査の西側に位置する未調査箇所（山梨市万力７５９外）を継続して調査した（第３次調査）。さらに２００６（平成１８）年５月に、第１次調査範囲内の未調査箇所の発掘調査を実施した（第４次調査）。

なお、法的な手続きは以下のとおりである。

平成１６年　６月１４日　文化財保護法第５８条の２第１項に基く発掘通知（試掘調査）を県教育委員会教育長に提出
平成１６年　６月２２日　文化財保護法第５９条第２項に基く埋蔵文化財発見通知を日下部警察署長に提出
平成１６年１１月１１日　文化財保護法第５８条の２第１項に基く発掘通知（第２次）を県教育委員会教育長に提出
平成１７年　１月１８日　文化財保護法第５９条第２項に基く埋蔵文化財発見通知を日下部警察署長に提出
平成１７年　５月１０日　文化財保護法第９９条第１項に基く発掘通知（第３次）を県教育委員会教育長に提出
平成１７年　９月２７日　文化財保護法第１００条第２項に基く埋蔵文化財発見通知を日下部警察署長に提出
平成１８年　４月２８日　文化財保護法第９９条第１項に基く発掘通知（第４次）を県教育委員会教育長に提出
平成１８年　６月１５日　文化財保護法第１００条第２項に基く埋蔵文化財発見通知を日下部警察署長に提出
※文化財保護法の一部を改正する法律が平成１７年４月１日から施行された。

第２節　調査の経過

試掘調査により本遺跡の範囲が追加修正された後、２００４（平成１６）年１０月下旬に関係機関で協議を行い、２００４年度における発掘調査の実施について確認がなされた。発掘調査は調査区域の東側から順次行うこととし、２００４（平成１６）年度は１１月１１日から調査に着手した（第２次調査）。重機にて東側調査区（調査区域の中に道路があり、道路の東側を東側調査区、西側を西側調査区と呼ぶ）の表土を取り除いた後、人力にて精査する作業を行った。東側調査区の３分の２にあたる約５００㎡の発掘調査を終了し、翌年１月中旬までに調査箇所の埋め戻しを終えた。

そして、２００５（平成１７）年４月上旬に当該年度の発掘調査に関する協議を行い、５月中旬より調査に着手した（第３次調査）。表土を取り除いてある東側調査区の未調査箇所の調査からはじめ、当該区域の調査が終了した後に西側調査区の表土を取り除いて遺構確認に努め、その後、遺構内の精査を進めた。調査期間中に梅雨や台風による影響を受け、当初予定した期間を約１ヶ月延長し、９月下旬に発掘調査を終了した。

整理作業に関しては、第２次調査の基礎的な整理作業を２００５（平成１７）年１月より開始し、３月末までに遺物の水洗、注記作業が終了した。それ以降の作業は、第３次調査の本格的な整理作業とともに９月上旬よりはじめ、翌年３月までに遺物の実測・トレースを終えた。また、遺構より検出された鉄・銅製品の保存処理、鉄滓等の分析、炭化種実の分析を委託した。

調査内容の公開としては、第２次調査の成果は２００５（平成１７）年３月１２日から４月３日まで山梨県埋蔵文化

財センターが山梨県立考古博物館で開催した「山梨の遺跡展２００４」において展示公開し、第３次調査は２００６（平成１８）年３月１８日から４月９日まで開催された「山梨の遺跡展２００６」において展示公開を行った。また、山梨県内の公立博物館や市町村教育委員会との共催として湯之奥金山博物館、玉穂町生涯学習館、県民情報プラザ、釈迦堂遺跡博物館、ミュージアム都留でパネルの展示を行った。

最後に、発掘調査および整理報告書作成作業の経過について抄録をあげる。

平成１６年１０月２７日　県新環状・西関東道路建設事務所建設課西関東担当、県教育委員会学術文化財課、県埋蔵文化財センターによる現地協議（第２次調査に関する協議）を実施する。

１１月１１日　発掘調査（第２次調査）に着手する。

１１月２４日　発掘調査用の基準点測量を行う（委託事業）。

１１月２４日　空中写真撮影を行う（委託事業）。

平成１７年　１月　５日　基礎的整理作業を開始する。

１月１８日　発掘調査（第２次調査）を終了する。

３月１６日　基礎的整理作業を終了する。

４月　７日　県新環状・西関東道路建設事務所建設課西関東担当、県教育委員会学術文化財課、県埋蔵文化財センターによる現地協議（第３次調査に関する協議）を実施する。

５月１０日　発掘調査（第３次調査）に着手する。

６月　９日　空中写真撮影を実施する（委託事業）。

６月３０日　発掘調査用の基準点測量を行う（委託事業）。

９月　１日　本格的整理作業を開始する。

９月１５日　空中写真撮影・測量図化作業を実施する（委託事業）。

９月２７日　発掘調査（第３次調査）を終了する。

１２月２２日　鉄・銅製品の保存処理・鉄滓等の分析・炭化種実の分析を行う（委託事業）。

平成１８年　４月　５日　県新環状・西関東道路建設事務所建設課西関東担当・県教育委員会学術文化財課・県埋蔵文化財センターによる現地協議（第４次調査に関する協議）を実施する。

４月２５日　上物撤去及び表土剥ぎ取りに着手する。

５月　９日　発掘調査（第４次調査）に着手する。

６月　７日　空中写真撮影を行う（委託事業）。

６月１２日　発掘調査（第４次調査）を終了する。

６月１９日　本格的整理作業を開始する。

１２月２６日　本格的整理作業を終了する。

第３節　調査組織

調査主体　山梨県教育委員会

調査機関　山梨県埋蔵文化財センター

２００４（平成１６）年度（第２次）

担当：　調査研究課　田口明子・鶴田　博

発掘調査作業員：　相澤淑美・雨宮久美子・石井弘文・加賀美昌友・栗原礼子・黒瀬信子・小菅春江・近藤良文・千野富子・寺内みち子・戸田ひろ・萩原里江子・深澤茂子・正木なつ子・宮久保あさの・吉川美穂

整理作業員：　相澤淑美・岡　和子・北川直子・北川　洋・正木なつ子

２００５（平成１７）年度（第３次）

担当：　調査研究課　田口明子・鶴田　博

発掘調査作業員：　相澤淑美・雨宮久美子・雨宮千尋・飯室恵子・長田直樹・長田美代子・小澤正臣・加賀美昌友・栗原礼子・黒瀬信子・小菅春江・鮫田勝夫・沢登淳子・清水千三・千野富子・寺内みち子・戸田ひろ・中沢　保・萩原里江子・長谷部久樹・羽中田　弘・深澤茂子・古屋茂美・正木なつ子・宮久保あさの

整理作業員：　相澤淑美・飯室恵子・岡　和子・長田美代子・栗原礼子・小菅春江・佐野眞雪・千野富子・土井みさほ・萩原里江子・長谷部久樹・正木なつ子・宮久保あさの

２００６（平成１８）年度（第４次）

担当：　資料普及課　田口明子・上野　桜

発掘調査作業員：　相澤淑美・雨宮久美子・長田美代子・栗原礼子・千野富子・戸田ひろ・萩原里江子・正木なつ子・宮久保あさの

整理作業員：　川住たまみ・栗原礼子・小林順子・萩原里江子・野澤まゆみ

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境（第１図）

本遺跡は、甲府盆地の北東部、狭長な笛吹川扇状地の西縁、扇端部に立地する。笛吹川は秩父山系に源を発し、南に流れ、甲府盆地の北東部に流下する富士川の支流の一つである。本遺跡は、笛吹川の右岸にあり、笛吹川まで約５００ｍの距離がある。標高３２０～３２５ｍで、南西方向に緩やかに傾斜している。

遺跡の南約５０ｍに一般国道１４０号線（雁坂道）がある。この道は、江戸時代に秩父街道の間道であったが、明治９年に、差出の磯が開鑿された後は、秩父街道の本道となった。

本遺跡の範囲は、東西約４００ｍ、南北約２３０ｍとされている。遺跡の周囲は、現在、桃やブドウ畑であるが、昭和３０年代までは水田を営んでいた。明治４３年の地図でも周囲は全て水田である。

第２節　歴史的環境（第２図）

１０世紀（９３１～９３８年）の『倭名類聚抄』には、甲斐国に４郡があり、そのうちの山梨郡には、東郷・西郷各５郷が載り、西郷の１つである山梨郷に、本遺跡のある山梨市万力は比定されている。３．４km 南西には、甲斐国府の候補地の１つである笛吹市春日居町国府がある。

周辺の遺跡は、約５００ｍ西に古墳時代前期と平安時代の住居跡が発掘調査された延命寺遺跡（５０）があり、その西側約１５０ｍに古墳時代前期・奈良時代の住居跡が発見された旧中沢遺跡を名称変更した千原田遺跡（５１）がある。さらにその南西約１００ｍには、古墳時代前期の住居跡・方形周溝墓などが発見された旧武家遺跡を名称変更した小武家遺跡（６４）がある。これらの遺跡の周囲には、古墳時代・平安時代の間之田西遺跡（４５）、半座池遺跡（６１）や平安時代の金桜遺跡（４９）、地蔵久保遺跡（５２）、間之田遺跡（４３）、堀之内遺跡（５９）、田屋之前遺跡（６２）が分布している。

参考文献

山梨県女子師範学校　１９３７『微細郷土研究』

山梨県教育委員会　２００４『中沢遺跡・武家遺跡－新環状・西関東道路建設工事に伴う発掘調査報告書－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第２１４集

山梨市　２００５『山梨市史　史料編　考古・古代・中世』

山梨市教育委員会他　２００５『延命寺遺跡－山梨厚生病院授産施設建設に伴う発掘調査報告書－』山梨市文化財調査報告書　第９集

第３章　調査の方法

第１節　グリッド設定（第３図）

第２・３次調査区は、第１次調査区の西側に位置しているが、第１次調査のグリッド設定が、西端を基点としていたために、第２・３次調査のグリッドは、新たに番号と記号を付けた。グリッドは、５m方眼とし、世界測地系の座標に当てはまる。北東端を基準に南へA・B・C～I、西へ１・２・３～３４までのアルファベットと数字で表し、A－１・A－２等と各グリッドを呼称する。A－１の北東角は、X＝－３４４６５、Y＝１５５１０である。

第４次調査は、第１次調査区の範囲に含まれるため、第１次調査のグリッドを使用した。北西端のX＝－３４４４５、Y＝１５５１５がA－１の北西角となり、南にA・B・C～K、東に１・２・３～４３まで設定されている。C～F－２６～３６の範囲に調査区がある。

第２節　遺構と遺物の記録

第２～４次調査まで、株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を使用した。

第２次調査では、遺構が発見されなかったため、出土遺物の主要なものは、１から通し番号をつけて、「遺跡管理システム」を使用して取り上げた。それ以外の遺物はグリッドごとに取り上げた。旧河道との境などの地形的な特徴も「遺跡管理システム」を使用した。セクション図は人力で実測した。

第３次調査では、発見された順に、遺構ごとに遺構番号を付け、遺構に伴う遺物は、遺構ごとに１から順に付けた。住居跡の場合、特にカマド出土の遺物には、１住カマド１のように別に１から番号を付けた。遺構に伴わない遺物のうち主要なものは、第２次調査と同じく１から通し番号を付けた。遺構・遺物ともに、「遺跡管理システム」で座標を記録したが、遺構と遺構に伴う遺物に関しては、平板測量を併用した。C～I－１４～３４の全体図は、空撮により図化を委託して行った。セクション図は人力で実測した。

第４次調査では、第３次調査と同じ方法で調査を行った。

第２～４次まで、遺物の注記は「'４足原田A－１・１」のように、頭に年度の数字を付した。

第３節　基本層序（第４～６図）

第２～４次まで、土層は全て砂質土からなり、しまりは強く、粘性はほとんどない。第２～４次の土層番号は対応していない。

第２次調査区は、ほとんどが旧河道のため、表土である現在の耕作土とその下層にある水田を営んでいた時の耕作土と床土の下は、砂礫を多く含む層が主体となる。旧河道は、東から西に流れ、径約０．１m以下の礫を多く含み、大きい礫では、径約０．６mになる。古墳時代の遺物包含層は、黒褐色砂質土層で、旧河道はこの遺物包含層を削っている。

第３次調査区は、平安時代には、比較的安定していたところで、第２次調査区から続く旧河道が東側の一部で北西に調査区外に伸び、１８～２３グリッドにかけて、北から南西に向い調査区を横切る。調査区が東西に約１００mと長く、西に向いやや傾斜しているため、表土の下層の旧水田耕作土と床土が場所により、１～２段ある。その下層に平安時代の遺物包含層である暗褐色砂質土層がある。そして黄褐色ブロックを含む褐色砂質土層が遺構確認面となる。

第４次調査区は、第２次調査区の約１３０m東側に位置し、現在の耕作土が表土としており、その下層に旧水田の耕作土・床土があることは、第２・３次調査区と変わらない。調査区の大半が旧河道であるが、第２・３次調査区で確認した旧河道と同一のものかは不明である。E・F－３３・３４に古墳時代の遺物包含層である黒褐色砂質土層があり、この上層にも若干遺物が含まれる。平安時代の遺構確認面は、にぶい黄褐色砂質土層上面である。

第４章　調査の成果

第１節　第２次調査　２００４（平成１６）年度

調査区のほとんどが、２筋の東から西へ流れる旧河道で、東側の北壁際とＣ－５～８を中心にやや安定した黒色砂質土層が残る。遺構は確認されず、古墳時代と平安時代の遺物を中心に、縄文土器片１点と中世の土器・陶磁器類が出土した。

１．グリッド出土遺物（第７～９・８０・８１図、写真図版１・１７～２０、口絵４）

旧河道からは、古墳・平安時代、中世の遺物が混在して出土するが、それより新しい時期のものは含まれない。黒色砂質土層からは、古墳時代前期の土器が集中して出土している。Ｂ－３・４に遺物が分布しないのは人為的なものである。古墳時代前期の土器は、Ｃ・Ｄ－７・８の旧河道と黒色砂質土層が残る中州上に集中する（第８１図）。平安時代の土器はＣ－５にややまとまりがみえる。中世の遺物はＡ・Ｂ－２・３からの出土がほとんどである。時期による層位的なまとまりはなく混在する。

第２節　第３次調査　２００５（平成１７）年度

道路を挟んで東側（第４図）と西側（第５図）に調査区が分かれる。東側は、第２次調査地点続きの２筋の旧河道が東から西へ流れる。北東側の旧河道に挟まれたＢ・Ｃ－９～１２と旧河道の南側にあるＣ・Ｄ－９～１３に黒色砂質土層がある。１・２号住居跡と１号土坑、１～３号溝は旧河道南側の黒色砂質土層を掘り込んでいる。西側は、Ｄ～Ｈ－１８～２３に２筋の旧河道が北から南に流れる。東側調査区の旧河道より幅が狭い。同じ流れかは明らかではないが、調査区外で蛇行して、流れの方向を変えた可能性もある。３～２３号住居跡、２～７号土坑、４～６号溝、流れ跡、１～１４号畝などが確認された。

１．遺構

１号住居跡（第１０・４９図、写真図版２・２１）

（位置）Ｅ－１２・１３　（切り合い）北・東壁を１号溝に切られる。カマドの煙道部をトレンチに切られる。　（規模と形態）北壁約２．８２ｍ、西壁約３．６ｍ、深さ約０．３６ｍの隅丸方形。　（主軸方位）Ｎ－１４°－Ｅ　（カマド）東壁南端にあり、東・西両側に袖石が並ぶ。東側の３個は、全て焼けている。西側は、手前と一つ飛んだ奥の２個が焼けている。東側袖石の奥に、坏が４点正位に重なって出土した。上から（７）・（１０）・（４）・（８）で、その他に甕（１７）と羽釜（１８）の破片が出土している。　（その他の施設）ピット１：ほぼ中央にあり、南北約１ｍ、東西約０．８８ｍ、深さ約０．２５ｍ。ピット２：南西角にあり、南北約０．３７ｍ、東西約０．４１ｍ、深さ０．１ｍ。完形の坏（５）が出土。　（遺物）ほとんど床面から浮いた状態で出土した。精鍛冶滓（資料№１）が西壁際中央、製錬鍛冶滓（資料№２）が南壁近くのほぼ中央から出土。　（時期）１１世紀前半

２号住居跡（第１１・５０図、写真図版３・２１）

（位置）Ｅ－１１・１２　（残存）調査区南壁際で発見され、北壁と西壁の一部が残存する。　（規模）現存では北壁１．５３ｍ、西壁１．４３ｍ、深さ０．０８ｍ。　（主軸方位）Ｎ－１５°－Ｅ　（カマド）不明　（その他の施設）北壁際にピット１基：東西約０．６８ｍ、南北０．４３ｍ、深さ０．４４ｍ。土師器（３）・（４）が出土。　（遺物）土師器坏（２）・羽釜（５）が覆土より出土。　（時期）平安　（備考）覆土中に石があるが、ほとんどが焼けている。カマドの構築材か。

３号住居跡（第１２・１３・５０図、写真図版３・２１）

（位置）Ｆ・Ｇ－３２・３３　（切り合い）東壁の南側、カマドが撹乱により切られている。４・５号畝と重複。　（規模と形態）北壁３．１２ｍ、西壁３．５４ｍ、深さ０．１８ｍ。やや長方形。　（主軸方位）Ｎ－１０°－Ｗ　（カマド）東壁南寄りにあり、袖は、粘土を主体としている。焼け骨片が数点出土しているが、小片で同定不能。　（その他の施設）ピッ

トが２基ある。西壁際中央のものは、東西約０．５m、南北約０．３m、深さ約０．２m。東壁のものは、カマドの北側にあり、東西約０．４m、南北約０．６m、住居床面からの深さは、約０．１m。遺物の出土はなし。（遺物）覆土から、坏（２）・甕（５）が出土。全体に遺物は少ない。（時期）９世紀後半か（備考）カマドの前面に硬化面がある。

４号住居跡（第１４・１５・５０図、写真図版３・２１）

（位置）Ｆ・Ｇ－３１・３２（切り合い）６・７号畝と重複。（規模と形態）北壁約２．５８m、西壁約２．３m、深さ０．２１m。隅丸方形。（主軸方位）Ｎ－０°－Ｅ（カマド）北壁中央にあり、袖は、東側が粘土を主体に、西側が石と土師器甕（４）・（５）を主体としている。（その他の施設）なし（遺物）床面に近いところから土師器坏（２）が、他は床面から浮いた状態で出土。覆土中から黒曜石の細片が２点出土。（時期）９世紀後半（備考）カマドの前面に焼土・炭化物集中。

５号住居跡（第１６・１７・５０図、写真図版３・２１）

（位置）Ｈ－３４・３５（規模と形態）北壁約２．０１m、西壁約２．１２m、深さ約０．３２m。隅丸方形。（主軸方位）Ｎ－４０°－Ｅ（カマド）西壁の中央よりやや南寄りにあり、両袖は、長径約４０㎝の自然石を主体とする。燃焼部近くの焼土の下に甕片（４）が敷かれているように出土。（その他の施設）東壁の北寄りに、幅１．１６m、奥行き０．７６mの確認面からの深さ約０．３mの長方形の掘り込みがある。覆土内に長径０．７mの自然石があり、遺物の出土はない。本住居に附属するものかは、不明施である。（遺物）床面より約０．１m上で、坏（１）が出土。甕（２）、灰釉陶器壷（３）も覆土からの出土である。（時期）９世紀後半か（備考）床面の中央から南に硬化面がある。

６号住居跡（第１８・１９・５１図、写真図版４・２２・３４）

（位置）Ｇ・Ｈ－２６・２７（規模と形態）北壁約３．５４m、西壁約３．３３m、深さ約０．０６m。不整隅丸方形。（主軸方位）Ｎ－１５°－Ｗ（カマド）東壁中央よりやや南寄りにあり粘土を主体にする。（遺物）確認面からの深さが浅いため、ほとんどが床面近くからの出土である。鎌（８）は北東角の壁際でやや浮いた状態で出土。坏（１）・（２）は、底面に類似の刻書がある。（時期）９世紀前半（備考）カマドの前面に硬化面が広がる。

７号住居跡（第２０・２１・５１図、写真図版４・２２）

（位置）Ｈ・Ｉ－２６（残存）南側が調査区外に伸びる。（規模と形態）北壁約３．３９m、西壁の現存約２．８２m、深さ約０．３０m。隅丸方形。（主軸方位）Ｎ－７°－Ｗ（カマド）北壁のほぼ中央にあり、石と粘土を主体とする。（その他の施設）なし（遺物）甕（１３）は、床面上から出土しているが、他は浮いた状態で出土。坏（９）・高台付坏（８）の底面に刻書。（時期）９世紀代

８号住居跡（第２２・２３・５２図、写真図版５・２２・３４）

（位置）Ｆ・Ｇ－２２・２３（規模と形態）北壁約３．６０m、西壁約３．１０m、深さ約０．１８m。隅丸方形。（主軸方位）Ｎ－２３°－Ｅ（カマド）北東角にあり、袖は、長径約０．２５～０．３５mの石を主体とする。煙道中央の東端にある袖石は、表土剥ぎ取り時に、少し東に引きずられている。坏（１）は、燃焼部を中心に割れた破片がやや散らばって出土。柱状高台坏（１０）は、北側袖石の前面で、床面よりやや浮いた状態で出土。（その他の施設）ピット１は、南東角にあり、約０．６７×０．４０mの不整形である。覆土中の石３点は、焼けている。皿（５）が出土。ピット２は、中央よりやや西寄りにあり、０．５０×０．４３mの長円形で、床面からの深さは０．２５mである。ピット３は、南西角近くにあり、０．４×０．３４mのほぼ円形で、床面からの深さは、０．２１mである。皿（４）が出土。（遺物）高台付皿（７）が、床面上から出土した。他は浮いた状態で出土。（時期）１１～１２世紀

９号住居跡（第２４・２５・５３図、写真図版６・２３、口絵４）

（位置）Ｆ－２５・２６（切り合い）１０号住居跡に切られる。西側を撹乱に切られる。（規模と形態）南壁約２．５８m、東壁約２．６２m、深さ約０．２７m。隅丸方形。（主軸方位）Ｎ－５°－Ｗ（カマド）北壁中央にあり、粘土を主体とするが、ほとんど原形をとどめない。（その他の施設）なし（遺物）非常に少なく、図示できたものは坏（１）・（２）と高台付皿（３）のみである。いずれも床面から浮いた状態である。高台付皿（３）の底面には墨書がある。（時

期）９世紀後半か

１０号住居跡（第２４～２６・５３・５４図、写真図版６・２３・３４）

（位置）Ｆ－２６・２７　（切り合い）９号住居跡を切っている。　（規模と形態）南壁約３．７９m、西壁約３．４５m、深さ約０．１２m。歪な方形。　（主軸方位）Ｎ－１４°－Ｅ　（カマド）２箇所確認された。カマド１は、南東角にあり、袖は径約０．２～０．３mの石を主体にする。燃焼部附近から柱状高台（１８）が出土したが、浮いた状態である。カマドの西側、住居の南西角からは、皿（７）・（９）・（１２）、甕（２４）・（２７）・（２９）・（３０）が出土した。皿（１２）は完形である。甕はいずれも破片である。カマド２は、南西角にあり、径約０．１６m～０．３mの石が床面とほぼ同じ面で認められた。覆土に炭化物が多く含まれる。長径約１．２m、短径約１．１m、床面からの深さ約０．３５mの不整形の掘り込みを伴う。掘り込みの底近くから高台付坏（７）が出土。　（その他の施設）ピット１は南壁近くにあり、約０．７５m×０．６m、床面からの深さ約０．２３mである。掘り込みの周囲に橙色粘土が巡る。底近くから皿（１７）が出土。北壁寄りには不整形の深さ約０．８mの浅い落ち込みを確認した。遺物の平面分布からは、やや集中しているが、レヴェルは床面より上からの出土である。　（遺物）全体に遺物の量は多い。ほとんど床面から浮いた状態である。　（時期）１１世紀後半～１２世紀　（備考）カマド２としたが、カマドではない可能性がある。

１１号住居跡（第２８・５５図、写真図版７・２４）

（位置）Ｈ－３５　（残存）東壁の一部を確認した。それ以外は調査区外。　（規模と形態）東壁約１．１m、東西約０．８６mを確認。深さは約０．０８m。形態は不明。　（主軸方位）東壁で、Ｎ－１９°－Ｅ　（カマド）不明　（その他の施設）なし　（遺物）すべて床面から浮いた状態で出土。　（時期）１１世紀後半か　（備考）住居跡ではない可能性がある。

１２号住居跡（第２９・３０・５５・５６図、写真図版７・２４）

（位置）Ｆ・Ｇ－２２　（切り合い）試掘トレンチにより、北壁から西壁にかけて切られる。南壁をトレンチで切られる。　（規模と形態）北壁約３m、西壁約４．６m、深さ約０．３２m。隅丸長方形。　（主軸方位）Ｎ－２６°－Ｅ　（カマド）３箇所認められた。カマド１は、東壁中央より、南寄りにあり、住居跡の平面確認時に、煙道を思わせるやや外側に膨らんだプランとともに、その縁に焼土が巡ることを確認した。袖石等は無い。カマド２・３は、東壁の南側に並んでいる。カマド２は、北側にあり、それぞれ煙道がある。南北セクションの石２点が立って、焼けていることと、周辺に焼け石が数点見られることから、袖は石を主体としていたと思われる。カマド３には、明確な焼土面がある。カマド１から遺物の出土はない。カマド２からは、床面から浮いた状態で、坏（６）、灰釉陶器皿（１６）が出土。坏（２）は完形で、床面近く正位で出土。　（その他の施設）ピット１は、カマド１の北側、東壁近くにあり、約１．３m×０．７６mの長円形で、深さは約０．３６mである。覆土中から甕（７）・（９）・（１０）の破片が出土し、いずれもカマド２・３から出土した破片と接合する。ピット２は、ピット１の北側、北東角にあり、約０．７m×０．６mの隅丸方形で、深さ約０．２６mである。遺物はほとんどない。　（遺物）中央の硬化面上に坏（１）・（３）が重なった状態で正位に出土。（１）は上位にある。甕（１０）は床面上に散布し、他は浮いた状態で出土。精錬または鍛錬鍛冶滓（資料№３）が床面中央より南西で、同（資料№４）が東側で出土。　（時期）１１世紀前半　（備考）中央付近の床面が硬化し、焼土・炭化物を含む。

１３号住居跡（第３１・３２・５６・５７図、写真図版８・２５・３４）

（位置）Ｆ・Ｇ－２０　（残存）カマドと壁の一部のみで、旧河道の影響で削られている。　（規模と形態）北壁約０．８１m、西壁約０．６mを確認。ほとんど掘り込みは認められない。形態は不明。　（主軸方位）東壁Ｎ－３５°－Ｅ　か（カマド）　南東角と思われる。石を主体とする。坏（１）が、石の上で逆位に、甕の底部（９）が奥の石に立てかかるように出土したが、土器を構築材として使用した可能性がある。（その他の施設）なし　（遺物）皿（２）、ミニチュア（１３）などが覆土中から出土。　（時期）１１世紀後半　（備考）カマドの前面に硬化面がある。

１４号住居跡（第３３・５７図、写真図版８・２５、口絵４）

（位置）Ｅ・Ｆ－１６　（切り合い）２２号住居跡と重複。住居全体の上部を撹乱により切られているため、北西角が削られている。　（規模と形態）北壁推定約３．６m、西壁推定約３．１m、深さ約０．３m。やや歪んだ隅丸方形。　（主

軸方位）Ｎ－１４°－Ｗ　（カマド）北壁際中央近くに焼土面があり、その周辺に径約０．１～０．４ｍの石が散布。石は焼けていない。　（その他の施設）なし　（遺物）全体に遺物量は少ない。墨書土器（１）は、床面近くから出土。坏（２）は北壁に寄りかかるように出土。他は覆土中からの出土である。　（時期）９世紀後半か

１５号住居跡（第３４・５７・５８図、写真図版８・２６）

（位置）Ｇ・Ｈ－２１　（切り合い）１９号住居跡を切る。旧河道により西壁の一部が削られる。南側は調査区外に伸びる。　（規模と形態）北壁約２．８ｍ、東壁現存約２．５ｍ、深さ約０．２３ｍ。隅丸方形か。　（主軸方位）東壁でＮ－１５°－Ｅ　（カマド）調査区内には認められないが、南側の調査区壁セクションに焼土集中がみられることから、南東角か、東壁南寄りにあるとおもわれる。　（その他の施設）中央近くに、約１．０ｍ×０．９ｍ、床面からの深さ約０．１５ｍの擂鉢状の落ち込みがある。　（遺物）量は多い。覆土中からほぼ完形の坏（１）・（３）、皿（１６）・（１７）などが出土。南側の調査区壁際から精錬または鍛錬鍛冶滓（資料№５）が出土。また、鋳鉄または銹化物（資料№６～１０）が覆土中より出土。　（時期）１１世紀後半

１６号住居跡（第３５・３６・５９図、写真図版８・２６）

（位置）Ｅ・Ｆ－１９・２０　（切り合い）西側が旧河道で切られている。　（規模と形態）南壁約２．５６ｍ、東壁約２．８８ｍ、深さ約０．２４ｍ。隅丸方形か。　（主軸方位）Ｎ－１３°－Ｅ　（カマド）東壁の中央より南寄りにあり、煙道は約１．３ｍの長さで確認できたが、袖などの施設は認められない。粘土が若干残存する。　（その他の施設）なし　（遺物）非常に少ない。　（時期）９世紀後半か　（備考）煙道の前面やや北寄りの床面に粘土塊がある。

１７号住居跡（第３７・５９図、写真図版９・２７）

（位置）Ｅ－１２・１３　（切り合い）１８号住居跡に切られる。撹乱に西壁を削られる。　（規模と形態）南壁約３．５９ｍ、東壁約３．６３ｍ、深さ約０．１２ｍ。やや歪な方形か。　（主軸方位）Ｎ－４°－Ｗ　（カマド）粘土と焼土・炭化物の集中から、北壁中央付近にあったと思われる。焼土の上から皿（４）が出土。　（その他の施設）カマドの西側に径約０．３２ｍ×０．２７ｍの不整円形で、深さ約０．３７ｍの小穴が、住居の中央近くに、径約０．２ｍの円形で、深さ約０．１ｍの小穴がある。本住居に伴うかは不明。　（遺物）非常に少なく、全てカマドの周辺からの出土である。皿（４）・（５）の底面には類似の刻書がある。　（時期）９世紀前半

１８号住居跡（第３７・６０図、写真図版９・２７）

（位置）Ｅ－１２・１３　（切り合い）１７号住居跡を切っている。　（規模と形態）北壁約４．７４ｍ、西壁約５．０４ｍ、深さ約０．１８ｍ。隅丸方形か。　（主軸方位）Ｎ－２０°－Ｅ　（カマド）粘土と焼土・炭化物の集中から、南東角にあったと思われる。約１．２ｍ×０．９ｍの円形の掘り込みを伴う。掘り込みの深さは床面から約０．３３ｍ。皿（３）、甕（１１）・（１４）が床面上から出土。　（その他の施設）北東角近くに約０．８５ｍ×０．５７ｍの長円形の掘り込みがある。床面からの深さは、約０．３８ｍで、底近くから柱状高台（９）が、掘り込みの上位から鉢？（１５）が出土。床の硬化面の東側には、径約０．５５ｍの円形の掘り込みがあり、床面からの深さは約０．２５ｍである。覆土の上位から坏（１）の破片１点出土。また、住居の北西角には、約１．４ｍ×０．９ｍの不整形をした、深さ約０．１３ｍの浅い落ち込みを確認した。覆土から甕（１２）が出土。　（遺物）カマド以外からは、北壁際にやや集中する。皿（２）・（７）と鉢（１３）は床面から浮いた状態でまとまって出土。　（時期）１１世紀後半　（備考）住居の中央付近に硬化面がある。

１９号住居跡（第３４・６０図、写真図版９・２７）

（位置）Ｈ－２１・２２　（切り合い）１５号住居跡に切られる。西側は旧河道に削られる。南側は調査区外に伸びる。　（規模と形態）北壁現存約０．８６ｍ、東壁約２．０７ｍを確認、深さ約０．１ｍ。隅丸方形か。　（主軸方位）東壁で、Ｎ－３°－Ｗ　（カマド）東壁の中央より南寄りか。粘土と焼土の集中がみられる。坏（１）・（２）・（３）と甕（４）が焼土上から出土。　（その他の施設）カマドの北西に径約０．３５ｍ×０．２７ｍ、深さ約０．１７ｍの長円形の落ち込みと径約０．４ｍ×０．３６ｍ、深さ約０．１９ｍの不整円形の落ち込みとその２つの落ち込みをつなぐような深さ０．０５ｍの浅い溝を確認した。　（遺物）非常に少ない。　（時期）９世紀前半　（備考）確認された床面のほとんどが硬化している。

２０号住居跡（第３７～３９・６０～６３図、写真図版９・２８・３４、口絵４）

（位置）Ｄ～Ｆ－１６・１７　（切り合い）北壁の一部が２３号住居跡に切られ、東壁は撹乱に切られる。　（規模と形態）南壁約４．５m、西壁約６．０m、深さ約０．３２m。隅丸長方形。　（主軸方位）Ｎ－２５°－Ｅ　（カマド）２箇所ある。カマド１は、南東角にあり石を主体とする。床面には、明確な焼土面が広がる。カマドの西側、住居の南壁に沿って粘土や焼け石が床面上にある。柱状高台皿（１６）、甕（２３）、場（２８）が出土。カマド２は、東壁中央近くにあり、石を主体とする。坏（６）が石と同レヴェルで出土。（その他の施設）ピットを５基確認した。ピット１は、南西角にあり、径約０．７５m×０．６５m、床面からの深さ約０．４mである。ピット２はピット１の北側、径約０．６５m×０．５m、深さ約０．３mである。ピット３はピット２の北側、径約０．７５m×０．４mの不整形で、床面からの深さ約０．４mである。ピット４は住居の中央近くにあり、径約１．０m×０．４５mの長細い平面形で、床面からの深さは約０．５mである。ピット５は北東角に近く、径約０．７m×０．６m、床面からの深さ約０．４mである。いずれのピットからも遺物は出土していない。また、ピット２・４は硬化面の下で確認された。　（遺物）住居の南側から多く出土しているが、ほとんどが床面から浮いた状態である。カマド２の前面から、皿（７）・（１１）・（１３）が床面上から出土した。場（２９）も床面上から出土。ピット４の上から鉄鏃（３７）が出土しているが、床面より約０．１m上からである。出土位置は不明だが炉壁付着精錬鍛冶滓（資料№１１）と西壁際ほぼ中央で住居の確認面よりやや上から精錬鍛冶滓（資料№１２）が出土。また、カマド１の前面と南壁際から羽口片（４０～４５）６点が出土。　（時期）１１世紀後半　（備考）カマド１の前面から西壁近くまで硬化面がある。

２１号住居跡（第４０・６４図、写真図版１０・２８）

（位置）Ｆ・Ｇ－１６・１７　（残存）南側が調査区外に伸びる。　（規模と形態）北壁約３．６６m、西壁現存約４．０m、深さ約０．３３m。隅丸方形か。　（主軸方位）Ｎ－１５°－Ｅ　（カマド）不明。　（その他の施設）東壁に近い中央に粘土塊があり、その東側にやや焼土が集中する。　（遺物）粘土塊周辺に集中する。坏（１）・（２）、置きカマド（１０）は粘土塊下位とほぼ同レヴェル、床面からやや浮いた状態からの出土である。他は床面から浮いた状態である。　（時期）１０世紀後半

２２号住居跡（第４１・６５・６６図、写真図版１０・２９・３０）

（位置）Ｈ・Ｉ－１５・１６　（切り合い）１４号住居跡と重複。南側は調査区外に伸びる。　（規模と形態）北壁約３．６６m、西壁現存約３．８４m、深さ約０．４m。長方形か。　（主軸方位）Ｎ－１５°－Ｗ　（カマド）２基か。一つは、南壁セクションに袖石の一部がかかる。南東角近くの床面に粘土が広がる。これらは東壁南寄りか、南東角にカマドがある可能性を示す。またもう一つは、北東角に焼土のひろがりがある。　（その他の施設）ピット１は西壁近くにあり、径約０．７m×０．４６mの不整長円形で、床面からの深さは約０．１５m。覆土から皿（６）、高台（９）、柱状高台皿（１０）、置きカマド（１８）が出土。　（遺物）南東角附近に集中する。床面から約０．１m上で、坏（１）・（２）・（４）、甕（１１）・（１２）・（１３）が出土。床面より約０．２m～０．４m上で坏（３）、皿（５）・（６）・（７）・柱状高台（８）・（１０）、高台（９）、置きカマド（１７）・（１９）・（２０）・（２２）などが出土。（時期）９世紀後半か　（備考）床面に近い遺物は、９世紀後半で、床面から浮いた状態の遺物は、１１世紀後半が多い。

２３号住居跡（第４２・６７図、写真図版１０・３０）

（位置）Ｄ・Ｅ－１６・１７　（切り合い）２０号住居跡を切っている。　（規模と形態）北壁約３．５m、西壁約２．５m、深さ約０．１４m。歪な隅丸長方形。　（主軸方位）Ｎ－２０°－Ｅ　（カマド）南東角にあり、石を主体とするが、東側の袖石は見当たらない。坏（１）・（２）・（３）、灰釉陶器碗（１０）の破片が煙道入口附近からまとまって出土。カマドの前面に径約１．５m×１．３m、床面からの深さ約０．３mの掘り込みがある。（その他の施設）北壁寄りに径約０．１m～０．２mの自然石が並ぶが、床面からやや浮いている。本住居に伴わない可能性もある。　（遺物）全体に少ない。甕（８）は、床面上から出土。他は浮いたところから出土している。　（時期）１０世紀後半

1号土坑（第４３・６７図、写真図版１１・３０）

（位置）Ｅ－１３　（規模と形態）径約０．４８ｍ×０．６ｍ、深さ約０．０８ｍ。円形。　（遺物）壺（1）、甕（2）が覆土中から出土。　（時期）不明。古墳時代の土器片が出土しているが、包含層に掘り込まれているため、流れ込みの可能性が大きい。

2号土坑（第４３・６７図、写真図版１１・３０）

（位置）Ｈ－３４　（切り合い）東側を撹乱に切られている。　（規模と形態）現存径約１．０８ｍ×０．９３ｍ、深さ約０．１８ｍ。長円形と思われる。　（遺物）土師器の小片が数点出土したが、図示できたものは皿（1）のみである。全て浮いた状態で出土。　（時期）不明

3号土坑（第４３図、写真図版１１）

（位置）Ｉ－３４　（残存）南側が調査区外に伸びる。　（規模と形態）現存径約０．９ｍ×３．３５ｍ、深さ約０．３５ｍ。長円形か。　（遺物）覆土から土器の小片１点出土したが図示不能。　（時期）不明

4号土坑（第４３・６７図、写真図版１１・３０）

（位置）Ｈ・Ｉ－３０・３１　（切り合い）１４号畝と重複。　（規模と形態）径約２．５８ｍ×１．４３ｍ、深さ約０．３５ｍ。長細い不整形。　（遺物）少ないが、石の下からも出土した。高台付坏（1）・(2)・(3）が底に近い覆土から出土。　（時期）９世紀後半　（備考）覆土中に径約０．１～０．５ｍの自然石がやや中央にまとまって出土。

5号土坑（第４３・６８図、写真図版１１・３０）

（位置）Ｅ－２０　（規模と形態）径約１．７９ｍ×１．５ｍ、深さ約０．２１ｍ。やや不整な円形。　（遺物）比較的多い。完形の皿（4）・(5）や、羽口片（8）が出土した。覆土から鍛錬鍛冶の炭汁の可能性があるもの（資料№１４）が出土。　（時期）１１世紀後半　（備考）覆土に焼土・炭化物が多く含まれている。

6号土坑（第４５図、写真図版１１）

（位置）Ｇ－２１　（規模と形態）径約０．８８ｍ×０．８２ｍ、深さ約０．２３ｍ。不整形。　（遺物）覆土の確認面を中心に約１８点出土。ほとんどがＳ字状口縁台付甕の破片である。　（時期）古墳時代前期か

7号土坑（第４５図、写真図版１１）

（位置）Ｆ－１４　（規模と形態）　（遺物）８点出土したが、全て小片である。古墳時代の甕片と平安時代の坏片が混在。　（時期）不明　（備考）覆土中に径約０．２ｍ以下の自然石がある。

1号溝（第４５・６８図、写真図版１２・３１）

（位置）Ｃ～Ｅ－１２・１３　（切り合い）１号住居跡を切る。南側は調査区外に伸びる。北側は、旧河道にぶつかる。　（規模と形態）現存長約１１．６ｍ、幅約１．５６ｍ～１．９５ｍ、深さ約０．２７ｍ。南から北へほぼ直線的に流れる。　（遺物）量は少なく、全て破片である。古墳時代と平安時代の土器が混在する。　（時期）不明　（備考）覆土に径約０．２３ｍ以下の自然石がある。

2号溝（第４６・６８図、写真図版１２・３１）

（位置）Ｃ～Ｅ－１０・１１　（切り合い）南側は調査区外に伸びる。北側は、旧河道にぶつかる。　（規模と形態）現存長約１０．６２ｍ、幅約０．９９ｍ～２．２５ｍ、深さ０．５７ｍ。南から北へほぼ直線的に流れる。　（遺物）全て破片で、磨耗しているものが多い。平安時代の坏（1）、古墳時代の高坏（2）、同壺（3）・(4）・(5）・(6）などが覆土から出土。　（時期）不明　（備考）中央より南側の覆土上層に径約０．４５ｍ以下の自然石が集中する。土層堆積から水が流れていた時期があったと考えられる。

3号溝（第４６・６８図、写真図版１３・３１）

（位置）Ｄ―９　（切り合い）東側が旧河道にぶつかる。　（規模と形態）　現存長約３．１８ｍ、最大幅約１．１ｍ、深さ約０．３６ｍ。南西から北東に直線的に流れる。　（遺物）約２０点出土しているが、全て溝の落ち込む際からである。

図示できたのは、古墳時代の器台（1）のみである。　（時期）不明　（備考）本溝と旧河道がぶつかる手前に径約0．15m以下の石が集中するが、底よりも浮いている。

4号溝（第47・69図、写真図版13・31、口絵4）

（位置）G～I－31～35　（切り合い）東・西両端は、調査区外に伸びる。途中撹乱に切られる。　（規模と形態）現存長約21．27m、幅約0．35m×1．41m、深さ約0．36m。北東から南西にほぼ直線的に流れる。　（遺物）約21点と少ない。西端と東端の2箇所にやや集中がみられる。覆土の上位からの出土がほとんどだが、須恵器甕（7）は下位から出土している。　（時期）不明　（備考）西端に径約0．4m以下の自然石の集中があるが、底より約0．2m上と浮いている。焼土の集中が2箇所あり、1つは西端の石集中箇所で、石とほぼ同レヴェルか下位にあるが、底より約0．1m以上浮いている。もう1つは東端近くで溝の確認面近くにある。

5号溝（第47・69図、写真図版13・31）

（位置）F～I－28　（切り合い）南・北端が調査区外に伸びる。　（規模と形態）現存長約16．11m、幅約1．0m～2．04m、深さ約0．25m。北から南にやや弧を描くように流れる。　（遺物）7点出土で、図示できたのは坏（1）・（2）のみである。覆土中から出土。　（時期）不明　（備考）中央の径約0．45mと0．8mの石は地山の石である。

6号溝（第47図）

（位置）F－19　（切り合い）16号住居跡と重複。　（規模と形態）現存長約1．98m、幅約0．66m～0．78m、深さ約0．11m。　（遺物）2点出土したが小片のため図示不能。　（時期）不明

流れ跡（第47・69図、写真図版13・31）

（位置）G－28・29　（規模と形態）径約4．65m×1．8mの範囲で、縁がギザギザしたような不整形。深さ約0．3m。　（遺物）約7点出土。ほとんどが磨耗している。坏（1）・（2）は底近く、青磁（3）は確認面近くから出土。　（時期）不明　（備考）覆土は砂礫である。流水の作用で抉れたような掘り込みである。

1～14号畝（第48・69図、写真図版31）

F～H－30～34に14条確認した。ほぼ南北方向に伸びる。住居跡や撹乱と重複し、調査区外に伸びるものがある。現存長は3号が約8．4mと最長で、幅約0．3～0．8m、深さは0．1m前後と浅い。遺物は14号から皿（1）が出土したのみである。時期不明。

2．グリッド出土遺物（第69～71・80・82図、写真図版32～34、口絵4）

道路より東側の調査区は、第2次調査区同様に旧河道からは、古墳時代前期の高坏（27）・壺（10）、平安時代の坏（38）・（40）などが混在して出土している。古墳時代前期の遺物は、いくつか集中するところが見られる。D－9・10からは、壺（3）、S字状口縁台付甕（14）、高坏（24）・（25）、器台（29）・（31）、底部穿孔鉢（33）などが同レヴェルから出土している。また1号住居跡の西側のE・F－13からは、壺（1）・（4）・（8）・（9）・（12）・（20）、甕（19）、器台（30）などの破片が住居の確認面より下位から出土している。いずれの遺物も完形ではない。

西側の調査区からは、ほとんど古墳時代の遺物は出土しない。遺構に伴わない平安時代の遺物は2筋の旧河道とその間に多いが、ほとんどが小片である。坏（39）は13号住居跡に関連がある可能性もある。西側の旧河道からは、坏（37）、皿（43）、灰釉陶器碗（52）などが出土。旧河道の間からは、皿（41）、柱状高台皿（44）、砥石（53）などが出土したが、いずれも完形ではない。

第3節　第4次調査　2006（平成18）年度

C－29・E－27～29とE・F－33～36の3箇所以外の大部分が旧河道である。1号住居跡・1～3号ピッ

トは東端のE・F－３４・３５にある。遺構に伴わないが，古墳時代前期の土器がE・F－３３・３４で集中して出土する。

１．遺構

１号住居跡（第７２・７３図，写真図版１４・１５・３５）

（位置）E・F－３５　（切り合い）南東角が撹乱を受ける。　（規模）北壁約３．０３m，西壁約２．７m，深さ約０．２４m。やや長い隅丸方形。　（主軸方位）N－１２°－E　（カマド）南東角にあり，南側と上部は撹乱を受ける。石を主体としていたが，ほとんど元位置を保っていないと思われる。甕（８）・（９）が出土。　（その他の施設）ピット１は南西角にあり，住居の確認面から掘り込まれた径約０．５５m×０．４５m，床面からの深さ約０．３２mのほぼ円形の穴があり，中に長径約０．４５mの石が入っていた。覆土が１～３号ピットと同じことから，本住居跡に伴わない可能性がある。ほぼ中央に径約１．０m，深さ約０．１mの円形の掘り込みがある。　（遺物）やや少なく，全てが破片である。また床面から浮いている。鉄製品は中央付近から３点出土し，その内鉄鏃（１４）が床面上から出土。覆土中から古墳時代壺（第５７図１２）が出土したが，流れ込みと思われる。　（時期）１１世紀前半か

１号ピット（第７２図，写真図版１５）

（位置）E・F－３４・３５　（規模と形態）径約０．７m×０．４m，深さ約０．２m。長円形。　（遺物）なし　（時期）不明

２号ピット（第７２図，写真図版１５）

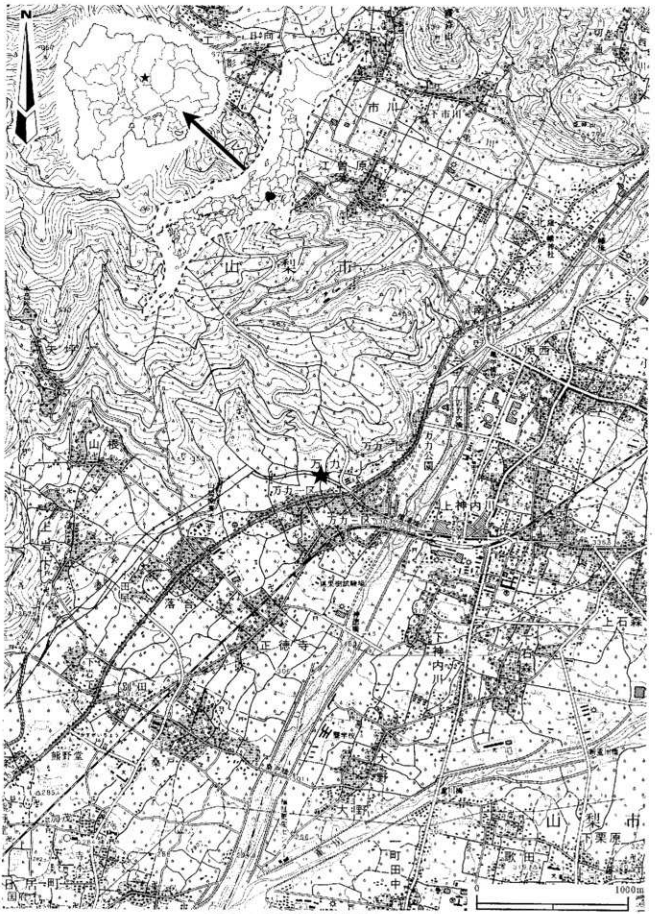
（位置）F－３４　（規模と形態）径約０．６m×０．５m，深さ約０．２１m。長円形。　（遺物）なし　（時期）不明

３号ピット（第７２図，写真図版１６）

（位置）F－３４　（規模と形態）径約０．３８m×０．２６m，深さ約０．１８m。不整形。　（遺物）なし　（時期）不明

２．グリッド出土遺物（第７４～７９・８３図，写真図版１６・３５～３９，口絵４）

旧河道からは，縄文時代・古墳時代・平安時代・中世の遺物が混在して出土する。旧河道の東岸附近，E・F－３３・３４では，約０．２～０．３mの高さの範囲に古墳時代前期の土器が約１５００点出土している。完形になるものはないが，５０％以上残存するものは，壺（７）・（１０），甕（４０）・（４１）・（４７），S字状口縁台付甕（３２）・（３３），高坏（５７），坏（６３），鉢（６４）・（６５）・（６９）などである。ほぼ完形の鳥形土製品（１０５）がF－３５から出土しているが，住居跡の確認面よりも約０．１５m上位にある。

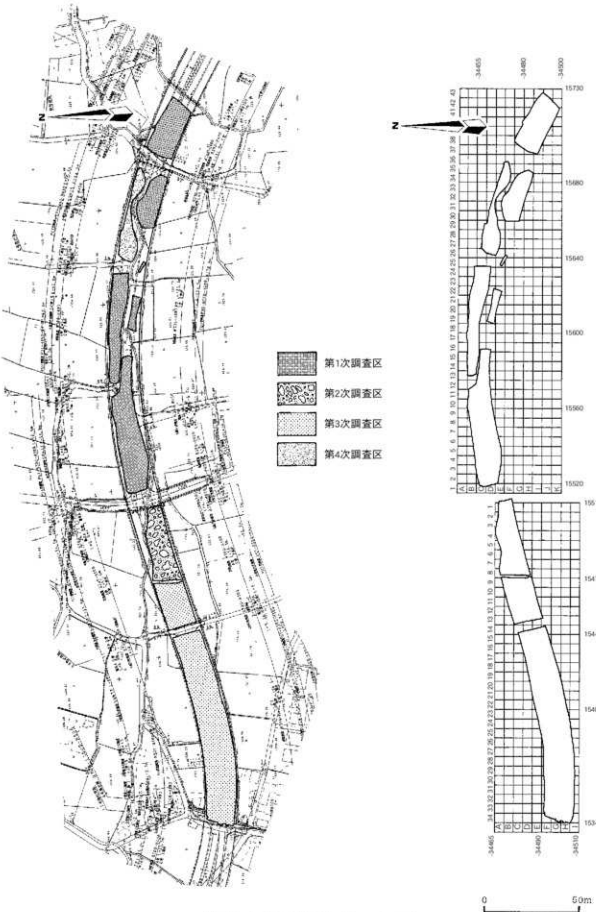


第1図　足原田遺跡位置図（S=1/25,000）

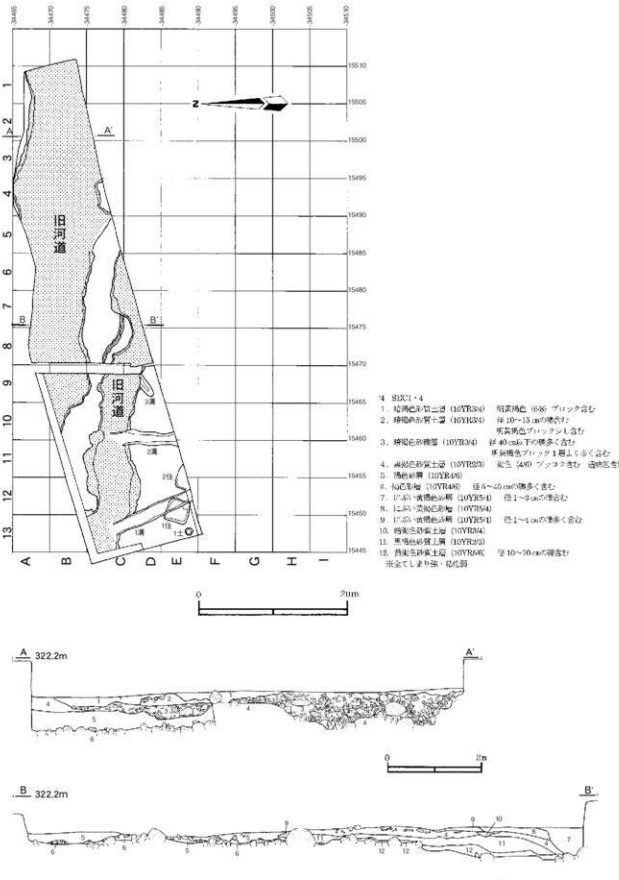
43. 間之田東遺跡（平安：散布地）　44. 天神前遺跡（縄文・平安・中世：散布地）　45. 間之田西遺跡（古墳・平安：散布地）　46. 原ノ前遺跡（奈良：散布地）　47. 長兵衛遺跡（縄文：散布地）　49. 金塚遺跡（縄文・平安：散布地）　50. 延命寺遺跡（弥生・古墳・平安：集落跡）　51. 千原田遺跡（古墳・平安：集落跡）　52. 地蔵久保遺跡（平安：散布地）　53. 欠之下遺跡（中世：散布地）　54. 花塚遺跡（平安・中世：散布地）　55. 落合市道遺跡（平安：散布地）　56. 正源寺前田遺跡（平安：散布地）　57. 林際遺跡（平安：散布地）　58. 居敷遺跡（平安・中世：散布地）　59. 堀之内遺跡（平安：散布地）　61. 半蛇池遺跡（古墳・平安・近世：散布地）　62. 田屋之前遺跡（平安：散布地）　63. 三枚遺遺跡（平安・中世：散布地）　64. 小武家遺跡（弥生・古墳・平安・中世：散布地）　65. 三宮寺遺跡（平安・中世：散布地）　66. 九ノ坂遺跡（平安・中世：散布地）　67. 五林尊遺跡（平安：散布地）　68. 竹塚遺跡（平安：散布地）　69. 竹塚遺跡（平安：散布地）　70. 塚越遺跡（古墳・中世：散布地）　71. 松原遺跡（中世：散布地）　72. 日下部神社前遺跡（古墳：散布地）　73. 八千子遺跡（縄文：散布地）　98. 前田遺跡（平安：散布地）　99. 宮ノ上遺跡（平安：散布地）　110. 天神前東遺跡（縄文・平安：散布地）　111. 高橋遺跡（縄文・弥生・古墳・平安：集落跡）　112. 樽木田遺跡（平安：散布地）　113. 宗高北遺跡（平安：散布地）　114. 宗高新遺跡（弥生・古墳：散布地）　115. 宗高西遺跡（古墳：散布地）　116. 天神前北遺跡（平安：散布地）　117. 市道遺跡（平安：散布地）　118. 杉ノ木遺跡（古墳・平安：集落跡）　119. 森林遺跡（古墳・平安：散布地）　120. 宗高東遺跡（縄文・弥生：散布地）　121. 屋敷前遺跡（縄文・平安・中世：散布地）　122. 上石寺線遺跡（縄文・平安：散布地）　123. 宮ノ前遺跡（平安：散布地）　124. 上黒木遺跡（奈良・平安・中世：散布地）　150. 長源寺前古墳（古墳：古墳）　155. 竹塚古墳（古墳：古墳）　156. 稲荷塚古墳（古墳：古墳）　162. 富士塚（近世：塚）　172. 落合館跡（中世：城館跡）　174. 秋葉権現館跡（中世：城館跡）　177. 安田義定館跡（中世：城館跡）　180. 大野館跡（中世：城館跡）　184. 番行場（近世：場跡遺跡）　187. 足原田遺跡（古墳・平安・中世：集落跡ヨカ）

引用文献　山梨市　2005『山梨市史　史料編　考古・古代・中世』

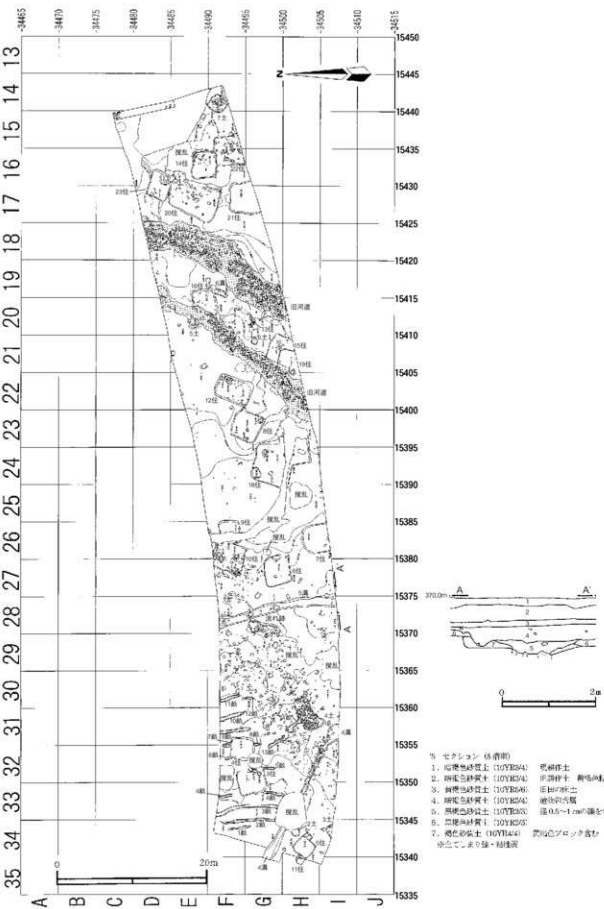
第2図　周辺の遺跡（S=1/20,000）



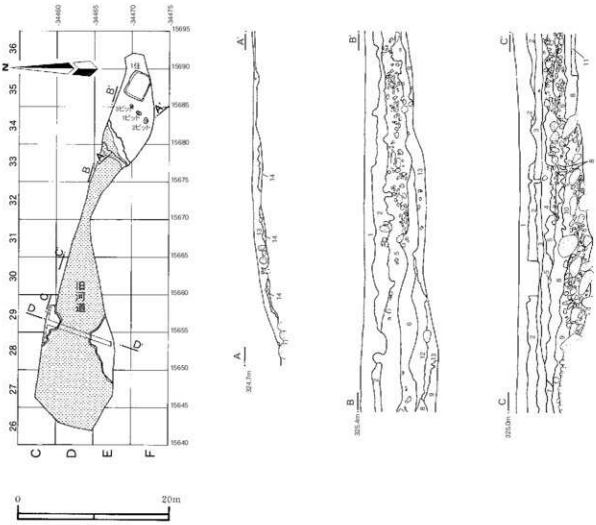
第3図　調査区位置図（S＝1/2,000）

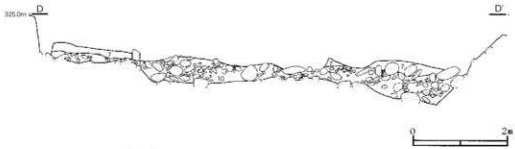


第4図　第2次・第3次（1）　全体図（1/500・1/80・1/100）



第5図　第3次（2）　全体図（1/500・1/80）



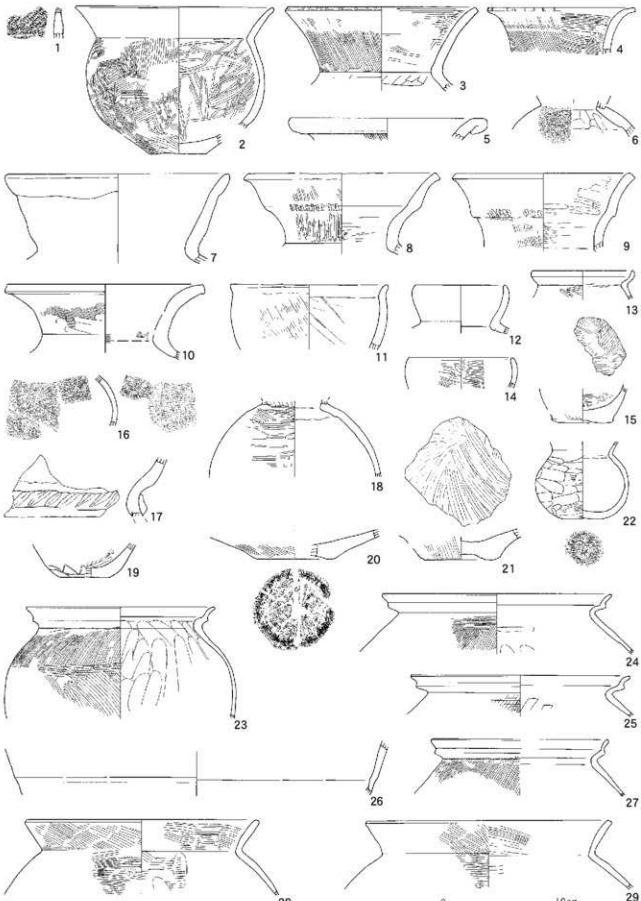


'6 壁

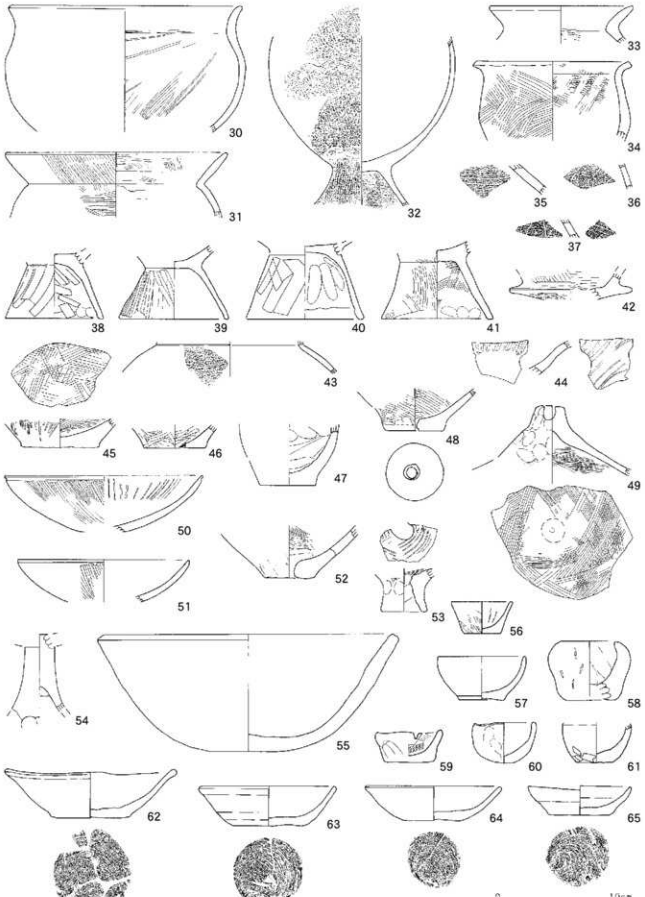
1. 褐色砂質土（10YR4/4） 瓦脇作土
2. 黄褐色砂質土（10YR5/6） 瓦脇の床土
3. 褐色砂質土（10YR4/4） 瓦脇作土
4. 褐色砂質土（10YR4/6） 田地の床土
5. 黄砂砂（10YR7/8） 細礫～小礫含む 遺物若干含む
6. にぶい黄褐色砂（10YR4/3） 細礫～巨礫含む 遺物若干含む
7. 暗褐色砂質土（10YR3/4） 遺物若干含む
8. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3） 黄褐色砂少量含む
9. 黄色砂（10YR4/6）
10. 褐色砂（10YR4/6） 細礫～巨礫含む
11. 暗黒色砂質土（10YR3/4）
12. 灰黄褐色砂（10YR6/2）
13. 黒褐色砂質土（10YR2/3） 炭粒や炭あり 焼土粒含む 古墳期遺物包含層
14. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4） 地山

※13層以外、しまり無・粘性弱

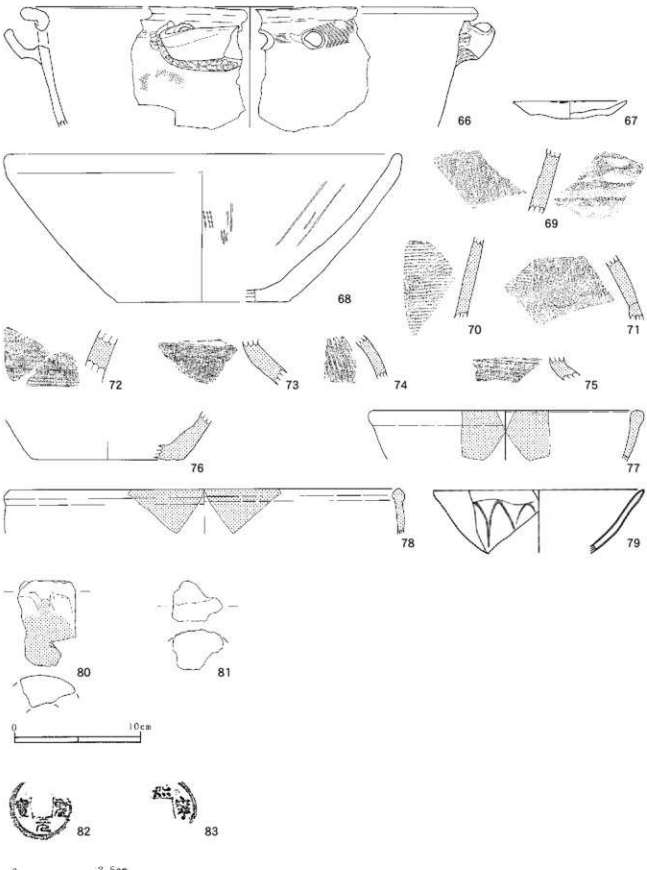
第6図　第4次　全体図（1/500・1/80）



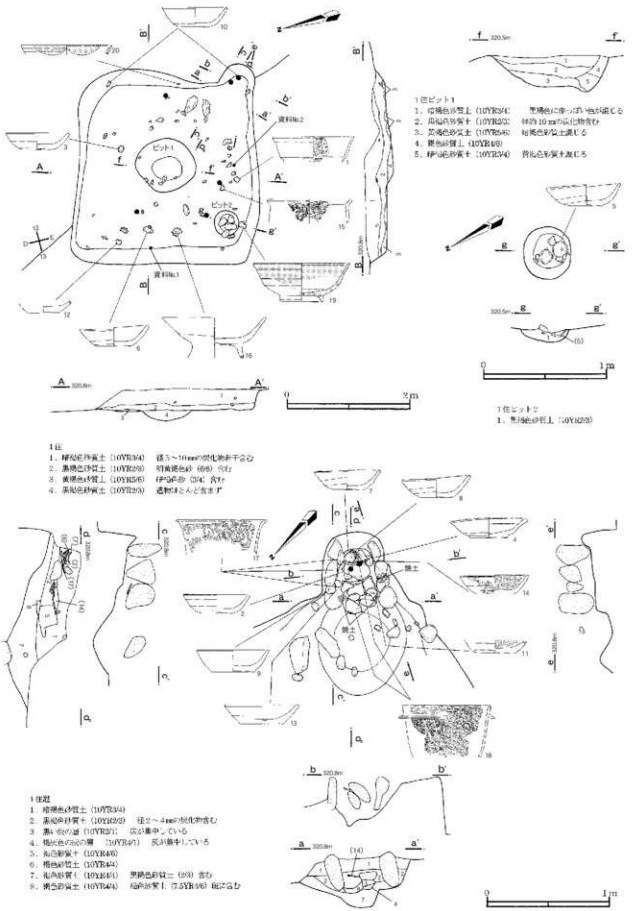
第7図　第2次　グリッド出土遺物（1）



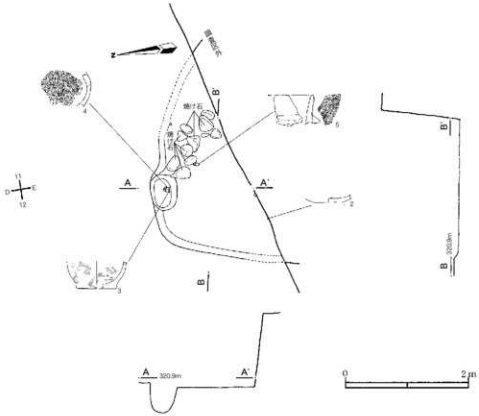
第8図　第2次　グリッド出土遺物（2）



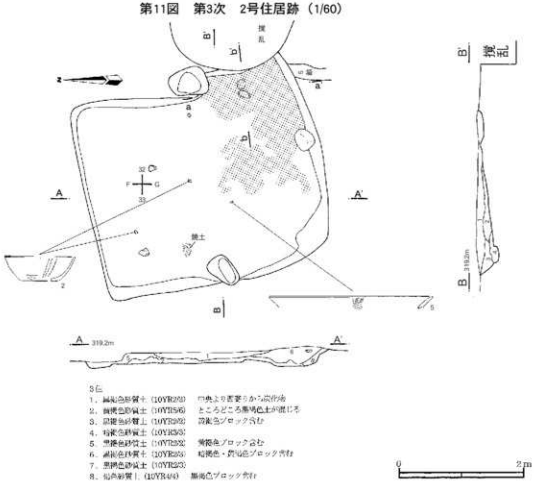
第9図　第2次　グリッド出土遺物（3）



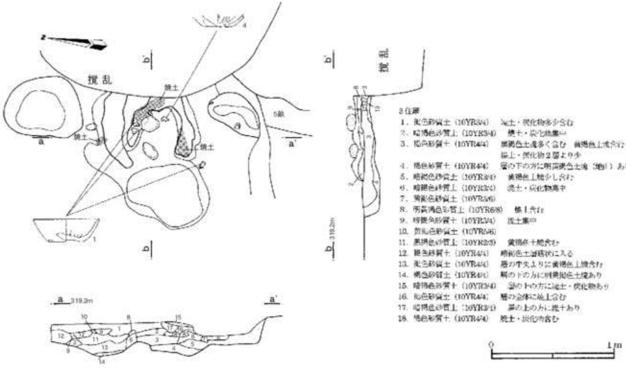
第10図　第3次　1号住居跡・カマド（1/60・1/30）



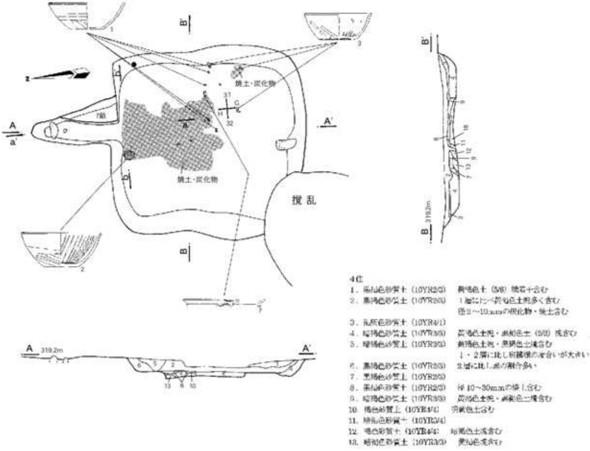
第11図　第3次　2号住居跡（1/60）



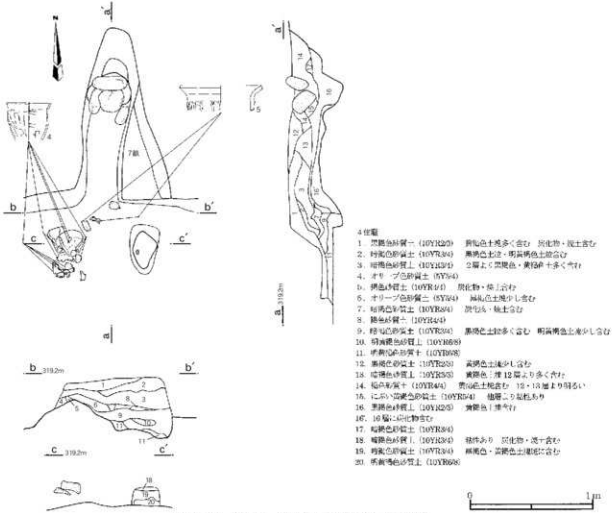
第12図　第3次　3号住居跡（1/60）



第13図　第3次　3号住居跡カマド (1/30)

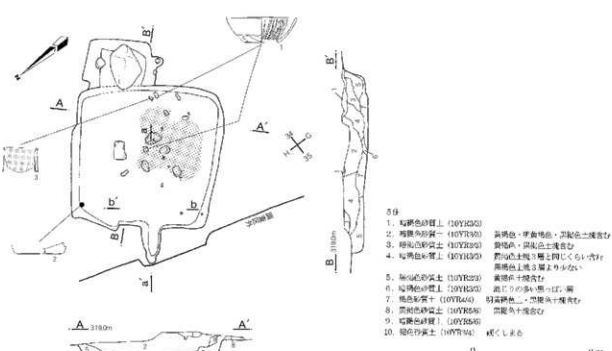


第14図　第3次　4号住居跡 (1/60)



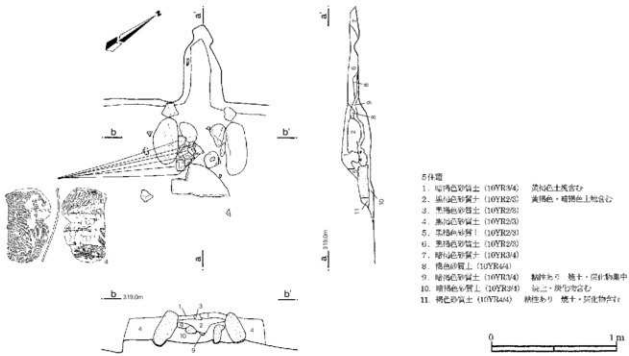
4住層
1. 黒褐色砂質土（10YR2/2）　黄色土塊多く含む　炭化物・焼土含む
2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）　黒褐色土主・黄褐褐色土部含む
3. 暗褐色砂質土（10YR3/3）　2層より黒褐色・黄褐砂土多く含む
4. オリーブ色砂質土（5Y5/4）
b. 褐色砂質土（10YR4/4）　炭化物・焼土含む
5. オリーブ色砂質土（5Y5/4）　褐色土塊少し含む
7. 暗褐色砂質土（10YR3/4）　砂礫混・粘土含む
8. 褐色砂質土（10YR4/4）
9. 暗褐色砂質土（10YR3/4）　黒褐色土部多く含む　暗黄褐色土塊少し含む
10. 明黄褐色砂質土（10YR6/8）
11. 褐黄色砂質土（10YR6/8）
12. 黒褐色砂質土（10YR2/3）　黄褐色土塊少し含む
13. 暗褐色砂質土（10YR3/3）　黄褐色ブロック12層より多く含む
14. 褐色粘質土（10YR4/4）　黄褐色土粒含む　12・13層より明るい
15. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）　他層より粘土あり
16. 黒褐色砂質土（10YR2/3）　黄褐色ブロック含む
17. 16層に炭化物含む
18. 暗褐色砂質土（10YR3/4）
19. 暗褐色砂質土（10YR3/4）　粘性あり　炭化物・焼土含む
20. 褐色砂質土（10YR4/4）　暗褐色・黄褐色土塊混じり含む
21. 黒褐色砂質土（10YR3/2）

第15図　第3次　4号住居跡カマド（1/30）

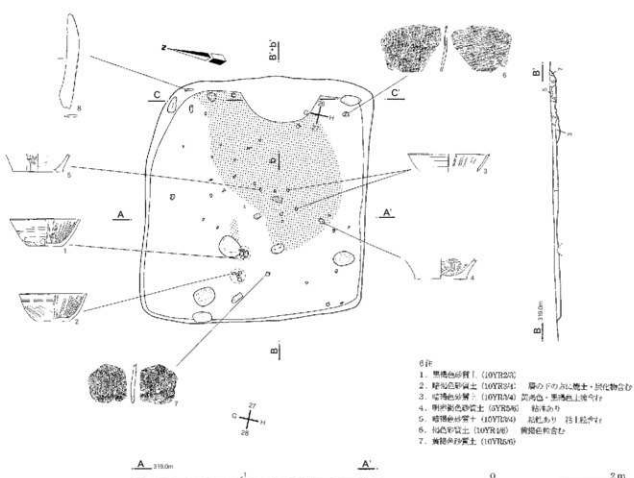


5住
1. 暗褐色砂質土（10YR3/3）
2. 暗黄色砂質ー（10YR3/3）　黄褐色・黄灰褐色・黒褐色土塊含む
3. 暗褐色砂質土（10YR3/3）　黄褐色・黄灰色土塊含む
4. 暗褐色粘質土（10YR3/3）　黄褐色土塊3層と同じくらい含む　黄褐色土塊3層よりも少ない
5. 褐灰色砂質土（10YR5/1）　黄褐色土塊含む
6. 暗褐色砂質土（10YR3/3）　直径1cmの赤い焼土粒、褐
7. 褐色粘質土（10YR4/4）　明黄褐色ー・黒褐色土塊含む
8. 黒褐色砂質土（10YR3/2）　黒褐色土塊含む
9. 暗褐色砂質土（10YR3/3）
10. 褐色砂質土（10YR4/4）　6とくしまる

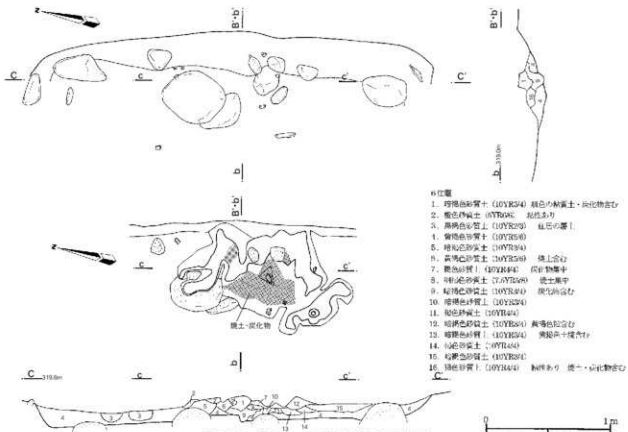
第16図　第3次　5号住居跡（1/60）



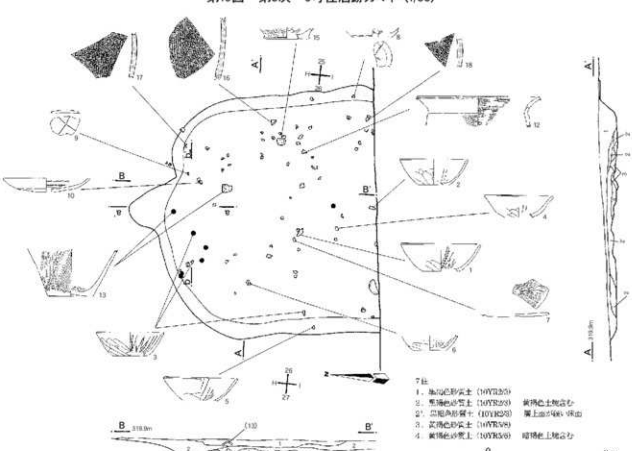
第17図　第3次　5号住居跡カマド（1/30）



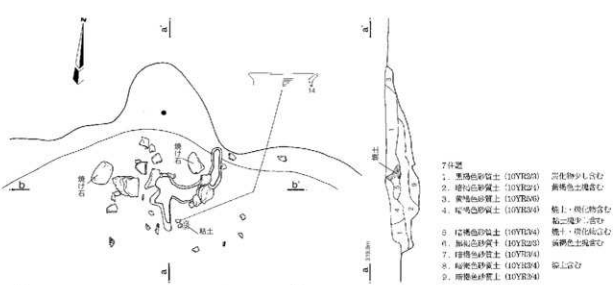
第18図　第3次　6号住居跡（1/60）



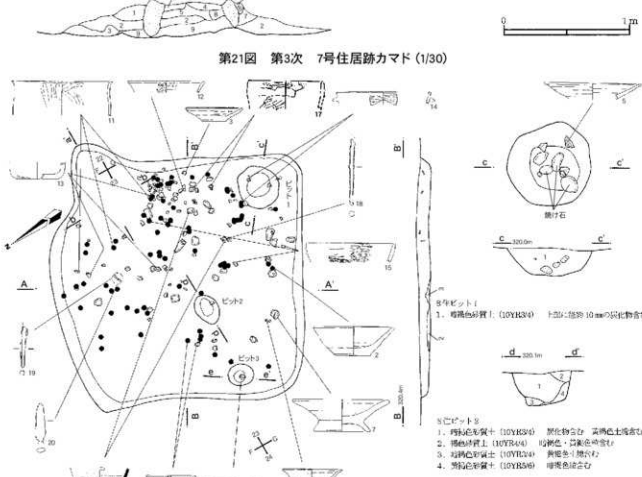
第19図　第3次　6号住居跡カマド (1/30)



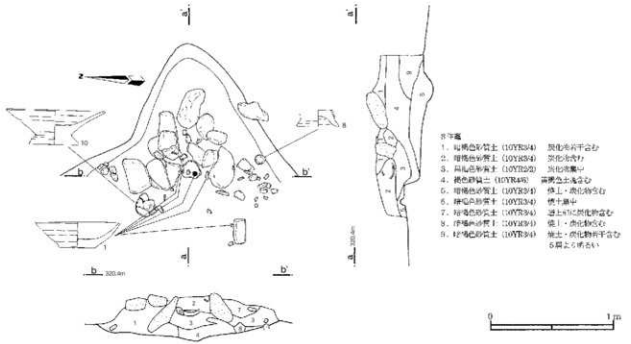
第20図　第3次　7号住居跡 (1/60)



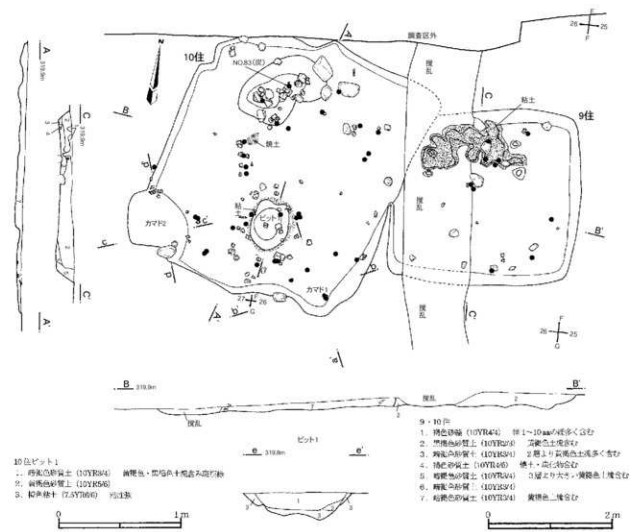
第21図　第3次　7号住居跡カマド (1/30)



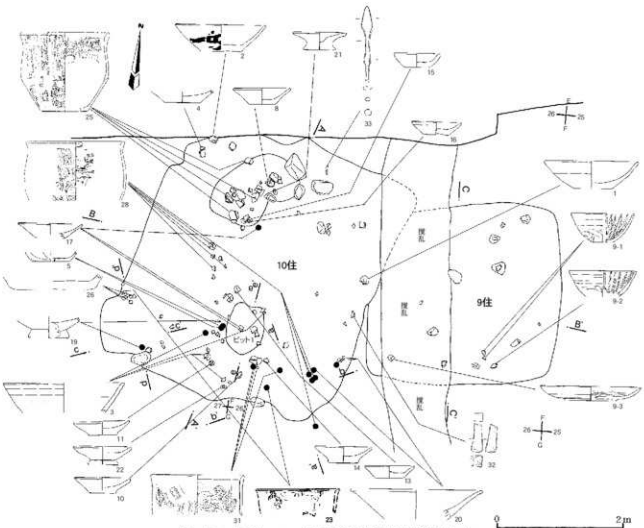
第22図　第3次　8号住居跡 (1/60)



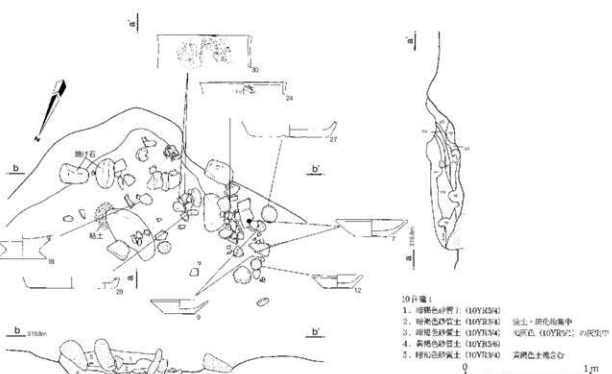
第23図　第3次　8号住居跡カマド (1/30)



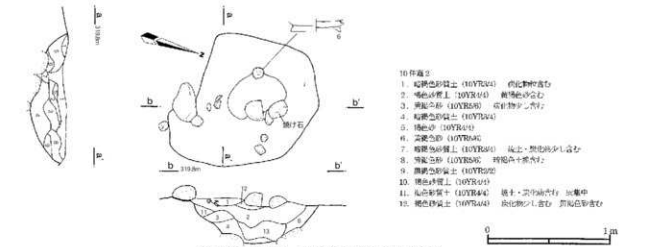
第24図　第3次　9・10号住居跡 (1/60)



第25図　第3次　9・10号住居跡遺物出土状況 (1/60)

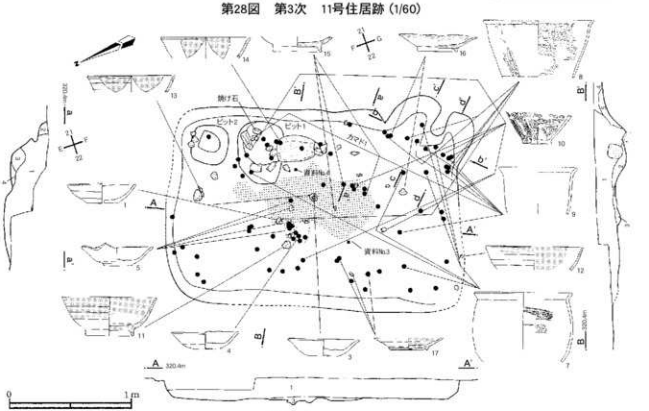


第26図　第3次　10号住居跡カマド1 (1/30)

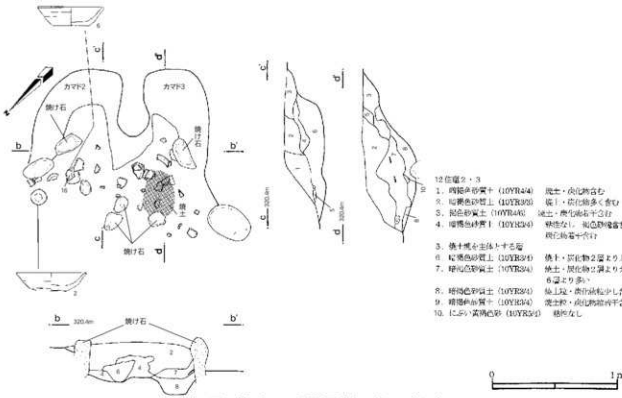


第27図　第3次　10号住居跡カマド2 (1/30)

第28図　第3次　11号住居跡 (1/60)

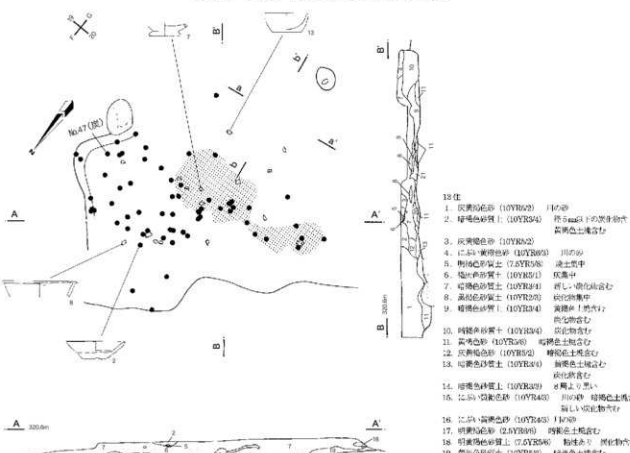


第29図　第3次　12号住居跡・カマド1 (1/60・1/30)



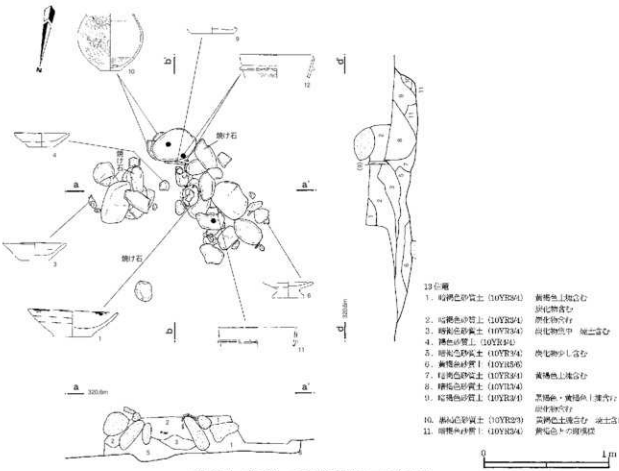
12住覆土・3
1．明褐色砂質土（10YR4/4）　焼土・炭化物含む
2．暗褐色砂質土（10YR3/3）　焼土・炭化物多く含む
3．黒色砂質土（10YR2/3）　焼土・炭化物多く含む
4．暗褐色砂質土（10YR3/4）　軟質ない、炭化物微量含む
　炭化物多く含む
3．焼土層を主体とする層
6．暗褐色砂質土（10YR3/4）　焼土・炭化物2層より大
7．暗褐色砂質土（10YR3/4）　焼土・炭化物2層より大、
　6層より多い
8．暗褐色砂質土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物粒少し含む
9．暗褐色砂質土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物粒中含む
10．にぶい黄褐色砂（10YR5/4）　粘性なし

第30図　第3次　12号住居跡カマド2・3 (1/30)

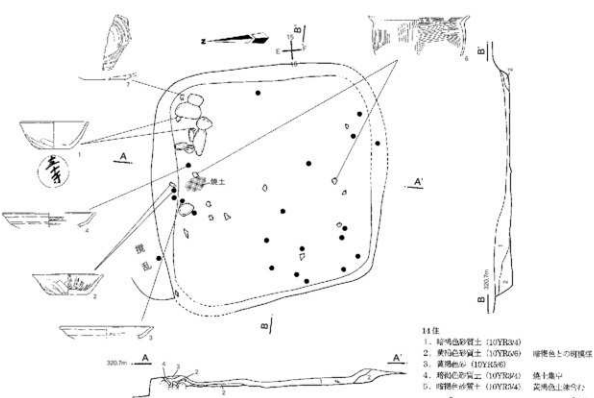


13住
1．灰黄褐色砂（10YR6/2）　炉の砂
2．暗褐色砂質土（10YR3/4）　径5mm以下の炭化物含む
　黄褐色土塊含む
3．灰黄褐色砂（10YR6/2）
4．にぶい黄褐色砂（10YR6/3）　炉の砂
5．明褐色砂質土（7.5YR5/8）　焼土層中
6．褐色砂質土（10YR5/1）　灰層中
7．暗褐色砂質土（10YR3/4）　若しい炭化物含む
8．黒褐色砂質土（10YR2/3）　炭化物層中
9．暗褐色砂質土（10YR3/4）　黄褐色ブロック
　炭化物含む
10．褐色砂質土（10YR4/4）　炭化物含む
11．黄褐色砂（10YR5/6）　暗褐色土粒含む
12．灰黄褐色砂（10YR5/2）　暗褐色土粒含む
13．暗褐色砂質土（10YR3/4）　褐褐色土塊含む
　炭化物含む
14．暗褐色砂質土（10YR3/3）　6層より若い
15．にぶい黄褐色砂（10YR4/3）　炉の砂　暗褐色土塊含む
　若しい炭化物含む
16．にぶい黄褐色砂（10YR4/3）　炉の砂
17．明褐色砂（2.5YR6/6）　暗褐色土粒含む
18．明黄褐色砂質土（7.5YR5/6）　褐色土ロ　炭化物含む
19．黒褐色砂（10YR3/6）　暗褐色土塊含む
20．暗褐色砂質土（10YR3/4）　暗褐色ブロック
21．褐色砂質土（10YR4/4）　黄褐色土塊含む　炭化物含む

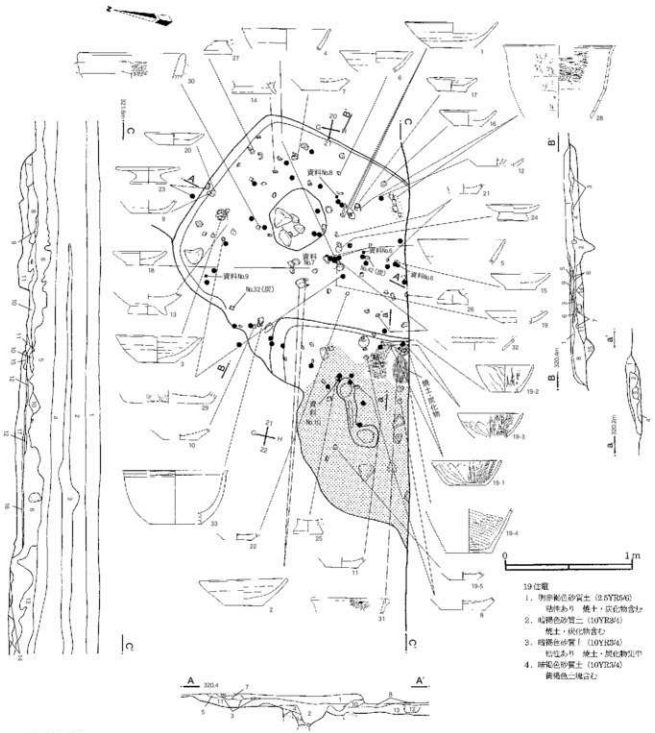
第31図　第3次　13号住居跡 (1/60)



第32図　第3次　13号住居跡カマド (1/30)



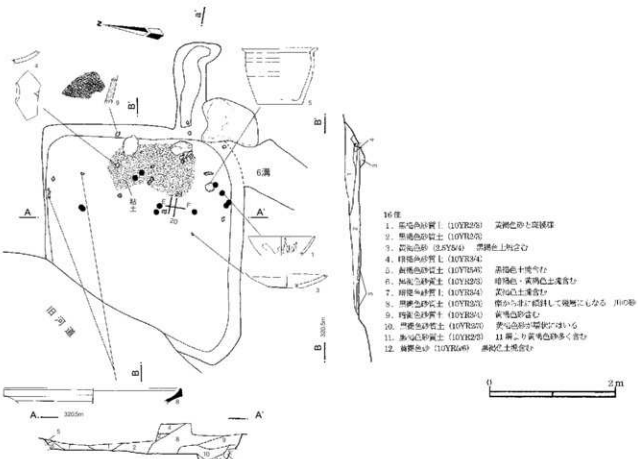
第33図　第3次　14号住居跡 (1/60)



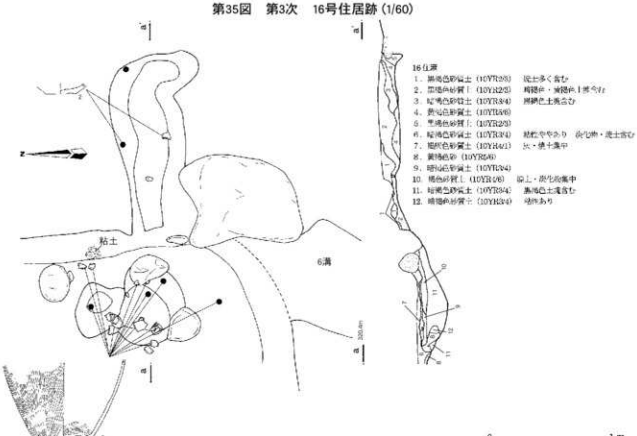
15・19共（竈）
1．暗褐色砂質土（10YR3/4）　焼作土
2．黄褐色砂質土（10YR5/6）　竈の崩土
3．暗褐色砂質土（10YR3/4）　掘削作土
4．黄褐色砂質土（10YR5/6）　竈の崩土
5．にぶい黄橙色砂（10YR6/3）　川の砂　13層よりも粗い
6．暗褐色砂質土（10YR3/4）　炭化物少し含む
7．暗褐色砂質土（10YR3/3）　8層より黒い
8．暗褐色砂質土（10YR3/4）
9．暗褐色砂質土（10YR3/4）　焼土・炭化物含む中
10．暗褐色砂質土（10YR3/4）　炭化物・遺物少し含む
11．暗褐色砂質（10YR3/4）　黄褐色・地山ブロック含む
12．暗褐色砂質土（10YR3/4）　炭化物含む　焼土含む
13．にぶい黄褐色砂（10YR5/3）　川の砂　径約1mmの礫　暗褐色砂含む
14．黄褐色砂（2.5Y5/4）　暗褐色砂含む
15．赤褐色砂質土（5YR4/6）　19住カマドの焼土
16．暗褐色砂質土（10YR3/4）　19住竈の焼土層
17．褐色砂質土（10YR4/6）　黄褐色土塊含む

15住
1．暗褐色砂質土（10YR3/4）　炭化物含む
2．暗褐色砂質土（10YR3/4）
3．暗褐色砂質土（10YR3/4）　地山ブロック
4．暗褐色砂質土（10YR3/4）　黄褐色土粒含む
5．暗褐色砂質土（10YR3/4）
6．黄色砂質土（5Y7/6）　炭を含む
7．暗褐色砂質土（10YR3/4）　焼土・炭化物含む
8．暗褐色砂質土（10YR3/4）　褐色・黄褐色土粒含む　炭化物少し含む
9．暗褐色砂質土（10YR3/4）　炭化物含む
10．暗褐色砂質土（10YR3/4）　黄色粒少し　黄褐色ブロック含む
11．暗褐色砂質土（10YR3/4）　黄褐色土塊含む
12．暗褐色砂質土（10YR3/4）
13．黄褐色砂質土（10YR5/6）　暗褐色・褐色土粒ブロック含む
14．黄褐色砂質土（10YR5/6）　暗褐色土塊含む
15．黄褐色砂質土（10YR5/6）
0
2m

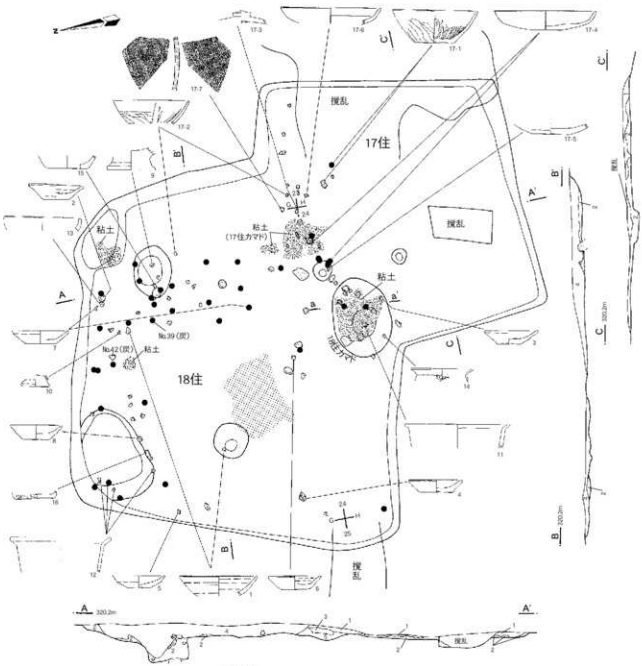
第34図　第3次　15・19号住居跡（1/60）



第35図　第3次　16号住居跡（1/60）



第36図　第3次　16号住居跡カマド（1/30）



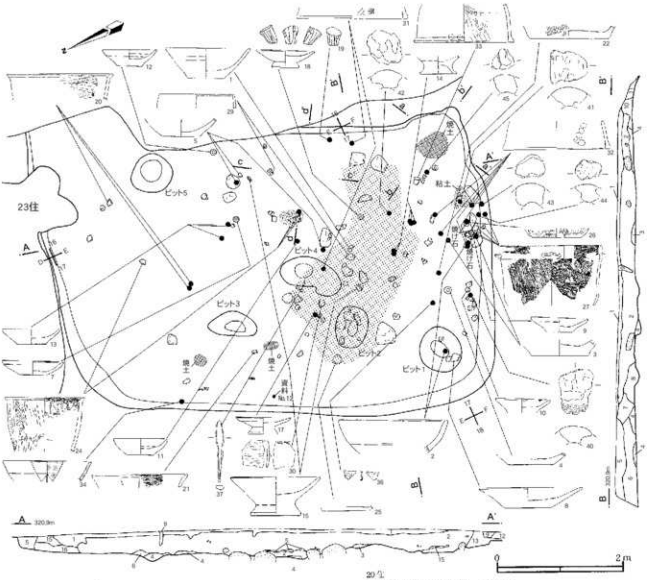
17・18住
1. 灰褐色砂質土 (10YR5/3)　炭化物含む　黄褐色土塊含む
2. 黄褐色砂質土 (10YR5/6)
3. 褐色砂質土 (10YR5/4)　焼土・炭化物微量
4. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)　黄褐色粒含む
5. 暗褐色砂質土 (10YR3/4)　黄褐色土塊含む

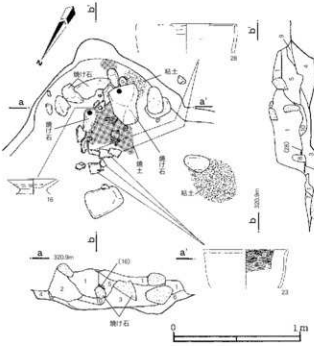
0　2m

18住カ
1. 暗褐色粘質土 (10YR3/4)　焼土・炭化物多く含む　黄褐色土塊含む
2. 褐色砂質土 (10YR4/4)　粘土による貼床
3. 暗褐色粘質土 (10YR3/4)　黄褐色土塊含む
4. 暗褐色粘質土 (10YR3/4)

0　1m

第37図　第3次　17・18号住居跡・カマド(1/60・1/30)





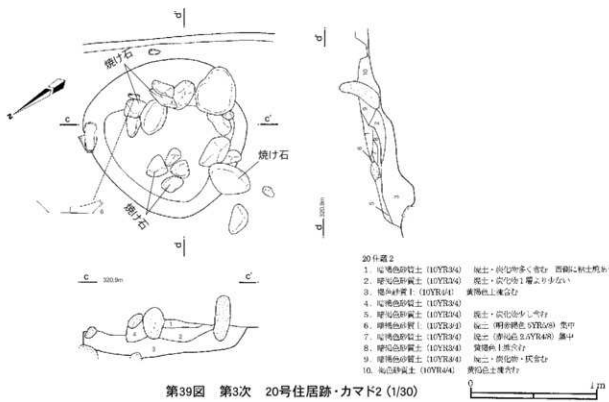
20住

1. 暗褐色砂質土（10YR3/4） 炭化物含む
2. 暗褐色砂質土（10YR3/4） 炭化物含む 黄褐色土塊含む
3. 暗褐色砂質土（10YR3/4） 炭化物・焼土含む 黒褐色混じる
4. 黄褐色砂質土（10YR5/6） 暗褐色土塊含む
5. 暗褐色砂質土（10YR3/4）
6. 暗褐色砂質土（10YR3/4） 5層より黒い 黄褐色土塊含む
7. 暗褐色砂質土（10YR3/4） 黒褐色・黄褐色土塊含む
8. 暗褐色砂質土（10YR3/4） 大きめの炭化物含む 焼土含む 黄褐色土塊含む
9. 褐色砂質土（10YR4/4）
10. 褐色砂質土（10YR4/4） 暗褐色土塊含む
11. 黄褐色砂質土（10YR5/6）
12. 黒褐色砂質土（10YR2/3） 暗褐色土塊含む
13. 黒褐色砂質土（10YR2/3） 黄褐色土塊含む
14. 暗褐色砂質土（10YR3/4） 焼土集中 炭化物多く含む
15. 暗褐色砂質土（10YR3/4） 炭化物少し含む 1層より砂っぽい
16. 黄褐色砂 （2.5YR5/6） 炭化物少し含む

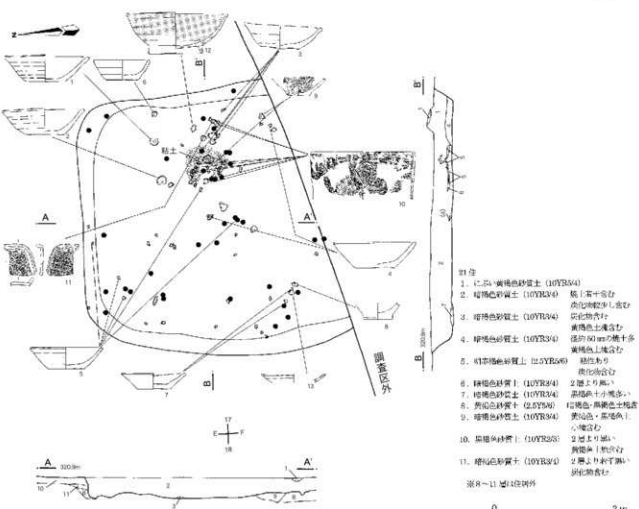
20住床1

1. 暗褐色砂質土（10YR3/4） 焼土・炭化物少し含む
2. 暗褐色砂質土（10YR3/4） 焼土・炭化物1層より多い 粘土含む
3. 褐色砂質土（10YR4/4） 大きめの焼土・炭化物含む 黄褐色土塊含む
4. 黄褐色砂質土（10YR5/6） 暗褐色土塊含む
5. 黒褐色砂質土（10YR2/3） 5層より黒い 焼土・炭化物含む 暗褐色土塊含む
6. 黒褐色砂質土（10YR2/3） 暗褐色・黄褐色土塊含む
7. 黄褐色砂質土（10YR5/6） 暗褐色土塊含む
8. 黄褐色砂質土（10YR5/6） 炭化物含む 暗褐色土塊含む
9. 褐色砂質土（10YR4/4） 焼土・炭化物少し含む 黄褐色土塊含む
10. 暗褐色砂質土（10YR3/4） 炭化物少し

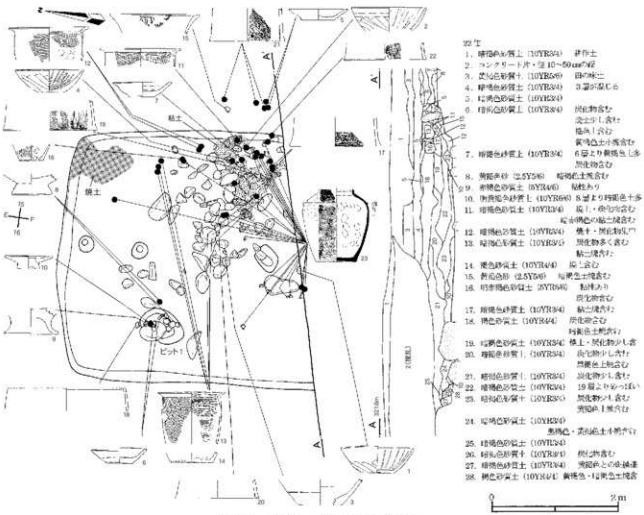
第38図　第3次　20号住居跡・カマド1（1/60・1/30）



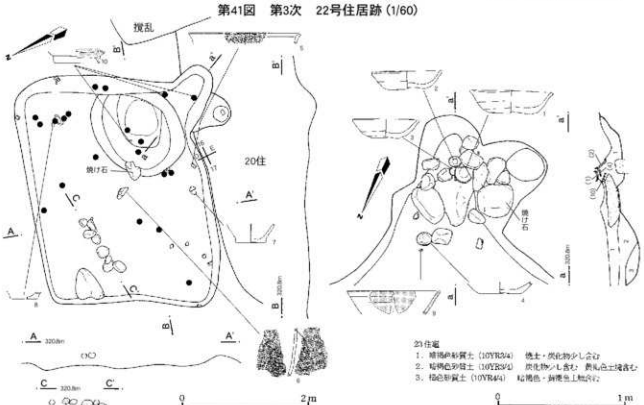
第39図　第3次　20号住居跡・カマド2 (1/30)



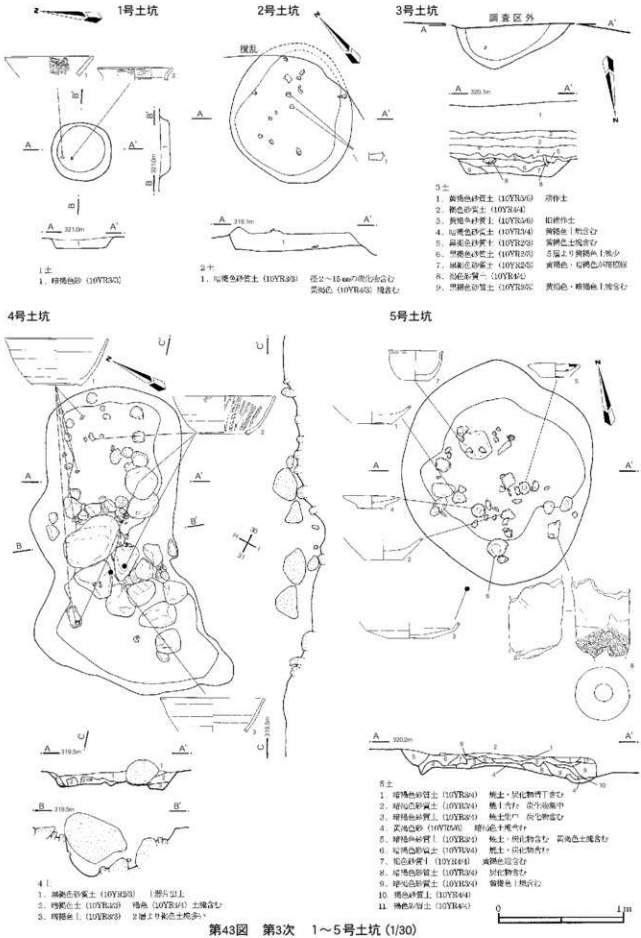
第40図　第3次　21号住居跡 (1/60)



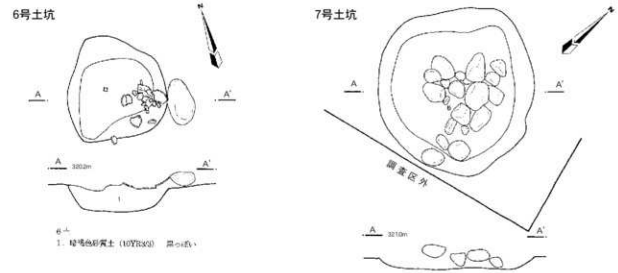
第41図　第3次　22号住居跡（1/60）



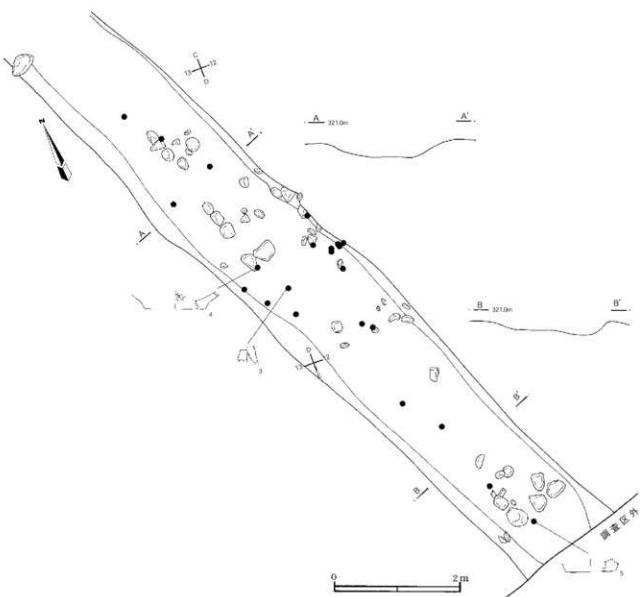
第42図　第3次　23号住居跡・カマド（1/60・1/30）



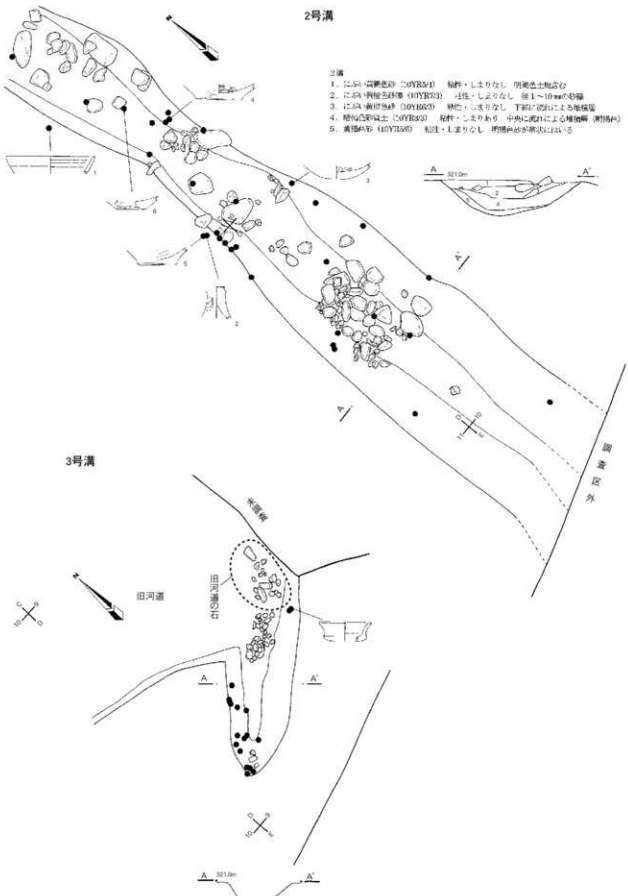
第43図　第3次　1～5号土坑 (1/30)



第44図　第3次　6・7号土坑 (1/30)

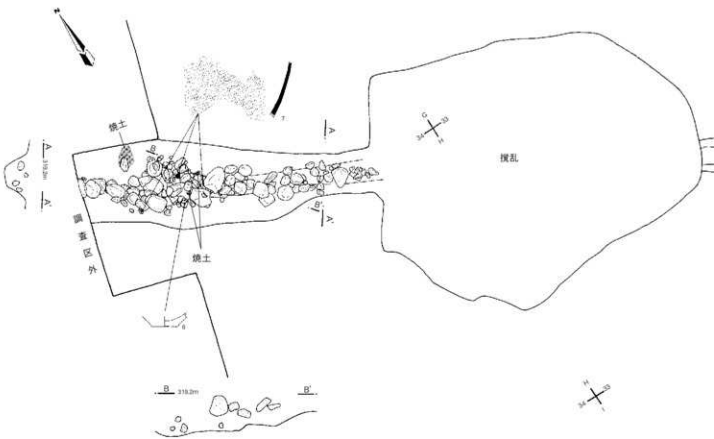


第45図 第3次 1号溝 (1/60)

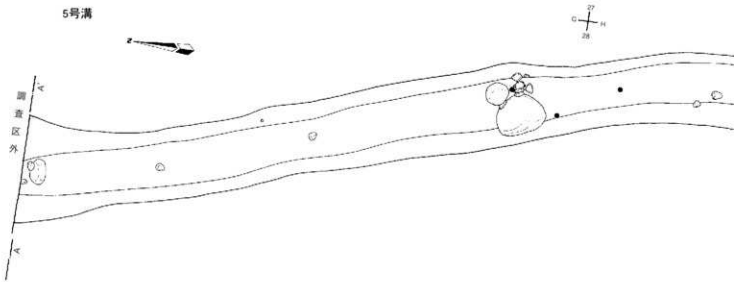


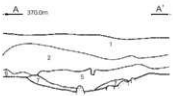
第46図 第3次 2･3号溝(1/60)

4号溝



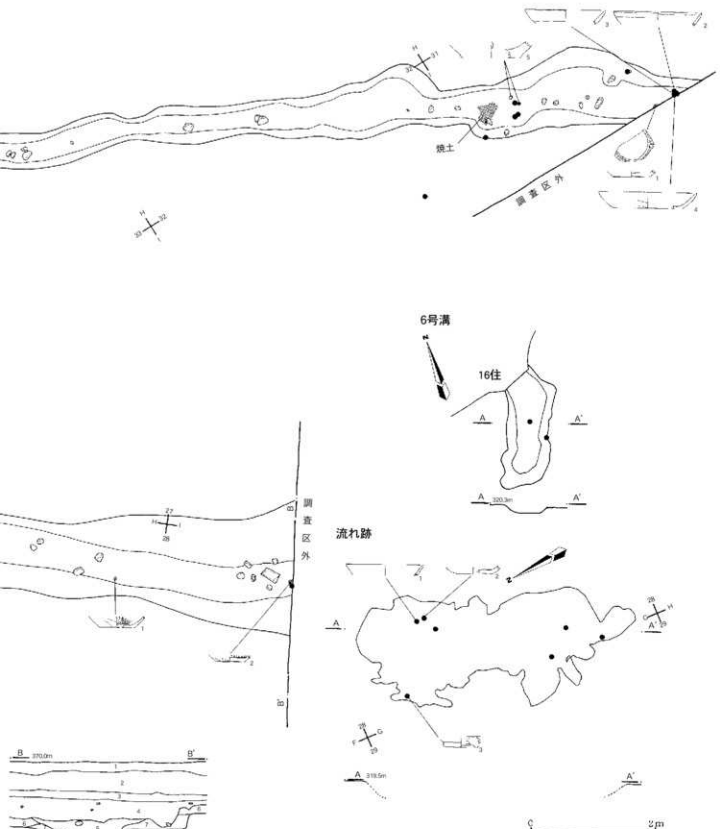
5号溝



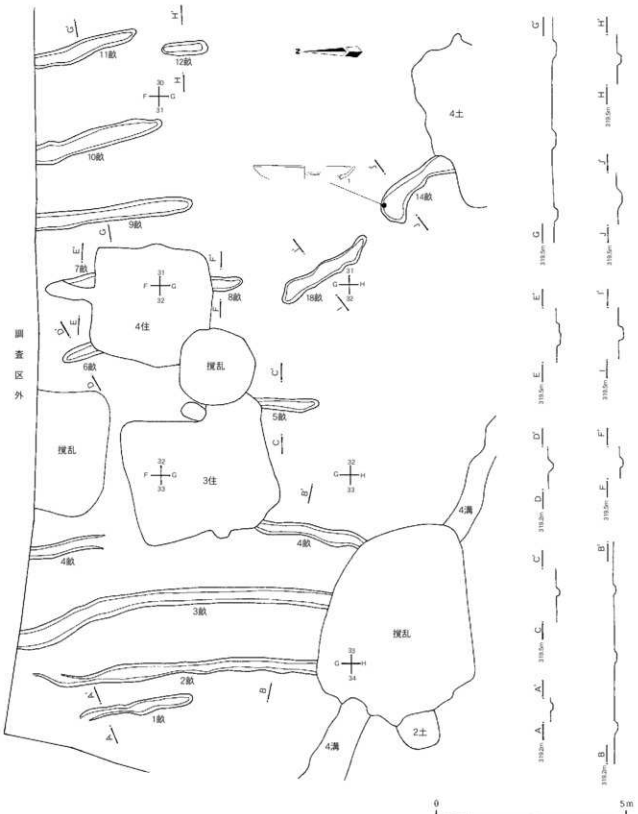


5層
1. 暗褐色砂質土（10YR3/4）　耕作土
2. 時褐色砂質土（10YR5/4）　耕作作土　黄褐色粒含む
3. 黄褐色砂質土（10YR5/6）　旧の床土
4. 暗褐色砂質土（10YR3/4）　遺物含む
5. 黒褐色砂質土（10YR2/3）　径5～10㎜の礫含む
6. 黒褐色粘質土（10YR2/3）
7. 褐色砂質土（10YR4/4）　黄褐色土塊含む

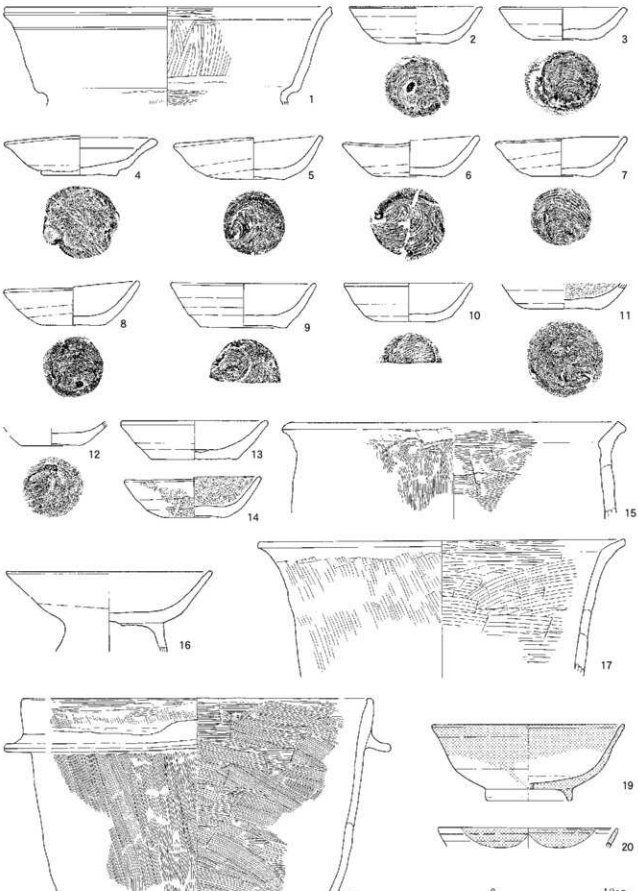
第47図　第3次　4・5・



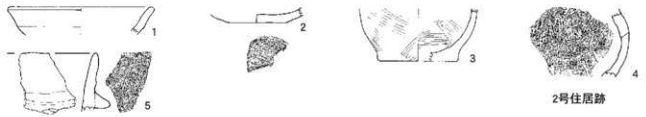
・6号溝、流れ跡 (1/60)



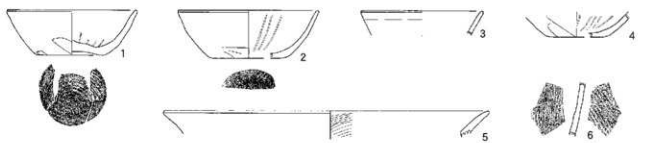
第48図　第3次　1～14号畝 (1/100)



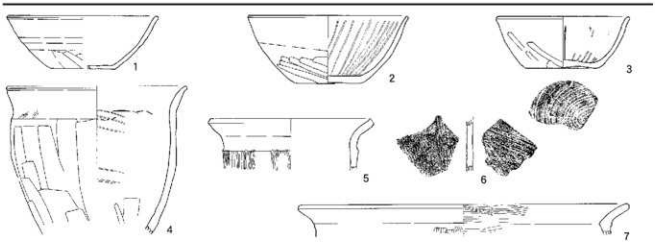
第49図　第3次　1号住居跡出土遺物



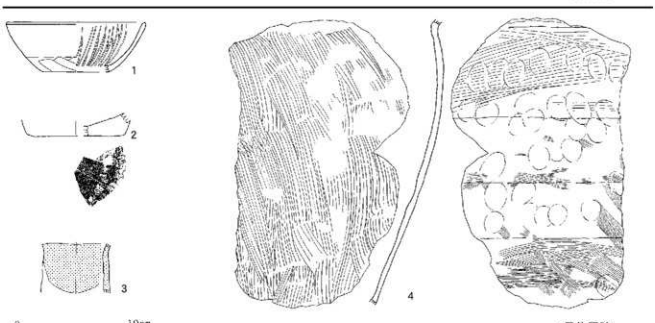
2号住居跡



3号住居跡

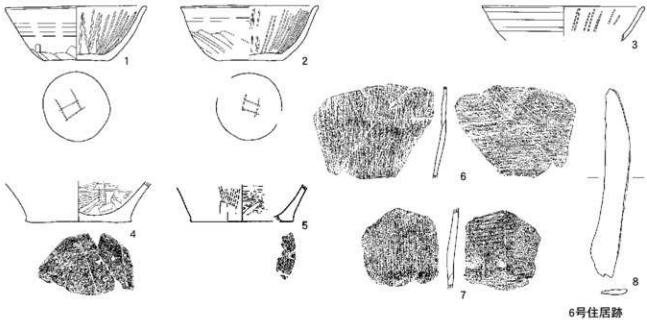


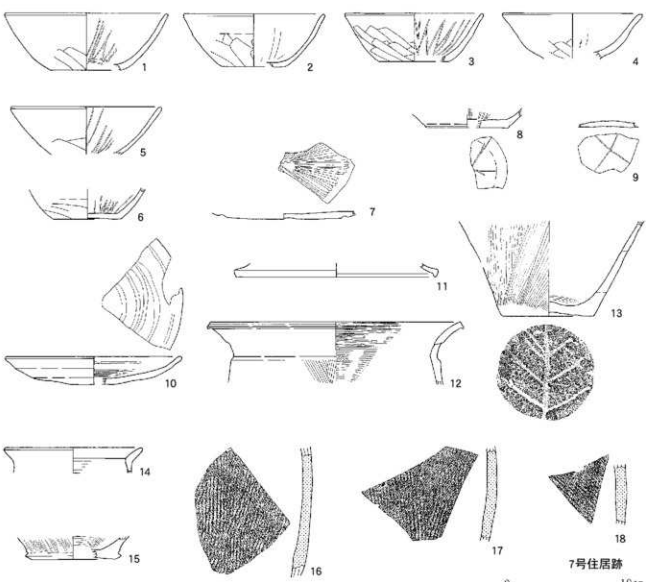
4号住居跡



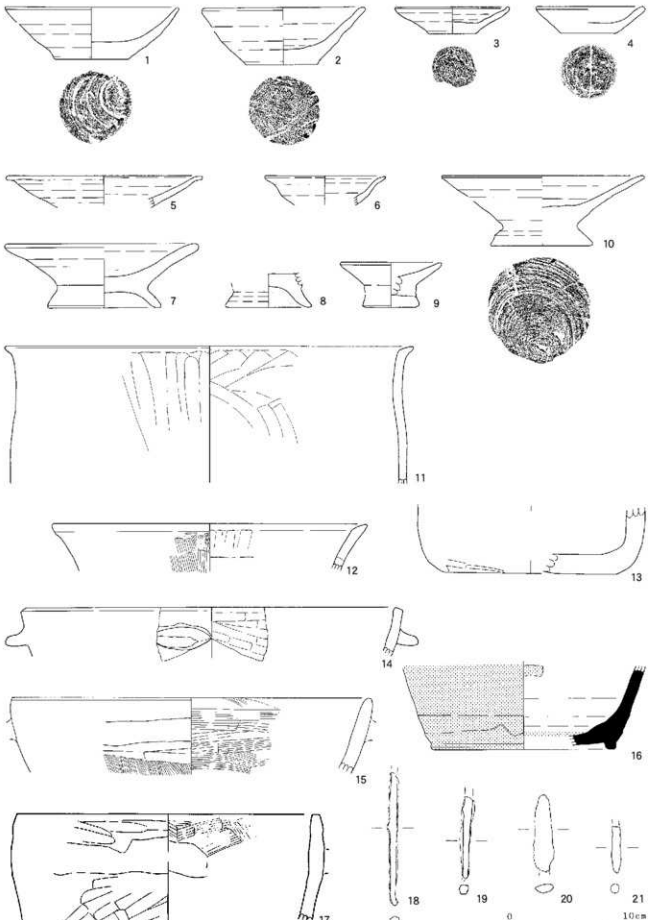
5号住居跡

第50図　第3次　2・3・4・5号住居跡出土遺物

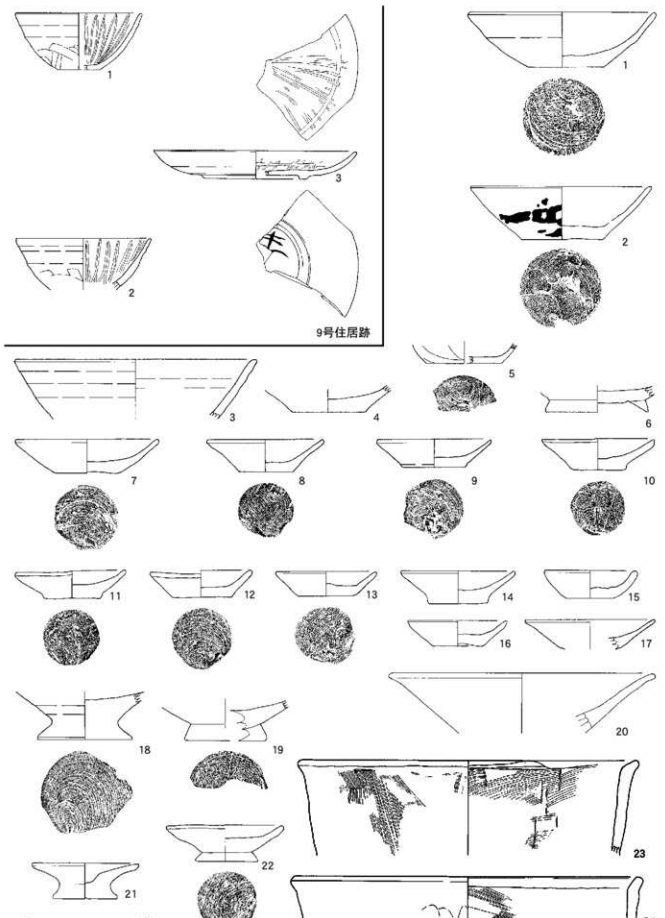




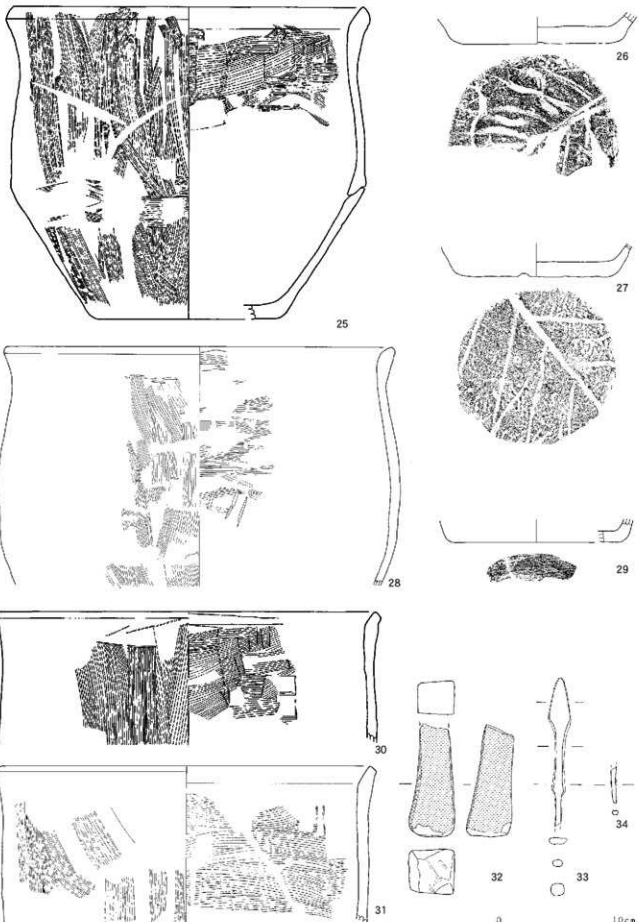
第51図 第3次 6・7号住居跡出土遺物



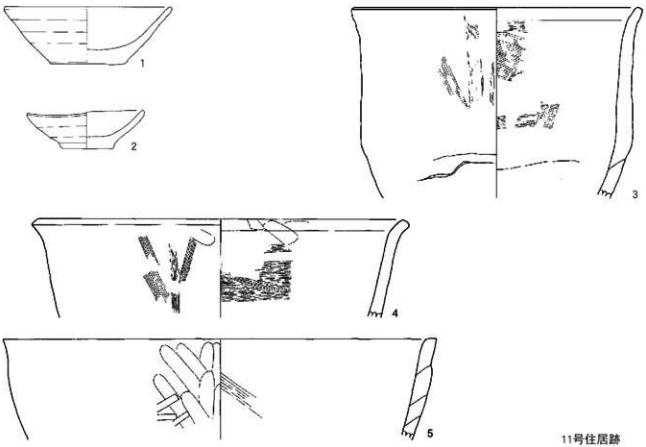
第52図　第3次　8号住居跡出土遺物



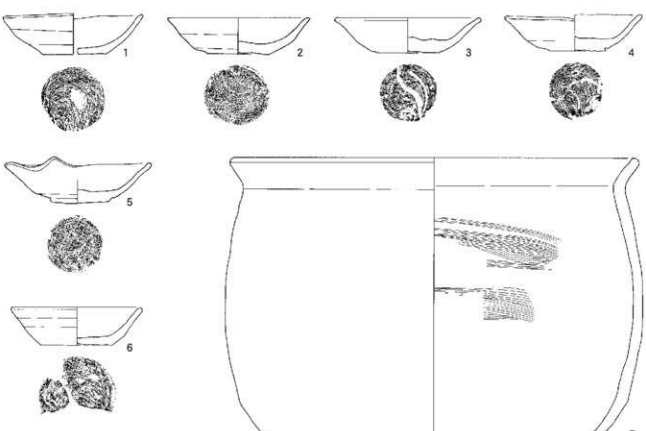
第53図　第3次　9号住居跡・10号住居跡 (1) 出土遺物



第54図　第3次　10号住居跡 (2) 出土遺物

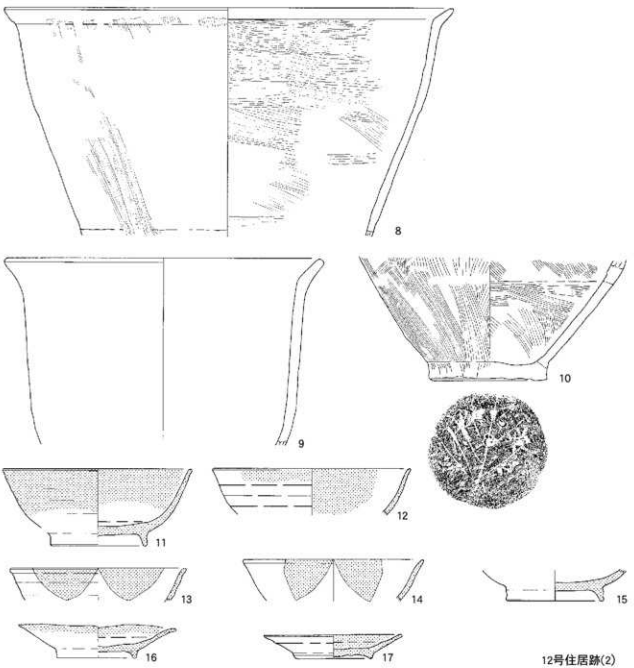


11号住居跡

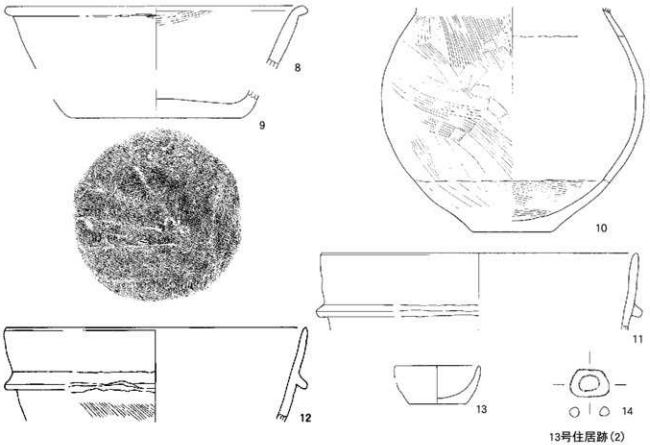


第55図　第3次　11号住居跡・12号住居跡 (1) 出土遺物

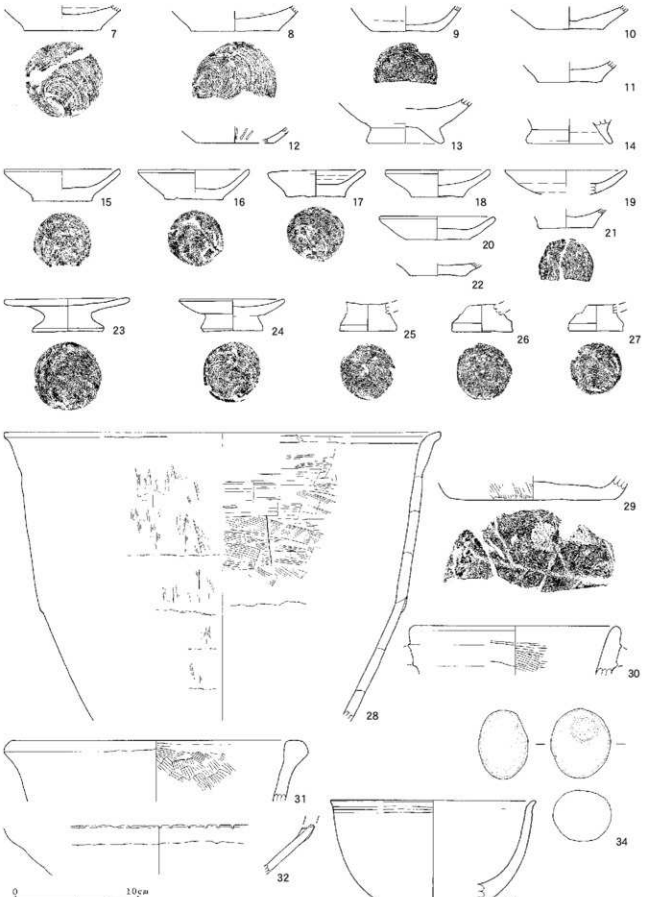
12号住居跡 (1)



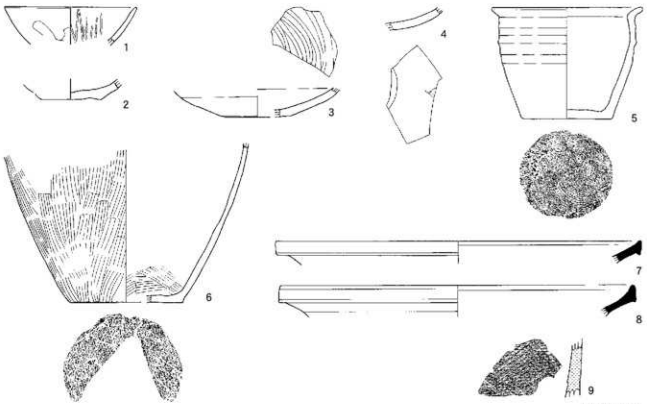
第56図 第3次 12号住居跡(2)・13号住居跡(1) 出土遺物



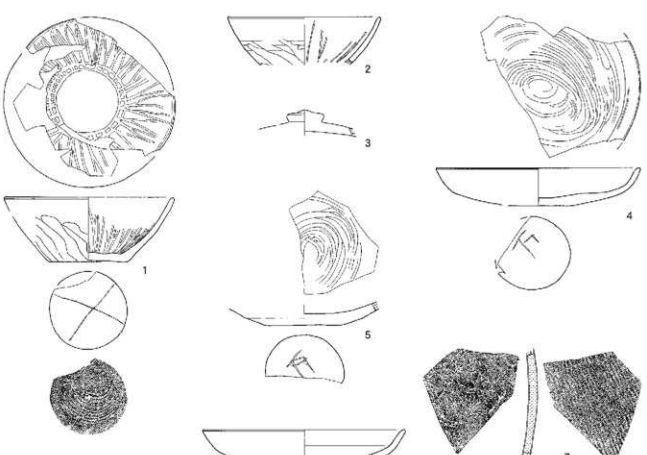
第57図　第3次　13号住居跡(2)・14号住居跡・15号住居跡(1)出土遺物



第58図　第3次　15号住居跡(2)出土遺物

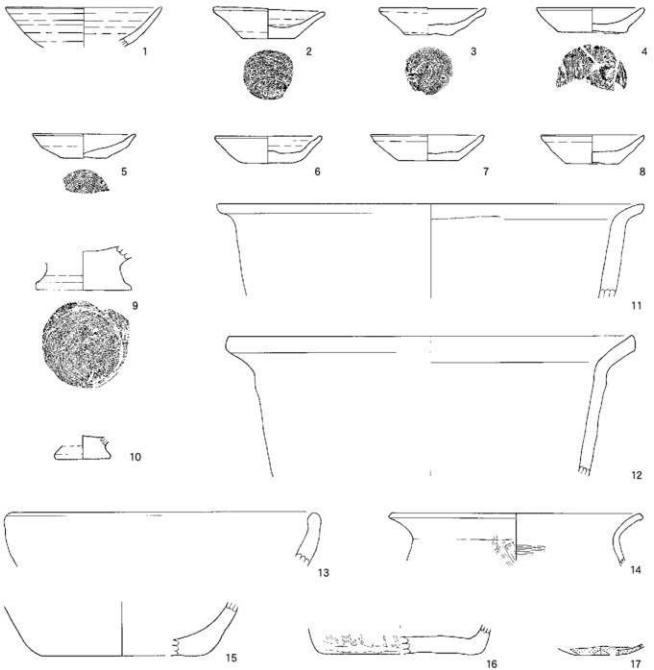


16号住居跡

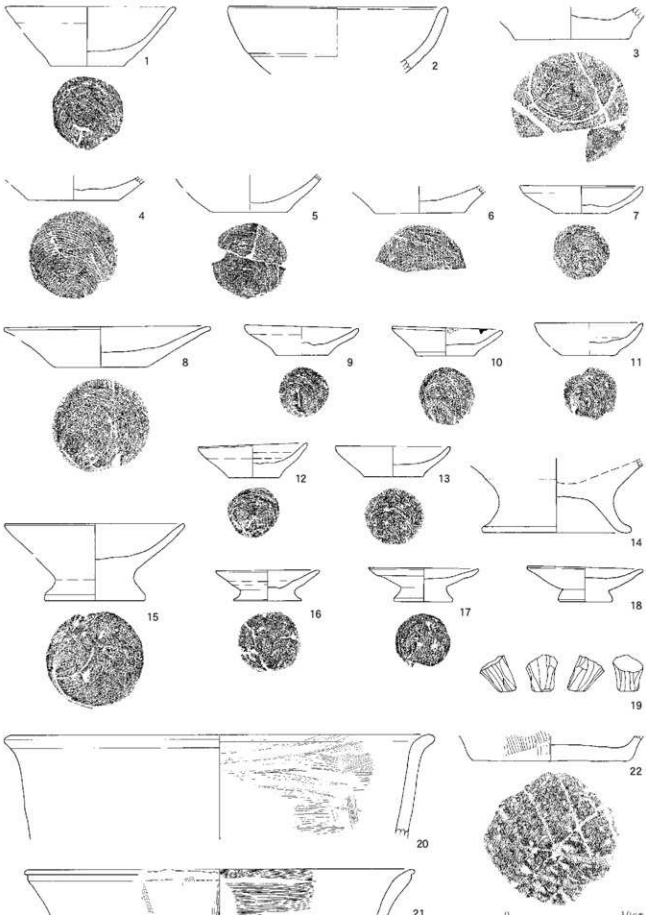


第59図　第3次　16・17号住居跡出土遺物

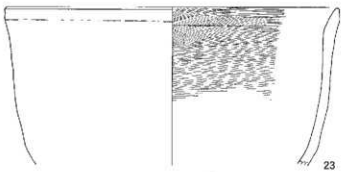
17号住居跡

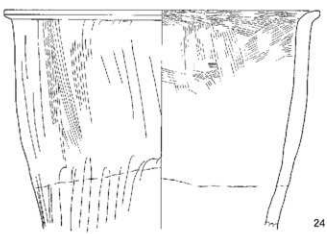


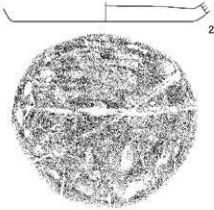
第60図　第3次　18・19号住居跡出土遺物

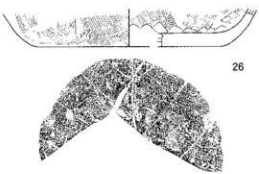


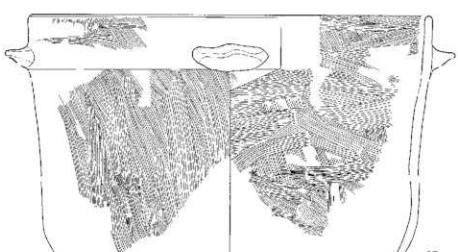
第61図　第3次　20号住居跡 (1) 出土遺物

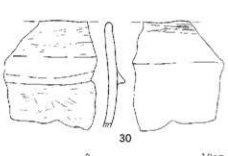




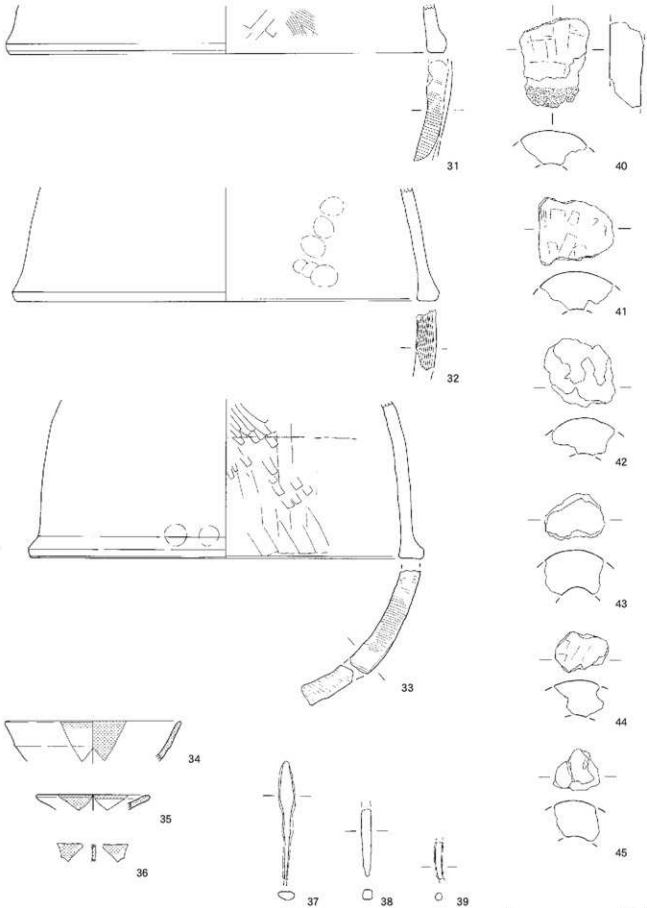




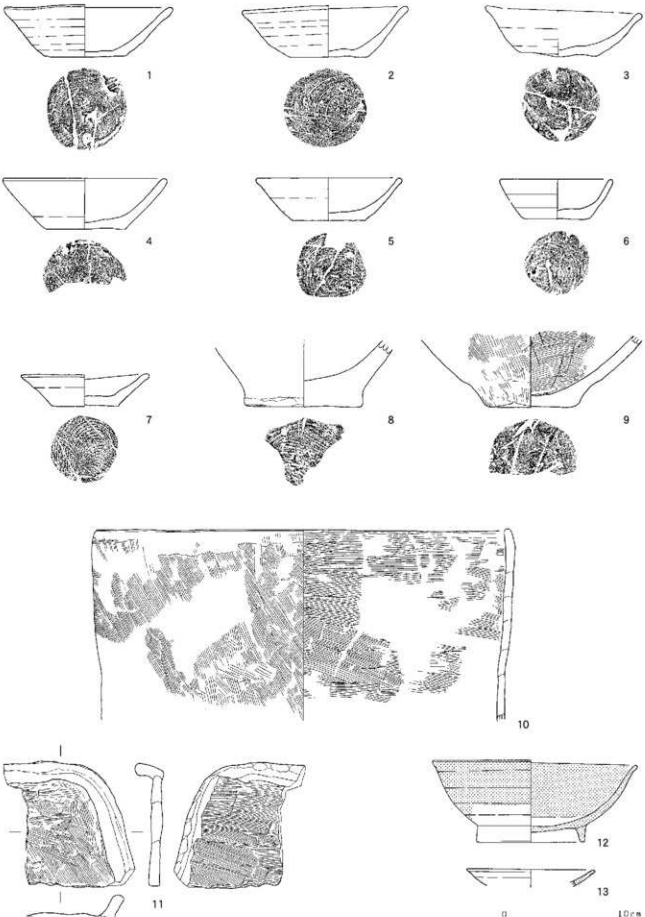




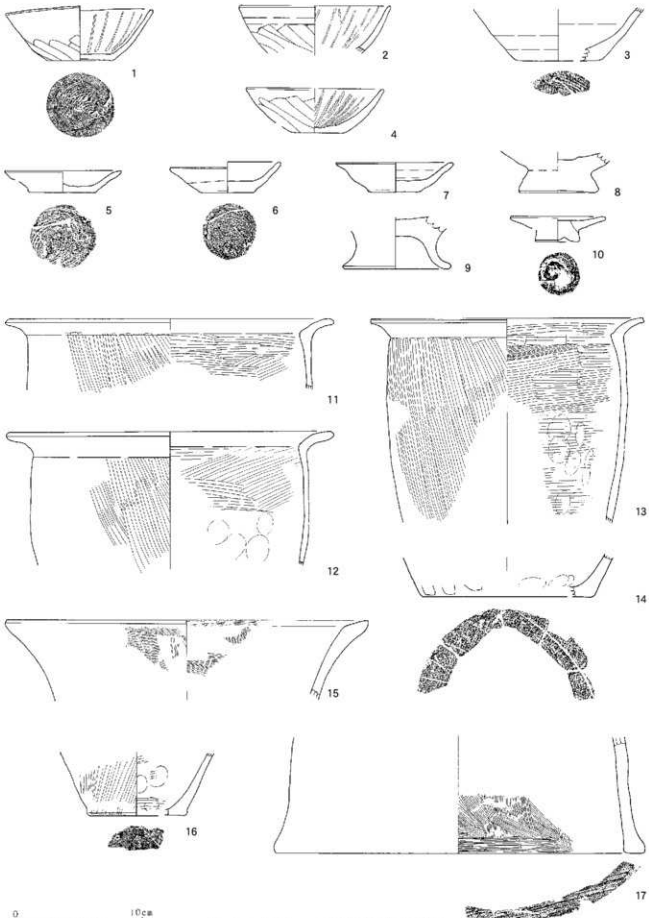
第62図　第3次　20号住居跡 (2) 出土遺物



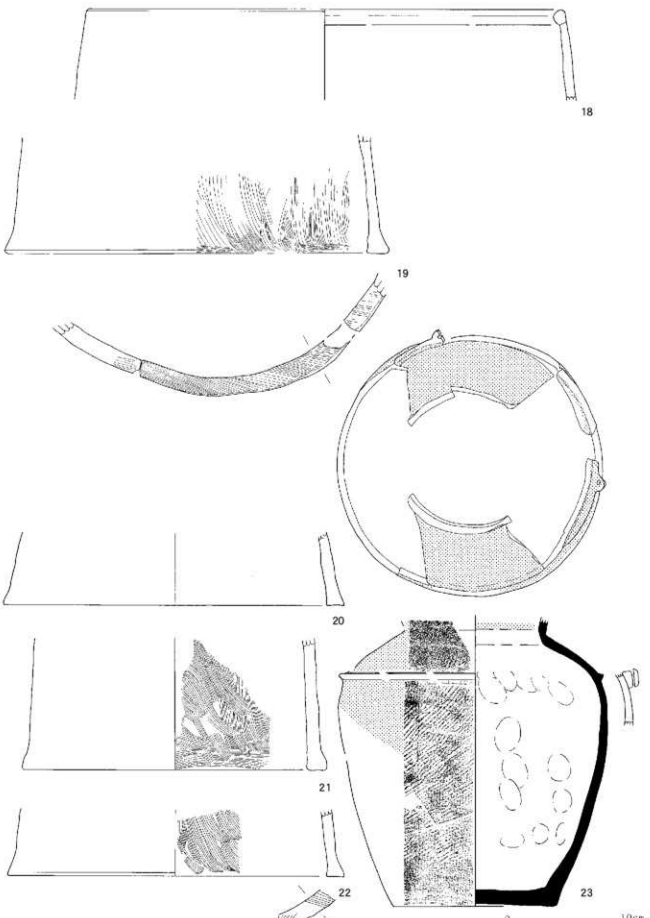
第63図　第3次　20号住居跡 (3) 出土遺物



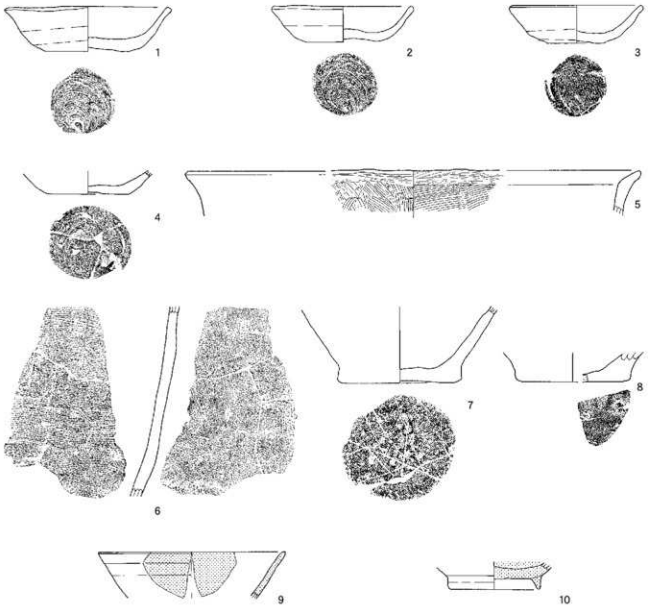
第64図　第3次　21号住居跡出土遺物



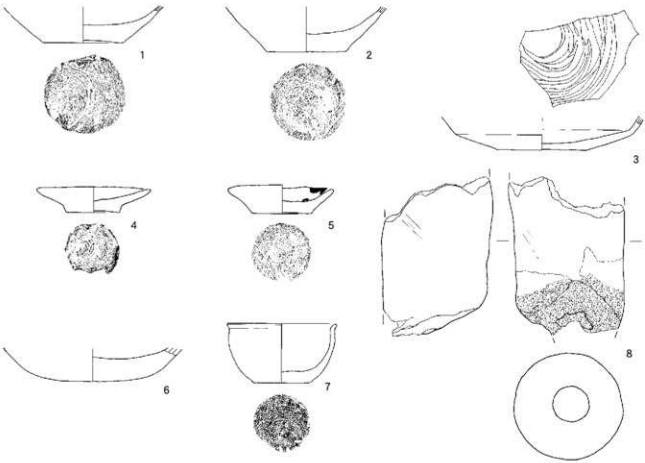
第65図　第3次　22号住居跡 (1) 出土遺物



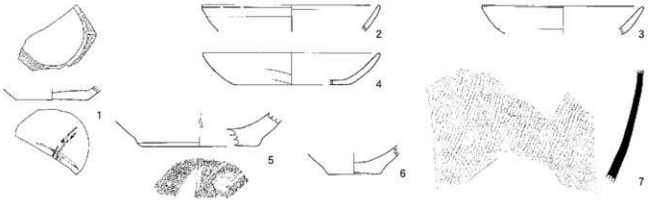
第66図　第3次　22号住居跡 (2) 出土遺物



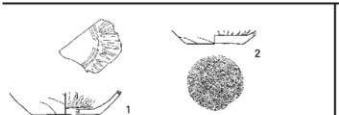
第67図　第3次　23号住居跡、1・2・4号土坑出土遺物



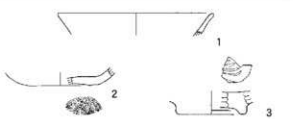
第68図　第3次　5号土坑、1・2・3号溝出土遺物



4号溝

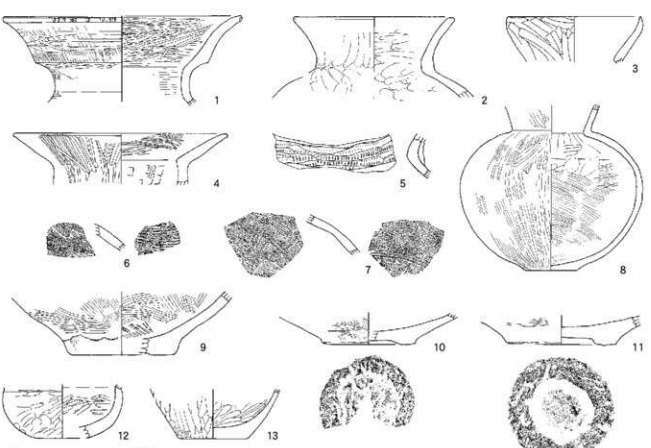


5号溝



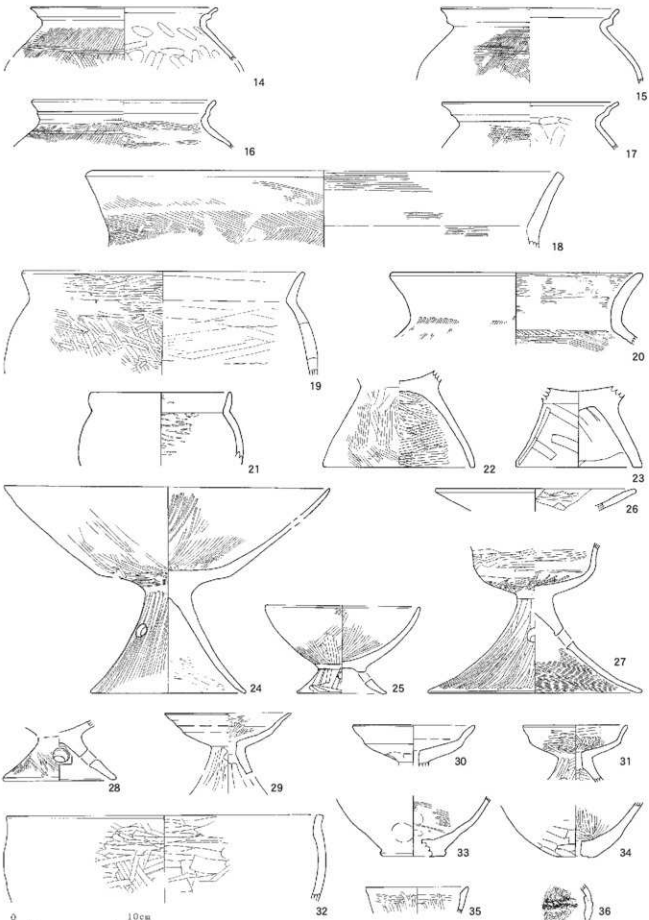
流れ跡

14号畝

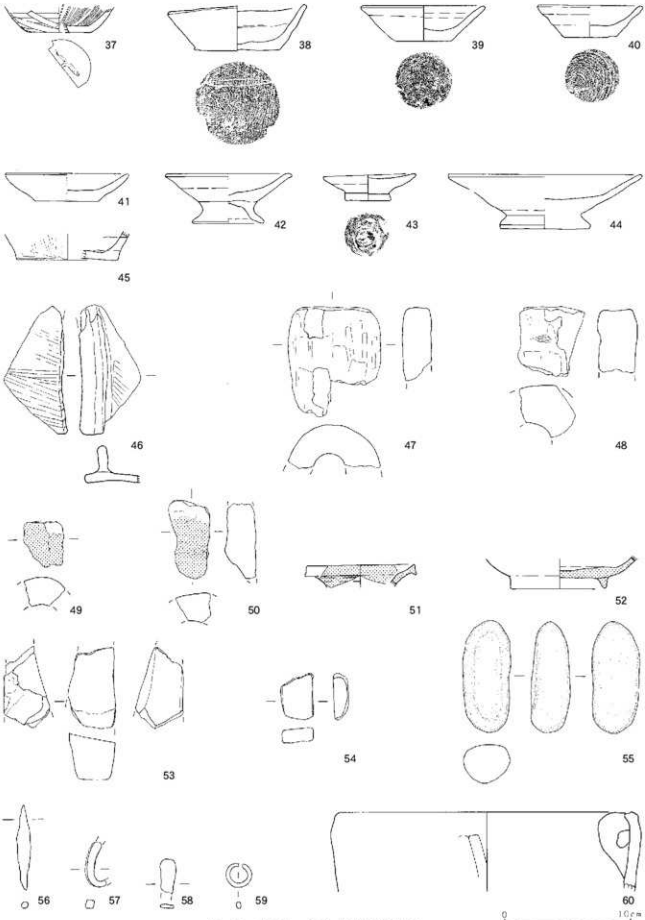


第69図 第3次 4・5号溝、流れ跡、14号畝、グリッド出土遺物(1)

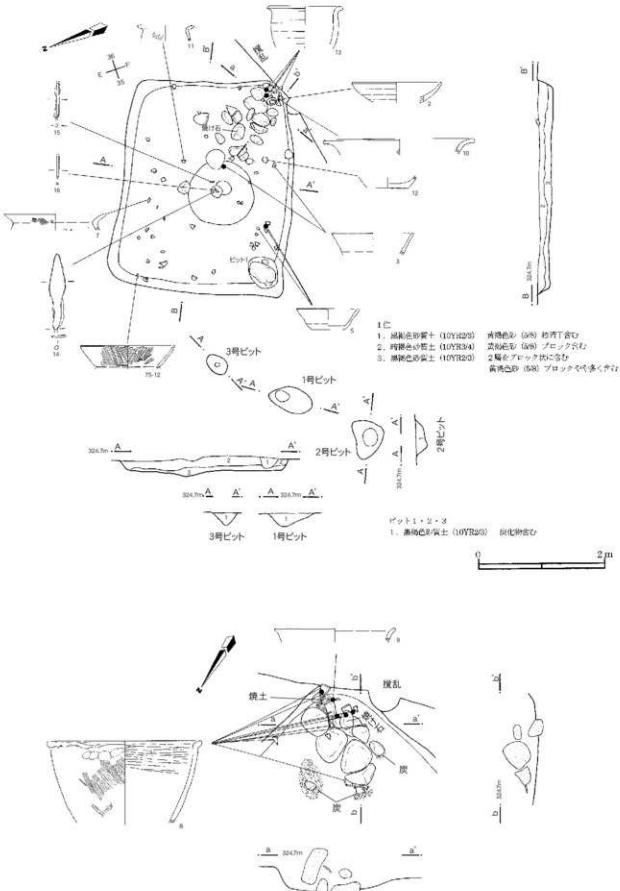
グリッド(1)



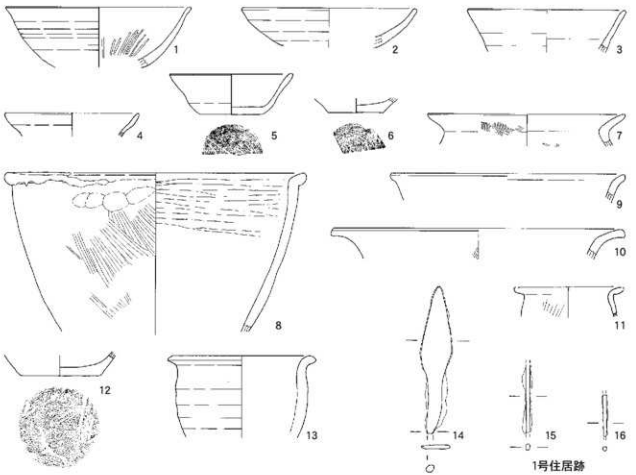
第70図　第3次　グリッド出土遺物 (2)

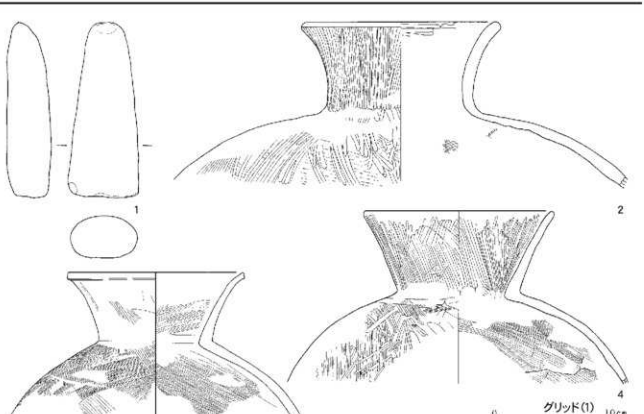


第71図　第3次　グリッド出土遺物 (3)

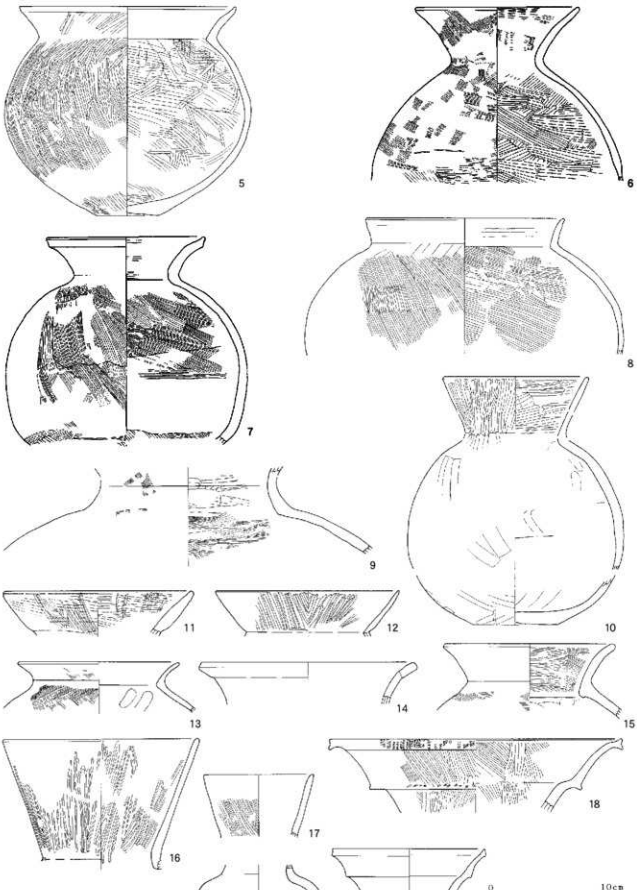


第72図　第4次　1号住居跡・カマド、1～3号ピット（1/60・1/30）

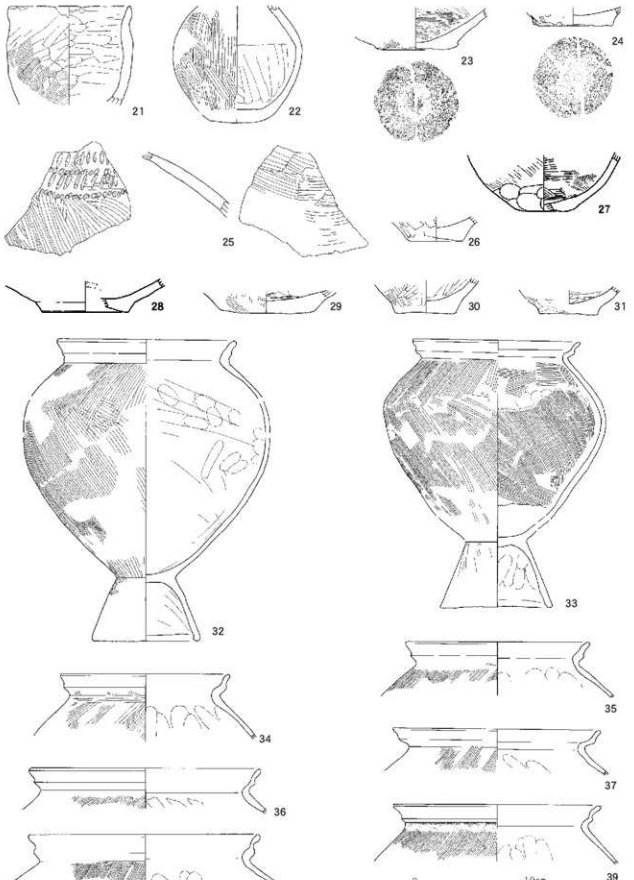




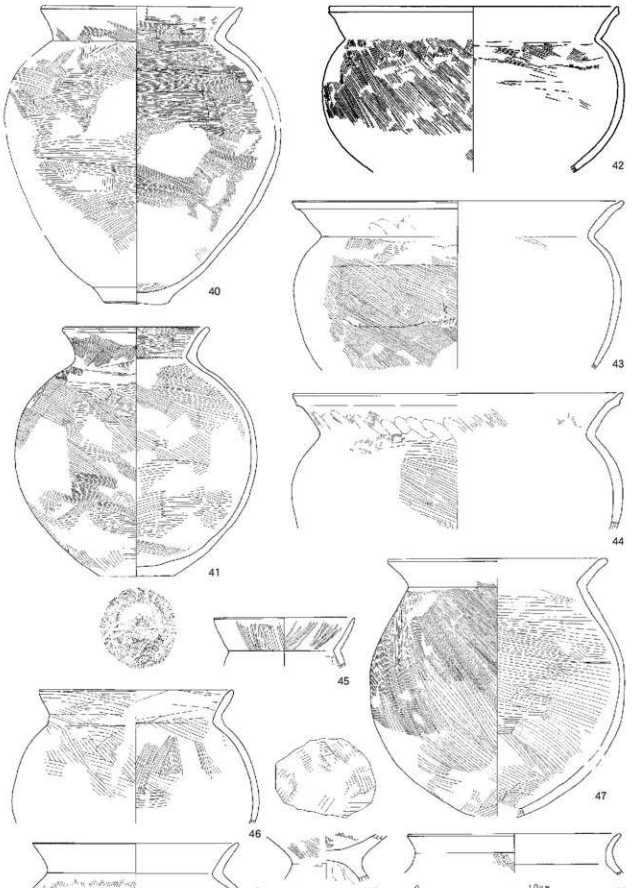
第73図　第4次　1号住居跡・グリッド出土遺物（1）



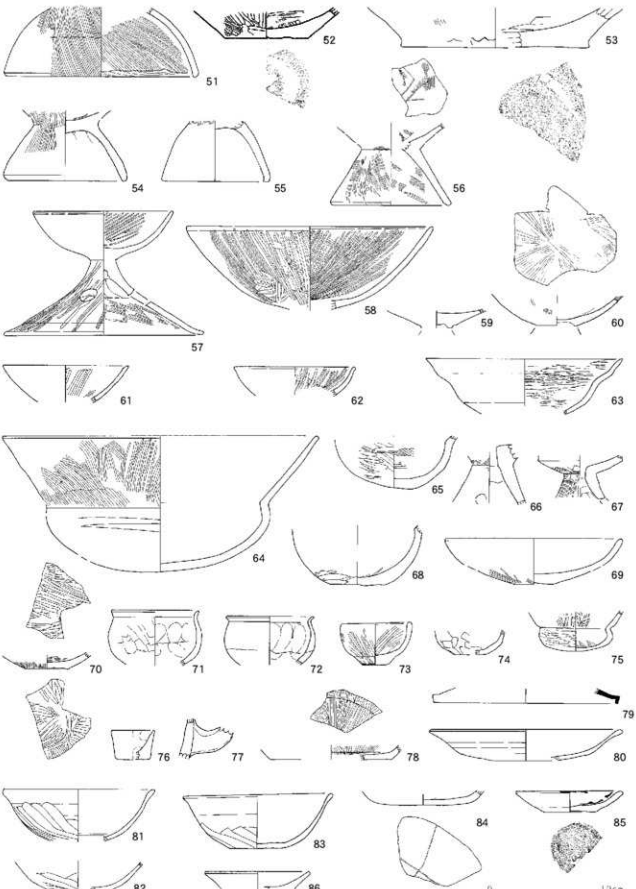
第74図　第4次　グリッド出土遺物（2）



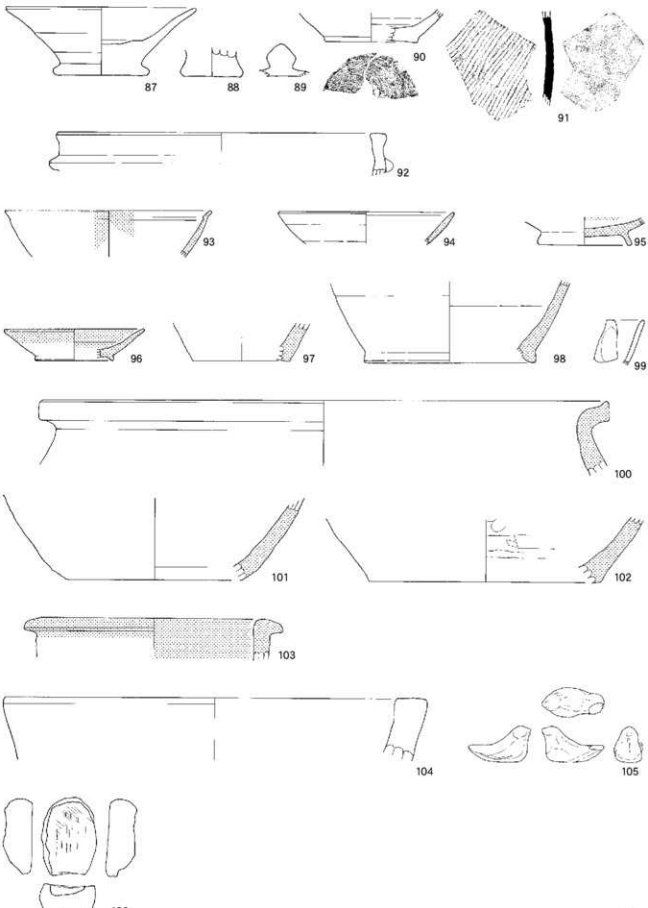
第75図　第4次　グリッド出土遺物（3）



第76図　第4次　グリッド出土遺物（4）

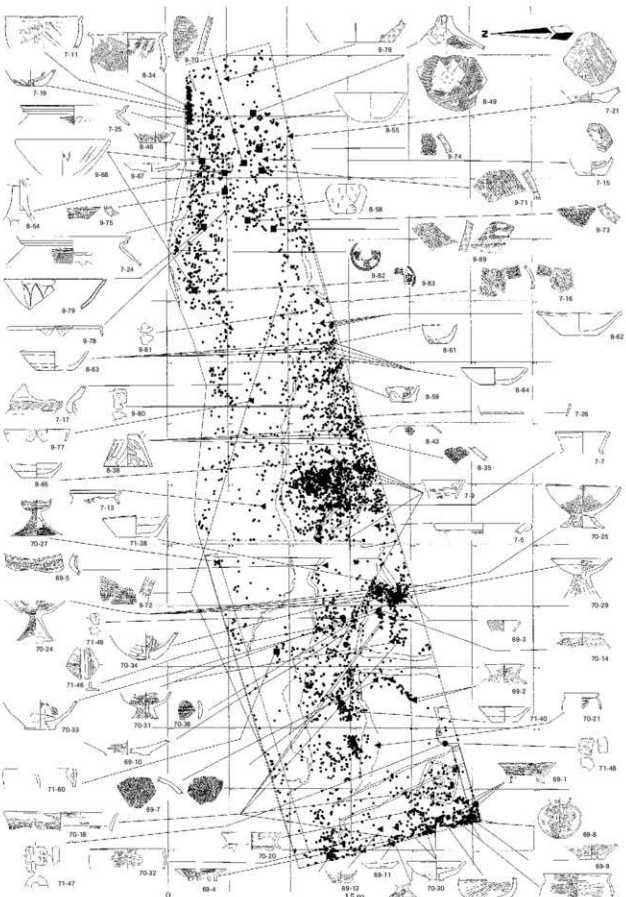


第77図　第4次　グリッド出土遺物（5）

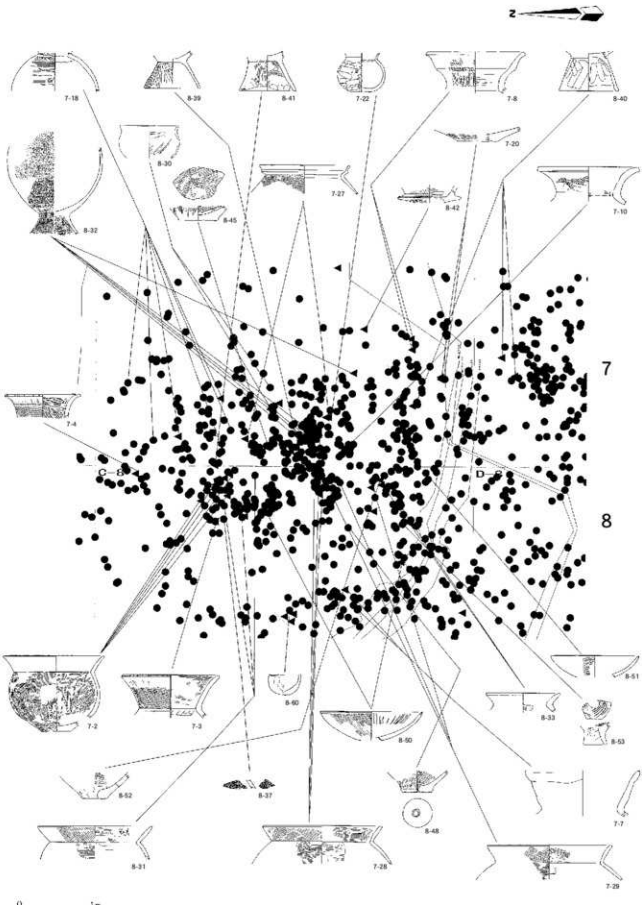


第78図　第4次　グリッド出土遺物（6）

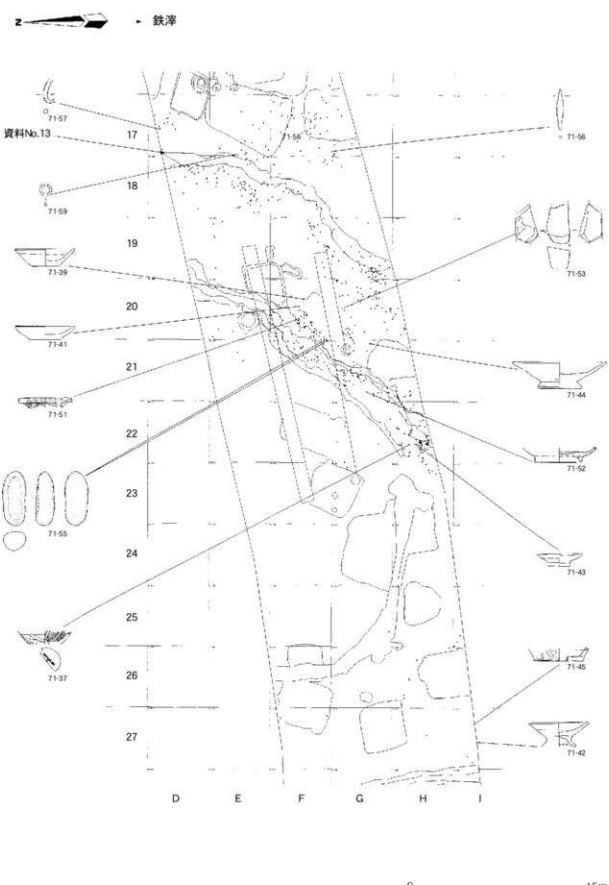
0　10cm



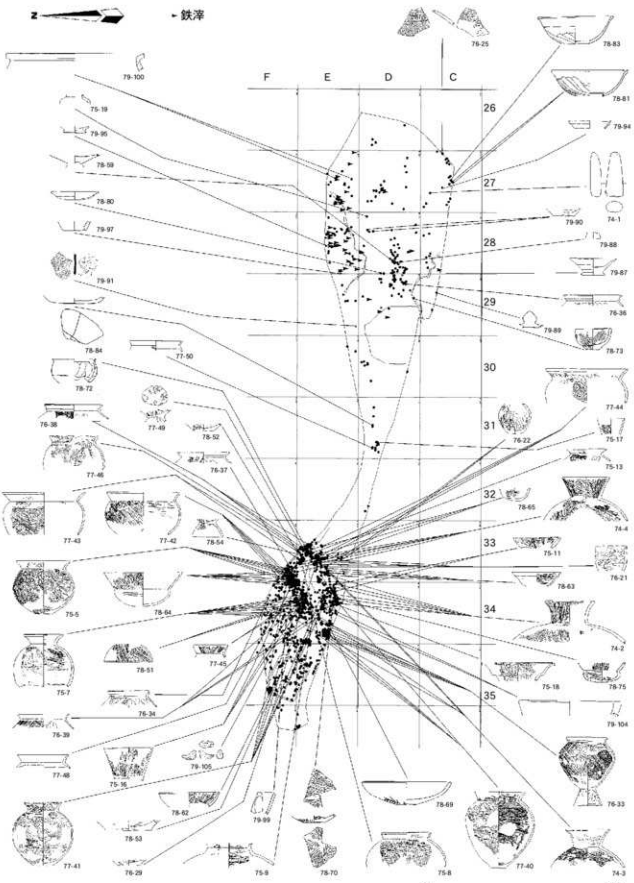
第79図 第2次・第3次 グリッド出土遺物分布図



第80図　第2次　C・D-7・8グリッド出土遺物分布図



第81図　第３次　グリッド出土遺物分布図



第82図　第4次　グリッド出土遺物分布図

表1　第2次　遺物観察表

図	番号	出土位置	遺物番号	実測	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調（内）	色調（外）	胎土	残存率	備考
7	1	B-2	一括	26	土器	深鉢	縄文	-	(2.5)	-	外面縄文・浅い沈線	明赤褐	にぶい黄橙	石英・白粒	破片	
7	2	C-8	920・926・2362・2725・2727・2731・2732・2804	10	土師器	甕	古墳	15.8	11.8	4.5	内面ミガキ、外面ハケ後ミガキ、底面ミガキ	明赤褐・黒褐	明赤褐	金雲母・白・黒粒	80	
7	3	C-8	944-1	62	土師器	壺	古墳	〔15.0〕	(6.7)	-	内面ハケ・ミガキ、外面ハケ、口唇部刻み	明赤褐	明赤褐	石英・白・黒粒	破片	
7	4	C-8	2713	65	土師器	壺	古墳	〔11.6〕	(3.6)	-	内外面ハケ、口唇部刻み	黒褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
7	5	D-8	1737	47	土師器	壺	古墳	〔19.4〕	(1.8)	-	外面ハケ	明黄褐	明黄褐	赤・白粒	破片	全体に磨耗、外面赤彩か？
7	6	B-2・C-5	一括	27	土師器	壺	古墳	-	(3.0)	-	内面指ナデ、外面櫛描波状文	赤褐	赤褐	雲母・石英・白粒	破片	
7	7	C-8	2855・2885	12	土師器	壺	古墳	〔18.0〕	(7.2)	-		にぶい黄橙	にぶい黄橙	石英・白粒	破片	全体に磨耗
7	8	C-7	982・1591	59	土師器	壺	古墳	〔15.0〕	(6.4)	-	内外面ハケ後ミガキ、外面ハケ状工具で刻み	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	全体やや磨耗
7	9	C-8・10、D-7・8	C-8-1749・C-10-1089・D-7-2392・2468・2483・D-8一括	3	土師器	壺	古墳	〔14.6〕	(7.0)	-	内面ハケ・ミガキ・ヘラナデ、外面ハケ・ハケ状工具による刻み	橙	橙	金雲母・赤・白粒	破片	
7	10	C-7	2994	50	土師器	壺	古墳	〔15.6〕	(5.5)	-	内面ハケ、外面ハケ・ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	内面荒れてる
7	11	A-1	783	55	土師器	甕	古墳	〔12.6〕	(5.2)	-	内外面ハケ後ミガキ	褐	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
7	12	B-5	一括	20	土師器	ヒサゴ壺	古墳	〔7.0〕	(2.9)	-		明褐	橙	石英・赤・白粒	破片	磨耗のため調整不明瞭
7	13	B-8	3549	29	土師器	壺	古墳	〔8.0〕	(2.4)	-	内外面ハケ後ミガキ	褐	褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
7	14	C-8	一括	21	土師器	壺？	古墳	〔8.0〕	(3.5)	-	内面ハケ、外面ハケ・ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	赤・白粒	破片	
7	15	B-2	204	51	土師器	壺	古墳	-	(2.8)	4.6	内外面ハケ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
7	16	C-5	425・一括	25	土師器	壺	古墳	-	(4.0)	-	内面ハケ、外面沈線による斜歯状文	明赤褐	赤褐	雲母・石英・白・黒粒	破片	
7	17	B-6・D-5	1507	60	土師器	壺	古墳	-	(4.7)	-	外面隆帯上にヘラ状工具による刻み	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
7	18	C-7	838・858・1913・1934・2134・2203・2204・2206・2209・2311・2313・3013	48	土師器	壺	古墳	-	(6.0)	-	外面ハケ後ミガキ	にぶい黄橙	明赤褐	金雲母・赤・白粒	25	内面輪積み痕、外面赤彩
7	19	A-2	649	24	土師器	加飾壺	古墳	-	(2.7)	〔4.0〕	内面ハケ後ミガキ、外面ヘラナデ	赤褐	褐	金雲母・石英・白粒	破片	外面下部沈線文
7	20	C-7	2304・2305・2306	58	土師器	壺	古墳	-	(2.4)	〔6.0〕	外面ミガキ、底面木葉痕	褐	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	内面荒れてる
7	21	B-2	1328	53	土師器	壺	古墳	-	(1.8)	6.0	内面ハケ	暗褐	黒褐・明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
7	22	C-7	2231	19	土師器	壺	古墳	-	(6.3)	〔3.2〕	外・底面ハケ後ヘラ削り	明褐	明褐	金雲母・石英・白・黒粒	65	
7	23	C-7	2029・2065・2227・2287・2887・2890・2917・3030・3050	8	土師器	S字甕	古墳	〔15.2〕	(8.9)	-	内面指ナデ、外面ハケ	明褐	明褐	金雲母・白粒	30	
7	24	A-3	774	38	土師器	S字甕	古墳	〔18.4〕	(4.8)	-	内面指ナデ、外面ハケ	橙	橙	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
7	25	A-2	172	37	土師器	S字甕	古墳	〔17.6〕	(3.2)	-	内面ヘラ削り、外面ハケ	橙	橙	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
7	26	C-6	2653	30	土師器	甕	古墳	-	(4.3)	-		黄橙	黄橙	雲母・石英・白・黒粒	破片	北陸系
7	27	C-7	1923・2088・2個	39	土師器	S字甕	古墳	〔14.2〕	(2.5)	-	外面ハケ	明褐	暗褐	金雲母・白色粒	破片	
7	28	C-7・8	898・2862-1・2863-3	75	土師器	甕	古墳	〔18.6〕	(6.0)	-	内外面ハケ	橙	明赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	内面指頭痕
7	29	C-8	2751・2762・2849	76	土師器	甕	古墳	〔19.6〕	(5.5)	-	内外面ハケ	橙	にぶい赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
8	30	C-7	2326・2329	54	土師器	甕	古墳	〔18.4〕	(10.3)	-	内面ミガキ	明褐	明褐	金雲母・石英・白粒	20	外面荒れてる
8	31	C-8	922・937・2816	74	土師器	甕	古墳	〔17.8〕	(5.2)	-	内外面ハケ	橙	明赤褐	雲母・石英・白・黒粒	破片	
8	32	C-7	2033・2035・2043・2051-1・2054-3・2064-1・2224・2225・2026 2229O	44	土師器	S字甕	古墳	-	(13.8)	-	内外面ハケ	上部：褐	台部：橙	金雲母・石英・赤粒	15	内面つるつる
8	33	C-7・8	1978・2764	56	土師器	甕	古墳	〔11.6〕	(3.0)	-	内外面ハケ後ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	金雲母・赤・白・黒粒	破片	
8	34	A-1	626・628・659	64	土師器	甕	古墳	〔12.2〕	(6.5)	-	内外面ハケ	黒褐	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	歪んだ器形
8	35	D-7	2504	31	土師器	壺	古墳	-	(2.4)	-	外面沈線による斜歯状文	にぶい黄褐	にぶい黄橙	赤・白粒	破片	
8	36	C-7	一括	33	土師器	壺	古墳	-	(0.9)	-	外面ハケ後沈線	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
8	37	C-8	944-3	32	土師器	壺	古墳	-	(1.3)	-	内面ハケ、外面ハケ後沈線による斜歯状文	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
8	38	C-5・7、D-7	2399・2493・2507・2510	41	土師器	台付甕	古墳	-	(5.6)	台径 8.0	内面ヘラ削り・指頭痕、外面ハケ後ヘラ削り	にぶい褐	にぶい褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
8	39	C-7	3032	40	土師器	台付甕	古墳	-	(5.9)	台径 8.8	外面ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・白・黒粒	破片	
8	40	C・D-7	2259・2270・2273・2386・2579、5個	43	土師器	台付甕	古墳	-	(6.3)	台径 9.4	内面指ナデ、外面ヘラ削り	橙	橙	金雲母・石英	破片	
8	41	C-8	921	42	土師器	台付甕	古墳	-	(6.2)	台径 9.0	内面ハケ・指頭痕、外面ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・白粒	破片	
8	42	C-7	978	61	土師器	器台	古墳	-	(2.1)	-	内外面ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
8	43	D-7	2503	28	土師器	壺	古墳	-	(2.7)	-	外面櫛描歯状文	橙	橙	金雲母・石英・白粒	破片	
8	44	一括	-	52	土師器	器台	古墳	-	(3.4)	-	内外面ミガキ	橙	橙	雲母・赤・白粒	破片	有孔
8	45	C-7	2986	45	土師器	壺	古墳	-	(1.8)	〔6.2〕	内面ハケ、外面ミガキ	褐	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
8	46	A-2	1348	23	土師器	壺	古墳	-	(1.9)	〔5.0〕	内面ミガキ、外面ハケ後ミガキ、底面ミガキ	赤褐	明赤褐	雲母・白・黒粒	破片	
8	47	C-4	一括	17	土師器	ミニチュア？	古墳	-	(5.0)	4.5	内面指ナデ	橙	明赤褐	雲母・石英・白・黒粒	50	外面磨耗
8	48	C-8	1986	18	土師器	底部穿孔鉢	古墳	-	(3.4)	〔4.6〕	内外面ハケ	明赤褐	赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	30	孔径0.8cm,内外面両方から穿孔
8	49	A-1	90	9	土師器	蓋	古墳	-	(5.6)	-	内外面ハケ、外面指頭痕	明褐	明褐	金雲母・白粒	破片	
8	50	C-7・8	2350・2600	73	土師器	高坏	古墳	〔15.8〕	(4.5)	-	内外面ミガキ	橙	橙	赤・白・黒粒	破片	全体に磨耗
8	51	C-8	2779	77	土師器	高坏	古墳	〔14.0〕	(3.4)	-	外面ミガキ	橙	橙	金雲母・赤・白粒	破片	
8	52	C-8	2765	57	土師器	底部穿孔鉢	古墳	-	(4.3)	〔4.0〕	内面ハケ・ヘラナデ・指頭痕、外面ヘラナデ	明褐	明褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
8	53	C-8	3669	63	土師器	器台	古墳	-	(2.9)	〔3.6〕	内面器部ハケ・台部ヘラ削り、外面ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	外面指頭痕
8	54	A-2	228	16	土師器	高坏	古墳	-	(6.9)	-	外面ケズリ不明瞭	黒	橙	金雲母・赤・白粒	30	孔2個、外面磨耗、割れ口黒色。
8	55	B-2	5	49	土師器	鉢	古墳？	〔23.6〕	9.4	〔6.4〕		明褐	明褐	金雲母・石英・赤・白粒	20	内面一部ツルツル、内外面ボコボコ。

図	番号	出土位置	遺物番号	調査	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調（内）	色調（外）	胎土	残存率	備考
8	56	C-7	層2	22	土師器	ミニチュア	古墳	(4.8)	2.6	(3.0)	内面ヘラ削り、外面ヘラ状ナデ、底面ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白粒	50	口将面やや欠
8	57	C-5	1384	3	土師器	ミニチュア	古墳	(7.0)	3.6	4.6		にぶい黄橙	にぶい黄橙	金雲母	75	全体にマルツル
8	58	A-3	255	11	土師器	ミニチュア	古墳	(4.6)	4.8	(4.0)	内面指ナデ、外面ヘラナデ	褐	褐	雲母・石英・黒粒	破片	外面黒灯てる
8	59	C-6	380	5	土師器	ミニチュア	古墳	5.3	3.6	3.8	内面ハケ、外面指頭痕	橙	橙	金雲母・石英・赤・白粒	80	口将面に凹みあり
8	60	C-8	2936	6	土師器	ミニチュア	古墳	4.8	3.2	-	外面指頭痕	明赤褐	明赤褐	石英	95	丸底
8	61	C-5	1383	4	土師器	ミニチュア	古墳	-	(3.2)	2.4	外面下部ヘラ削り	赤褐	赤褐	金雲母・石英	60	
8	62	C-5	1119・1180・1183・1219・1238・1239・1240・1322・1323・1324	13	土師器	坏	平安	14.0	3.9	6.0	底面回転糸切り痕	橙	橙	雲母・石英・白・黒粒	70	器形が歪んでる
8	63	C-5	1201・1226-2・1227・1228・1229・1273・1275	1	土師器	坏	平安	10.8	3.3	5.6	底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	80	
8	64	C-5	1236-1・1236-2・1262・1274・1276・1282	15	土師器	坏	平安	(11.6)	2.8	6.8	底面回転糸切り痕	にぶい橙	橙	石英・白・黒粒	70	
8	65	C-7	1603	2	土師器	皿	平安	9.9	2.2	6.8	底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	95	器形が歪んでる
9	66	- 括	-	7	土器	鳥	中世	(35.6)	(9.5)	-	内外面ハケ	黄橙	黒褐	金雲母・赤・白・黒粒	破片	孔2個、外耳
9	67	A-2	735	66	土師器	皿	平安	(8.8)	1.4	(2.6)		橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	25	手づくね
9	68	A-2・4	361・368・1352	14	土器	壺縁	中世	(31.6)	(11.8)	(14.6)		灰褐		金雲母・石英	20	足形由工田土と類似
9	69	A-3	383	68	陶器	甕	不明	-	(4.8)	-	外面タタキ	橙	にぶい橙	赤・白粒	破片	胎土にぶい橙色
9	70	B-3	216	68	陶器	甕	不明	-	(6.1)	-	外面タタキ	褐	暗褐	白・黒粒	破片	胎土にぶい赤橙色
9	71	B-2	767	67	陶器	甕	不明	-	(5.0)	-	外面タタキ	橙	にぶい黄橙	赤・白粒	破片	
9	72	B-4・12	B-4 1083・B-12-112	1	陶器	甕	中世	-	(3.3)	-	外面ロクロナデ	にぶい褐	にぶい褐	赤・白・黒粒	破片	胎土にぶい橙色
9	73	A-3	359	71	陶器	甕	不明	-	(2.3)	-	内外面ロクロナデ	橙	橙	赤・白粒	破片	胎土にぶい橙色
9	74	B-2	209	69	陶器	甕	不明	-	(3.2)	-	外面タタキ	明赤褐	明赤褐	赤・白・黒粒	破片	胎土明赤褐色
9	75	A-3	498	70	陶器	甕	不明	-	(1.5)	-	内外面ロクロナデ	にぶい褐	にぶい褐	赤・白・黒粒	破片	胎土にぶい橙色
9	76	B-1	87	72	陶器	甕	不明	-	(3.1)	(12.2)	内外面ロクロナデ	橙	橙	赤・白・黒粒	破片	胎土にぶい橙色
9	77	B-6	1428	35	陶器	鉢	不明	(21.6)	(4.2)	-		灰白	-	石英・赤・白粒	破片	緑釉
9	78	A-3	472	36	陶器	鉢	不明	(31.6)	(3.6)	-		灰白	-	石英・赤・白粒	破片	緑釉
9	79	A-3	798	34	青磁	碗	-	(16.6)	(5.0)	-	外面連弁文	灰オリーブ	灰オリーブ		破片	胎土白～灰白色
9	80	C-5・6	2403・2417	14	-	須口	平安	長 (8.7)	外径 (7.0)	-	厚 2.1～2.5	明褐	灰	雲母・石英白粒・植物	破片	外面発泡・付着物
9	81	C-5	1332	16	-	須口	平安	長 (3.2)		-	厚 3.0	灰	灰	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
9	82	A-4	1021	-	銭	己酉元豊										天聖元豊 (1023)・初鋳元豊 (1094)か
9	83	A-4	1216	-	銭	熙寧元豊										初鋳 1068

表２　第３次　遺物観察表

図	番号	出土位置	遺物番号	実測No	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調（内）	色調（外）	胎土	残存率	備考
49	1	1住	29	16	土師器	Ｓ字甕	古墳	[26.6]	(8.2)	-	内面ミガキ、外面ハケ	橙	橙	雲母・赤・白粒	破片	山陰系
49	2	1住	カマド18	9	土師器	杯	平安	[10.6]	3.0	5.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐	金雲母・赤・白粒	60	
49	3	1住	14	12	土師器	杯	平安	[9.9]	2.6	5.2～5.5	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐	雲母・赤・白粒	60	
49	4	1住	カマド9	6	土師器	杯	平安	11.6	3.2	6.0	ロクロナデ、底面回転糸切り後一部ヘラ削り	明褐	明褐	金雲母・赤・白粒	90	
49	5	1住	ピット2-1	2	土師器	杯	平安	11.6	3.5	5.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐	赤・白粒	100	
49	6	1住	39	7	土師器	杯	平安	10.7	3.4	5.6	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	金雲母・赤・白粒	80	
49	7	1住	カマド3	3	土師器	杯	平安	10.3	3.2	5.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	金雲母・赤・白粒	100	
49	8	1住	カマド12	4	土師器	杯	平安	10.7	3.7	5.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	金雲母・赤・白粒	100	
49	9	1住	カマド10	10	土師器	杯	平安	[11.6]	3.6	[7.0]	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白粒	50	
49	10	1住	24・カマド7	8	土師器	杯	平安	10.2~11	3.1	[5.0]	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	雲母・赤・白粒	60	
49	11	1住	カマド8	13	土師器	杯	平安	-	(3.1)	6.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	石英・赤・白粒	70	
49	12	1住	4	14	土師器	杯	平安	-	(2.0)	5.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	石英・赤・白粒	60	
49	13	1住	カマド17	11	土師器	杯	平安	[11.6]	3.1	(6.9)	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	雲母・白粒	50	
49	14	1住	カマド14	5	土師器	杯	平安	10.7	3.3	5.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐	金雲母・石英・赤・白粒	100	内外面煤付着（灯明皿）
49	15	1住	32	19	土師器	甕	平安	[26.6]	(7.7)	-	内外面ハケ	褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
49	16	1住	38	15	土師器	脚高高台杯	平安	[16.4]	(6.5)	-	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	黄褐	黄褐	金雲母・赤・白粒	70	
49	17	1住	カマド2・4・20・21	18	土師器	甕	平安	[29.6]	(11.0)	-	内外面ハケ	褐	褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	
49	18	1住	カマド5・13	17	土師器	羽釜	平安	[28.4]	(16.7)	-	内外面ハケ	褐	褐	赤・白・黒粒	破片	
49	19	1住	35	1	灰釉陶器	碗	平安	[15.6]	6.2	[6.8]		灰白	-	-	40	
49	20	1住	41	20	灰釉陶器	碗	平安	[14.6]	(1.6)	-		灰白	-	白粒	破片	
-	-	1住	40	-	鉄滓？	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.1
-	-	1住	42	-	鉄滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.2
50	1	2住	一括	1	土師器	杯	平安	[13.0]	(2.3)	-	ロクロナデ	にぶい橙	褐	金雲母・石英・赤粒	破片	
50	2	2住	4	5	土師器	杯	平安	-	(0.7)	(4.3)	底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・赤粒	破片	
50	3	2住	6	2	土師器	甕	平安	-	(4.2)	[6.2]	内外面ハケ	赤褐	にぶい褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	4	2住	3	4	土師器	甕？	平安	-	(5.4)	-	外面ハケ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	5	2住	2	3	土師器	羽釜	平安	-	(4.8)	-	内面ハケ	褐	暗褐	金雲母・石英・黒粒	破片	
50	1	3住	カマド2・4・5	1	土師器	杯	平安	10.4	3.7	5.5	内面暗文、外面下部ヘラ削り、底面回転糸切り後、周囲ヘラ削り	橙	浅黄橙	金雲母・赤・黒粒	40	
50	2	3住	2・3	2	土師器	杯	平安	[11.2]	3.9	(6.2)	内面暗文、外面下部ヘラ削り、底面回転糸切り後、周囲ヘラ削り	橙	橙	金雲母・赤・白粒	20	
50	3	3住	一括	3	土師器	杯	平安	[9.8]	(2.0)	-	ロクロナデ	明赤褐	明赤褐	赤色粒	破片	
50	4	3住	カマド3	4	土師器	杯	平安	-	(1.7)	(4.6)	内面暗文、外面下部ヘラ削り	にぶい黄橙	橙	赤・白粒	破片	
50	5	3住	4	5	土師器	甕	平安	[26.1]	(1.8)	-	内面ハケ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	6	3住	一括	6	土師器	甕	平安	-	(4.4)	-	内外面ハケ	にぶい赤褐	黒褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	1	4住	7・8・9・12・13・一括	2	土師器	杯	平安	[12.0]	4.3	5.2	外面下部ヘラ削り、底面全面ヘラ削り	橙	橙	金雲母・赤・白粒	30	
50	2	4住	1	1	土師器	杯	平安	12.8	5.5	5.5	内面暗文、外面下部ヘラ削り、底面全面ヘラ削り	橙	橙	赤・白粒	80	
50	3	4住	2・4・15・一括	3	土師器	杯	平安	[10.6]	4.2	(6.0)	内面暗文、外面下部ヘラ削り、底面回転糸切り	橙	橙	金雲母・赤色粒	25	
50	4	4住	カマド3・4・5・6・7・8・10・11・12・13・14・15・一括	7	土師器	甕	平安	14.3	(12.1)	-	内外面ヘラ削り	橙・灰褐	橙・にぶい褐	金雲母・石英・赤・白粒	70	
50	5	4住	カマド1・2・9	4	土師器	甕	平安	13.0	(4.1)	-	外面ハケ	黒	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	6	4住	一括	6	土師器	甕	平安	-	(4.5)	-	内外面ハケ	明赤褐	黒	金雲母・石英・白粒	破片	
50	7	4住	10	5	土師器	甕	平安	[20.2]	(2.5)	-	内外面ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	1	5住	1・4	1	土師器	杯	平安	[11.2]	4.0	[5.2]	内面暗文、外面下部ヘラ削り	明赤褐	明赤褐	赤粒	20	
50	2	5住	13	2	土師器	甕	平安	-	(1.3)	(6.8)	底面木葉痕	にぶい褐	明褐	金雲母・石英・白粒	破片	
50	3	5住	2	4	灰釉陶器	壺	平安	-	(3.2)	-	ロクロナデ	灰白	-	白・黒粒	破片	釉：オリーブ色
50	4	5住	カマド6・9・10・11・12・13	3	土師器	甕	平安	-	(23.0)	-	内外面ハケ、内面指頭痕	明褐	赤褐	金雲母・石英・白粒	20	
51	1	6住	2・カマド一括・6住一括	1	土師器	杯	平安	10.9	4.3	5.3	内面暗文、外面下部ヘラ削り、底面全面ヘラ削り	橙	橙	金雲母・石英・赤粒	90	底面刻書
51	2	6住	1	2	土師器	杯	平安	10.6	4.3	5.1	内面暗文、外面下部ヘラ削り、底面全面ヘラ削り	にぶい褐	明赤褐	金雲母・赤粒	75	底面刻書
51	3	6住	11・28	3	土師器	杯	平安	[12.6]	(2.7)	-	内面暗文	橙	橙	赤粒	破片	
51	4	6住	27	4	土師器	杯	平安	-	(3.0)	[8.2]	内面ハケ、底面木葉痕	暗赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英	破片	
51	5	6住	31	5	土師器	甕	平安	-	(2.9)	[8.0]	内外面ハケ、底面木葉痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英	破片	
51	6	6住	13	6	土師器	甕	平安	-	(6.5)	-	内外面ハケ	明褐	明褐	金雲母・石英	破片	
51	7	6住	34	7	土師器	甕	平安	-	(6.0)	-	内外面ハケ	暗褐	暗褐	金雲母・石英	破片	
51	8	6住	25	8	鉄製品	鎌	平安	長 [15.6]	幅 1.9	厚 0.4	-	-	-	-	-	保存処理番号 29530、基部欠損
51	1	7住	17	7	土師器	杯	平安	[12.7]	4.4	(5.8)	内面暗文、外面下部ヘラ削り	にぶい褐	にぶい褐	金雲母・赤粒	破片	
51	2	7住	67	3	土師器	杯	平安	[11.2]	4.2	[5.0]	内面暗文、外面下部ヘラ削り	明赤褐	明赤褐・黒	金雲母・赤・白粒	破片	
51	3	7住	5・10、カマド24・一括	1	土師器	杯	平安	[11.0]	3.9	5.5	内面暗文、外面下部ヘラ削り	橙	橙・にぶい橙・褐灰	赤・白粒	50	
51	4	7住	16・一括	4	土師器	杯	平安	[11.0]	(3.6)	-	内面暗文、外面下部ヘラ削り	明赤褐	明赤褐	赤・白粒	破片	
51	5	7住	9・一括	6	土師器	杯	平安	[11.8]	(3.8)	-	内面暗文、外面下部ヘラ削り	橙	橙	金雲母・赤・白粒	破片	
51	6	7住	62	2	土師器	杯	平安	-	(2.4)	5.3	内面暗文、外面ヘラ削り、底面回転糸切り後周囲ヘラ削り	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白粒	破片	

図	番号	出土位置	遺物番号	須料	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調（内）	色調（外）	胎土	残存率	備考
51	7	7住	87	12	土師器	高台付杯	平安	-	(0.4)	[9.0]	見込み器暗文、削り出し高台	橙	橙	金雲母・石英・赤粒	破片	
51	8	7住	44	9	土師器	高台付杯	平安	-	(1.1)	[6.4]	内面暗文、削り出し高台	橙	橙	金雲母・赤・白粒	破片	底面刻書
51	9	7住	56	11	土師器	杯	平安	-	(0.4)	-		橙	橙	雲母・赤粒	破片	底面刻書
51	10	7住	90、カマド一括	10	土師器	皿	平安	[13.6]	2.2	[3.4]	内面暗文、体部下半～底面回転ヘラ削り	橙	にぶい黄橙	金雲母・石英・赤粒	25	
51	11	7住	カマド一括	14	土師器	蓋	平安	[15.6]	(1.1)	-		褐	橙	金雲母・赤・白粒	破片	
51	12	7住	25	8	土師器	甕	平安	[19.6]	(4.8)	-	内外面ハケ	橙・褐	明黄褐	金雲母・石英・白粒	破片	
51	13	7住	60・一括、カマド5	5	土師器	甕	平安	-	(7.6)	7.6	内外面ハケ、底面木葉痕	灰褐	褐灰	金雲母・石英・白粒	破片	
51	14	7住	カマド8	15	土師器	甕	平安	[10.8]	(2.0)	-	内面ハケ	黒褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
51	15	7住	28	13	土師器	甕	平安	-	(1.8)	[6.6]	内外面ハケ	黒褐	黒褐	金雲母・石英・白粒	破片	
51	16	7住	72	16	陶器	甕	平安	-	(10.3)	-	外面タタキ、内面ナデ	にぶい褐	灰	石英・赤・白・黒粒	破片	
51	17	7住	52	17	陶器	甕	平安	-	(7.6)	-	外面タタキ、内面ナデ	にぶい褐	灰	石英・白粒	破片	
51	18	7住	45	18	陶器	甕	平安	-	(5.0)	-	外面タタキ、内面ナデ	褐	褐灰	石英・白・黒粒・小石	破片	
52	1	8住	カマド9・19・20・23・24	6	土師器	杯	平安	13.8	4.1	5.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	褐	褐	雲母・石英・赤・白粒	85	
52	2	8住	107	3	土師器	杯	平安	[13.5]	4.5	5.7	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい褐	にぶい褐	金雲母・石英・赤・白粒	80	
52	3	8住	115	2	土師器	皿	平安	[9.0]	2.1	3.6	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白粒	30	
52	4	8住	54	1	土師器	皿	平安	8.7	2.1	4.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白・黒粒	99	
52	5	8住	1Pit3	4	土師器	皿	平安	[7.8]	(2.5)	-	ロクロナデ	明褐	明褐	金雲母・赤・白粒	破片	
52	6	8住	51・カマド一括	5	土師器	皿	平安	[9.6]	(2.3)	-	ロクロナデ	明黄褐	明黄褐	金雲母・赤・白粒	20	
52	7	8住	49	7	土師器	高台付杯	平安	15.8	5.1	高台径5.8	ロクロナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	金雲母・石英・赤・白粒	95	
52	8	8住	カマド21	10	土師器	高台付杯	平安	-	(2.7)	高台径6.8	ロクロナデ	橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	40	
52	9	8住	62・63	9	土師器	柱状高台付皿	平安	[8.0]	3.6	4.0	ロクロナデ、高台部外面上半回転ヘラ削り、底面回転糸切り痕不明瞭	橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	70	
52	10	8住	カマド36	8	土師器	柱状高台付杯	平安	16.0	5.5	8.0	ロクロナデ、高台部外面上半回転ヘラ削り、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・赤・白粒	80	
52	11	8住	86・132・139・一括	14	土師器	甕	平安	[32.4]	(10.8)	-	内外面ヘラ削り	褐	褐	金雲母・赤・白粒	破片	
52	12	8住	149・一括	13	土師器	甕	平安	[34.8]	(4.9)	-	内面ヘラ削り、外面ハケ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	内面輪積み痕
52	13	8住	95・130・141、カマド一括	15	土師器	鉢?	平安	-	(5.3)	[16.0]	外面下ヘラ削り	にぶい橙	にぶい橙	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
52	14	8住	10・1P44	11	土師器	鍋	平安	[30.2]	(3.8)	-	内面ヘラナデ	褐	褐	金雲母・赤・白粒	破片	把手1個残存
52	15	8住	35・37・一括、カマド8	12	土師器	羽釜	平安	[28.4]	(5.9)	-	内外面ハケ	褐	褐	金雲母・赤・白粒	破片	羽部剥離
52	16	8住	26・45	17	須恵器	壺	平安	-	(6.8)	[14.4]	ロクロナデ	灰	灰	白・黒粒	10	内外面自然釉
52	17	8住	17・24、カマド一括	18	土師器	羽釜	平安	[24.0]	(8.8)	-	内面ハケ、外面ナデ・ヘラナデ	黒褐	黒褐	金雲母・白・黒粒	破片	羽部剥離
52	18	8住	106	19	鉄製品	鉄鏃	平安	長 [10.5]	最大幅0.8	最大厚0.9	-	-	-	-	-	保存処理番号29531、先端部欠損
52	19	8住	134-1	20	鉄製品	不明	平安	長 [6.5]	最大幅1.0	最大厚0.7	-	-	-	-	-	保存処理番号29532、両端欠損
52	20	8住	134-2	21	鉄製品	鉄鏃?	平安	長 [6.2]	最大幅1.6	最大厚0.7	-	-	-	-	-	保存処理番号29533、柄部欠損
52	21	8住	一括	22	鉄製品	不明	平安	長 [3.7]	最大幅0.7	最大厚0.8	-	-	-	-	-	保存処理番号29534、一端欠損
53	1	9住	3・4	2	土師器	杯	平安	[10.0]	4.5	[3.4]	内面暗文、外面下部ヘラ削り、底面ヘラ削り	橙	橙	赤・黒粒	20	
53	2	9住	5	1	土師器	杯	平安	[10.4]	(4.1)	-	内面暗文、外面下部ヘラ削り	橙	橙	雲母・赤・白粒	20	
53	3	9住	1	3	土師器	高台付皿	平安	[16.0]	2.2	[8.0]	内面暗文、体部下半～底面回転ヘラ削り	明褐	明褐	雲母・赤・白粒	20	底面墨書
53	1	10住	75	14	土師器	杯	平安	14.6	4.3	6.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	黒・橙	黒	雲母・石英・黒粒	70	内外面黒色付着
53	2	10住	77	13	土師器	杯	平安	14.4	4.2	6.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	暗褐	暗褐	雲母・石英・赤・白粒	80	内外面黒色付着
53	3	10住	11・54・57・67	25	土師器	杯	平安	[19.2]	(4.6)	-	ロクロナデ	褐	褐	金雲母・赤・白粒	破片	
53	4	10住	35	17	土師器	杯	平安	-	(1.8)	5.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明黄褐	にぶい黄褐	雲母・石英・赤・黒粒	破片	
53	5	10住	49・56	24	土師器	杯	平安	-	(1.7)	[6.0]	外面ヘラ削り、底面回転糸切り痕後周縁ヘラ削り	橙	橙	雲母・赤・白粒	破片	
53	6	10住	2カマド3	12	土師器	高台付杯	平安	-	(1.5)	8.0	ロクロナデ	明褐	明褐	雲母・石英・白粒	破片	
53	7	10住	1カマド52・55・57	10	土師器	皿	平安	11.4	2.5	5.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	黄褐	黄褐	雲母・赤・白粒	破片	
53	8	10住	22	6	土師器	皿	平安	9.3	2.5	4.3	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	雲母・赤・白粒	80	
53	9	10住	1カマド54・56	7	土師器	皿	平安	9.0	2.2	4.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	雲母・赤・白粒	70	
53	10	10住	66	4	土師器	皿	平安	9.0	2.5	4.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	褐	褐	雲母・白粒	90	
53	11	10住	53	2	土師器	皿	平安	8.7	2.2	4.5	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・赤・白粒	95	口縁の一部内側にまくれる
53	12	10住	1カマド21	1	土師器	皿	平安	8.1	2.1	4.7	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	雲母・赤・白粒	100	
53	13	10住	93	8	土師器	皿	平安	[8.0]	1.9	4.6	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	60	
53	14	10住	76	16	土師器	皿	平安	[9.0]	2.6	4.6	ロクロナデ、底面一部糸切り痕	橙	橙	雲母・石英・赤粒	40	
53	15	10住	32	5	土師器	皿	平安	7.3	2.2	3.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕不明瞭	橙	橙	雲母・石英・赤・白粒	95	
53	16	10住	78	15	土師器	皿	平安	7.8	2.0	4.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	雲母・石英・黒粒	70	器形が歪んでる
53	17	10住	88・97・99・一括	9	土師器	皿	平安	[10.4]	(2.2)	-	ロクロナデ	灰黄褐	灰黄褐	金雲母・赤粒	60	柱状高台か
53	18	10住	1カマド35	11	土師器	柱状高台	平安	-	(3.1)	7.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	雲母・赤・白粒	破片	
53	19	10住	98・2カマド2	23	土師器	柱状高台	平安	-	(3.6)	[6.4]	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	褐	褐	雲母・石英・赤・黒粒	破片	
53	20	10住	1・95・1カマド41	22	土師器	高台付皿	平安	[21.2]	(4.7)	-	ロクロナデ	明褐	灰黄褐・明褐	金雲母・赤粒	破片	特殊な器形
53	21	10住	27・一括	21	土師器	柱状高台皿	平安	[8.5]	2.8	5.2		橙	橙	雲母・石英・赤・白粒	70	
53	22	10住	68	3	土師器	柱状高台皿	平安	9.3	2.9	4.9	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	雲母・白粒	95	
53	23	10住	104・1カマド44	26	土師器	甕	平安	[27.0]	(7.4)	-	内外面ハケ	褐	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	口唇部横位に削り
53	24	10住	1カマド9	27	土師器	甕	平安	[28.0]	(3.9)	-	内面ハケ、外面指頭痕	褐	褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	口唇部横位に削り

図	番号	出土位置	遺物番号	図版	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調（内）	色調（外）	胎土	残存率	備考
54	25	10住	23・29・30・84	31	土師器	甕	平安	〔28.0〕	24.7	〔15.0〕	内外面ハケ、底面木葉痕	にぶい褐	黒褐	金雲母・石英・白・黒粒	30	ハケは密で薄い、輪積み痕
54	26	10住	106・107・108	19	土師器	甕	平安	-	(2.1)	〔13.2〕	底面木葉痕	黒褐	黒褐	雲母・石英・赤・黒粒	破片	外面黒色付着物
54	27	10住	1カマド19	18	土師器	甕	平安	-	(2.5)	12.4	底面木葉痕	褐	褐	雲母・石英・赤・黒粒	破片	外面黒色付着物
54	28	10住	38・39・42・44、1カマド37・39・42・63・一括	30	土師器	甕	平安	〔30.6〕	(18.8)	-	内外面ハケ	褐	褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	口唇部横位に削り、ハケは密で薄い
54	29	10住	1カマド26	20	土師器	甕	平安	-	(1.8)	〔13.6〕	底面木葉痕	暗褐	にぶい黄橙	金雲母・石英・黒粒	破片	
54	30	10住	1カマド47	28	土師器	甕	平安	〔30.0〕	(10.3)	-	内外面ハケ	暗褐	暗褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	ハケは密で薄い
54	31	10住	71・72・73、1カマド29・一括	29	土師器	甕	平安	〔29.2〕	(12.6)	-	内外面ハケ	にぶい褐	黒褐	金雲母・石英・黒粒	破片	ハケ薄い、外面付着物
54	32	10住	5	32	石器	砥石	平安	最大長9.0	最大幅3.6	最大厚3.6	139 g			凝灰岩		
54	33	10住	20	33	鉄製品	鉄鏃	平安	長(11.6)	最大幅1.65	最大厚1.0	-	-	-	-	-	保存処理番号29535、柄部欠損
54	34	10住	48	34	鉄製品	不明	平安	長(3.0)	最大幅0.5	最大厚0.3	-	-	-	-	-	保存処理番号29536、両端欠損
55	1	11住	3・6・9・一括	2	土師器	坏	平安	〔13.0〕	4.5	5.6	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤粒	50	
55	2	11住	7・一括、H-35G1686	1	土師器	皿	平安	9.2	3.1	3.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	褐～明褐	褐～明褐	金雲母・石英・赤粒	95	
55	3	11住	1	5	土師器	甕	平安	〔23.2〕	(15.1)	-	内外面ハケ	褐	褐	金雲母・石英・黒粒	破片	ハケ非常に薄い、外面煤付着物、輪積み痕
55	4	11住	11	4	土師器	甕	平安	〔30.0〕	(7.8)	-	内外面ハケ	褐	褐	金雲母・石英・黒粒	破片	ハケ非常に薄い
55	5	11住	21	3	土師器	鉢？	平安	〔34.4〕	(8.0)	-	内面ハケ、外面ケズリ・ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英	破片	ハケ薄い、内面器面が荒れてる
55	1	12住	83-1・93	1	土師器	坏	平安	10.9	3.1	5.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・赤・白粒	100	底部に穿孔径0.9cm
55	2	12住	2カマド3	4	土師器	坏	平安	11.1	2.9	4.3	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	金雲母・石英・赤・白粒	100	胎土に砂多い
55	3	12住	85	5	土師器	坏	平安	11.2	2.8	4.9	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	褐	明褐	金雲母・赤・白粒	50	歪んでいる
55	4	12住	22・23・24・25・84	2	土師器	坏	平安	10.7	2.9	4.3	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・石英・赤・白粒	80	歪んでいる
55	5	12住	65・66・67・68・69・70・71・82・83-2	3	土師器	坏	平安	11.3	3.3	4.7	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・赤・白粒	100	口縁の一部歪んでいる
55	6	12住	2カマド5	6	土師器	坏	平安	〔10.1〕	(3.0)	〔5.6〕	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白粒	30	
55	7	12住	11・39・56、2カマド1・一括、3カマド6・10	16	土師器	甕	平安	〔31.3〕	(22.2)	-	内面ハケナデ	暗赤褐	暗赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
56	8	12住	93、2カマド2・6、3カマド3・20	15	土師器	甕	平安	〔30.2〕	(18.3)	-	内外面ハケ	橙	橙	金雲母・石英・白粒	破片	輪積み痕
56	9	12住	10・88、2カマド7、3カマド4・11・22	14	土師器	甕	平安	〔25.4〕	(15.0)	-	内面ヘラナデ	褐	褐	金雲母・石英・白粒	破片	外面黒色付着物
56	10	12住	20・73・87・91、3カマド2・23、F-22G	13	土師器	甕	平安	-	(10.6)	9.7	内外面ハケ、底面木葉痕	褐	褐・黒褐	金雲母・石英・白粒	20	
56	11	12住	81	12	灰釉陶器	碗	平安	〔15.0〕	6.3	7.6	外面下部・底面回転ヘラ削り	灰白	-	白粒	50	漬け掛け
56	12	12住	4・F-19G2240	9	灰釉陶器	碗	平安	〔16.0〕	(3.8)	-	内外面釉	灰白	-	白・黒粒	破片	
56	13	12住	80	17	灰釉陶器	碗	平安	〔14.2〕	(3.0)	-		灰白	-	白・黒粒	破片	
56	14	12住	41	18	灰釉陶器	碗	平安	〔14.6〕	(3.4)	-		灰白	-	白・黒粒	破片	
56	15	12住	50・54・72・西	10	灰釉陶器	碗	平安	-	(2.5)	〔7.8〕	外面・底面回転ヘラ削り	灰白	-	赤・白・黒粒	破片	
56	16	12住	92・2カマド4	8	灰釉陶器	皿	平安	12.5	2.7	6.3	内外面釉	灰白	-	赤・白・黒粒	80	漬け掛け
56	17	12住	15・16・17	7	灰釉陶器	皿	平安	〔11.0〕	2.0	〔6.0〕	内面に釉	灰白	-	白粒	50	内面付着物
-	-	12住	19	-	鍛冶滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.3
-	-	12住	64	-	鍛冶滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.4
56	1	13住	カマド13・14	7	土師器	坏	平安	14.0	4.3	6.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	雲母・赤・白粒	99	口縁部・体部内面の一部煤付着（灯明皿）
56	2	13住	52、F-20G2164	6	土師器	皿	平安	〔9.4〕	2.8	4.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	雲母・石英・赤・白粒	50	底面いびつ
56	3	13住	カマド7	3	土師器	皿	平安	〔10.0〕	2.8	4.4	ロクロナデ	褐	褐	雲母・石英・赤・黒粒	50	
56	4	13住	カマド12	5	土師器	皿	平安	〔8.8〕	2.2	4.0	ロクロナデ	褐	褐	雲母・石英・赤・白粒	40	
56	5	13住	カマド一括	1	土師器	皿	平安	〔13.6〕	(1.9)	-	ロクロナデ	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白粒	破片	
56	6	13住	一括、カマド1	10	土師器	柱状高台皿	平安	8.0	2.6	5.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい褐	にぶい褐	石英・赤・白・黒粒	85	
56	7	13住	68	9	土師器	柱状高台	平安	-	(2.0)	5.0	ロクロナデ	橙	橙	石英・赤・白粒	60	全体に磨耗
57	8	13住	51	16	土師器	甕	平安	〔23.6〕	(5.0)	-	内面ハケ	にぶい褐	にぶい褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
57	9	13住	カマド18	13	土師器	甕	平安	-	(2.1)	13.6	底面木葉痕	にぶい褐	にぶい褐	金雲母・石英・赤・白粒	20	
57	10	13住	カマド19・20	12	土師器	甕	平安	-	(17.7)	6.6	内外面ハケ、底面ヘラ削り	暗褐	暗褐	雲母・石英・赤・白粒	40	胴部外面上部煤付着（欠損後の付着）
57	11	13住	カマド3	15	土師器	羽釜	平安	〔24.4〕	(6.0)	-		褐	褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
57	12	13住	カマド15・16・一括	14	土師器	羽釜	平安	〔13.6〕	(7.4)	-	外面ハケ	褐	褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	ハケ薄い
57	13	13住	11	11	土師器	ミニチュア甕	平安	〔6.8〕	3.0	4.4		褐	褐	雲母・赤・白粒	90	
57	14	13住	一括	19	鉄製品	環状	平安	長2.1	最大幅3.1	最大厚0.7	-	-	-	-	-	保存処理番号29537
57	1	14住	7・8・一括	1	土師器	坏	平安	〔11.0〕	4.3	5.0	体部下部ヘラ削り、底面全面ヘラ削り	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤粒	50	底面墨書「口寺」
57	2	14住	9・10・一括、21住59	2	土師器	坏	平安	〔11.4〕	3.2	〔6.0〕	内面暗文、体部下部ヘラ削り、底面全面ヘラ削り	明赤褐	明赤褐	赤粒	50	
57	3	14住	12	4	土師器	皿	平安	〔14.6〕	(2.0)	-	内面渦巻き暗文、体部下半ヘラ削り	赤褐	赤褐	金雲母・赤粒	破片	
57	4	14住	37	3	土師器	皿	平安	〔14.6〕	(2.3)	-	内面渦巻き暗文、外面体部下半回転ヘラ削り	明赤褐	明赤褐	雲母・赤粒	破片	
57	5	14住	一括	6	土師器	甕	平安	〔10.8〕	(2.7)	-	外面ハケ	褐	暗赤褐	雲母・石英	破片	
57	6	14住	33・41、21住23	7	土師器	甕	平安	〔15.8〕	(6.3)	-	内外面ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英	破片	
57	7	14住	6・一括	5	土師器	皿	平安	-	(1.0)	〔6.2〕	内面渦巻き暗文、外面体部下半～底面回転ヘラ削り	明赤褐	橙	雲母・赤粒	破片	
57	1	15住	92・93・94	31	土師器	坏	平安	14.6	4.2	7.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい褐	にぶい褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	98	
57	2	15住	97・113	33	土師器	坏	平安	14.1	4.4	6.3	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐・黒褐	明褐・黒褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	80	
57	3	15住	121	32	土師器	坏	平安	13.5	4.3	5.6	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	95	
57	4	15住	111	7	土師器	坏	平安	〔13.8〕	(3.5)	-	ロクロナデ	明褐	黒褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	
57	5	15住	112・129・一括	6	土師器	坏	平安	〔13.8〕	(3.9)	-	ロクロナデ	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	

図	番号	出土位置	遺物番号	図版	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調（内）	色調（外）	胎土	残存率	備考
57	6	15住	102	8	土師器	坏	平安	〔11.4〕	(3.1)	-	ロクロナデ	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	
58	7	15住	73・76	27	土師器	坏	平安	-	(2.0)	6.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・石英・赤・白粒	50	
58	8	15住	4	26	土師器	坏	平安	-	(2.0)	〔7.2〕	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい褐	橙	金雲母・石英・白粒	30	
58	9	15住	123	2	土師器	坏	平安	-	(2.1)	〔5.4〕	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	
58	10	15住	116	3	土師器	坏	平安	-	(1.9)	〔5.4〕	ロクロナデ、底面回転糸切り痕不明瞭	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	
58	11	15住	67	1	土師器	坏	平安	-	(2.7)	5.6	ロクロナデ、底面回転糸切り痕不明瞭	暗褐	黄褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
58	12	15住	47	9	土師器	坏	平安	-	(1.3)	〔6.4〕	内面暗文、体部ヘラ削り	黒	明褐	赤・白粒	破片	内面黒色土器
58	13	15住	122	25	土師器	高台付坏	平安	-	(3.5)	高台径〔6.6〕	ロクロナデ	にぶい褐	にぶい褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	50	
58	14	15住	10	11	土師器	高台付	平安	-	(2.0)	〔6.8〕	ロクロナデ	明褐	明褐	赤・白・黒粒	破片	
58	15	15住	105	23	土師器	皿	平安	〔9.4〕	2.6	4.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・石英・赤・白粒	50	
58	16	15住	90	18	土師器	皿	平安	9.0	2.4	4.7	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白粒	100	
58	17	15住	91	19	土師器	皿	平安	7.9	2.2	4.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい橙	にぶい橙	金雲母・赤粒	98	
58	18	15住	108	22	土師器	皿	平安	〔8.5〕	2.1	4.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕不明瞭	灰褐	灰褐	金雲母・石英・白粒	60	
58	19	15住	110	10	土師器	皿	平安	〔9.6〕	(2.0)	-	ロクロナデ	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
58	20	15住	124	24	土師器	皿	平安	〔9.4〕	1.9	5.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕不明瞭	橙	橙	金雲母・赤・白粒	70	全体に磨耗
58	21	15住	36・61	5	土師器	皿	平安	-	(1.5)	4.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	
58	22	15住	32	4	土師器	皿	平安	-	(1.1)	4.6	ロクロナデ、底面回転糸切り痕不明瞭	褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
58	23	15住	12・125・一括	21	土師器	柱状高台皿	平安	10.2	2.7	5.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・石英・白粒	80	
58	24	15住	96	20	土師器	柱状高台皿	平安	8.5	2.6	4.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	灰褐	灰褐	金雲母・石英・白粒	80	
58	25	15住	115	30	土師器	柱状高台	平安	-	(2.3)	4.6	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	暗褐	暗褐	金雲母・赤・白・黒粒	20	
58	26	15住	126	28	土師器	柱状高台	平安	-	(2.2)	4.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・石英・赤・白・黒粒	20	
58	27	15住	8	29	土師器	柱状高台	平安	-	(2.2)	4.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	暗褐	暗褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	20	
58	28	15住	98・99・100・101・104	17	土師器	甕	平安	〔35.4〕	(23.4)	-	内外面ハケ	暗褐	暗褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	外面付着物（被熱）、輪積み痕
58	29	15住	34・107・一括	16	土師器	甕	平安	-	(2.0)	〔13.8〕	底面木葉痕	褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
58	30	15住	20	14	土師器	羽釜	平安	〔16.4〕	(3.9)	-	内面ハケ	暗褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	羽部欠損
58	31	15住	69	13	土師器	甕	平安	〔23.0〕	(5.0)	-	内面ハケ	褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
58	32	15住	62・109	12	土師器	甕	平安	-	(4.0)	-	接合部に窪み	暗褐	暗褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	外面付着物（被熱）、上部剥離痕
58	33	15住	117	15	土師器	鉢	平安	〔16.2〕	8.5	〔8.4〕	ロクロナデ	褐	褐	雲母・赤・白・黒粒	20	器面荒れてる
58	34	15住	58	34	石器	砥石	平安	長5.6	幅4.8	厚4.1	重量146g					1面砥
-	-	15住	44	-	鍛冶滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.5
-	-	15住	106	-	鉄滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.6
-	-	15住	114	-	鉄滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.10
-	-	15住	128	-	鉄滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.7
-	-	15住	130	-	鉄滓？	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.8
-	-	15住	133	-	鉄滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.9
59	1	16住	28	1	土師器	坏	平安	〔16.4〕	(3.0)	-	内面暗文、外面下部ヘラ削り	橙	橙	金雲母・赤・黒粒	20	
59	2	16住	カマド15・18	2	土師器	坏	平安	-	(2.2)	6.6	底面回転糸切り痕不明瞭	橙	橙	雲母・赤粒	30	全体に磨耗
59	3	16住	17	3	土師器	皿	平安	-	(2.1)	5.2	内面渦巻き暗文、体部外面～底面回転ヘラ削り	明褐	明褐	金雲母・赤粒	20	
59	4	16住	12	4	土師器	皿	平安	-	(1.4)	6.0	外面下部ヘラ削り	橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	20	体部外面刻書
59	5	16住	4	5	土師器	甕	平安	〔13.8〕	8.8	7.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	暗褐	金雲母・赤・黒粒	80	口縁～胴部にヒビ
59	6	16住	5・9・6・8-3、カマド2・6・10・11・13・14・16	6	土師器	甕	平安	-	(12.5)	〔9.0〕	内外面ハケ、底面木葉痕	赤褐	暗褐	金雲母・石英・白・黒粒	25	胴部外面一部に煤付着
59	7	16住	一括	8	須恵器	甕？	平安	〔28.8〕	(1.7)	-		灰	灰	赤・白・黒粒	破片	
59	8	16住	14・16	9	須恵器	甕？	平安	〔28.0〕	(2.5)	-		灰	灰	赤・白粒	破片	
59	9	16住	13	7	陶器	甕	平安	-	(4.4)	-	外面タタキ、内面ナデ	灰色	-	赤・白・黒粒	破片	胎土にぶい赤褐色
59	1	17住	17・18住11・13、17住一括	[illegible]	土師器	坏	平安	〔13.4〕	5.2	6.2	内面暗文、体部外面下部ヘラ削り、底面回転糸切り後周縁ヘラ削り	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	70	底面刻書
59	2	17住	17・18住5・19	[illegible]	土師器	坏	平安	〔11.8〕	(4.3)	-	内面暗文、体部外面下部ヘラ削り	明赤褐	明赤褐	赤・白粒	破片	
59	3	17住	17・18住8	[illegible]	土師器	蓋	平安	-	(2.1)	-	ロクロナデ	褐	褐	赤・白粒	破片	
59	4	17住	17・18住83、17住カマド2	[illegible]	土師器	皿	平安	〔16.0〕	3.0	5.8	内面渦巻き暗文、外面下部～底面回転ヘラ削り	明褐	明褐	赤・白・黒粒	30	底面刻書
59	5	17住	17・18住94	[illegible]	土師器	皿	平安	-	(1.8)	〔6.2〕	内面渦巻き暗文、外面下部～底面回転ヘラ削り	褐	褐	赤・黒粒	破片	底面刻書
59	6	17住	17・18住9、17住カマド	[illegible]	土師器	皿	平安	〔16.0〕	(2.6)	-	ロクロナデ	明褐	明褐	赤・白・黒粒	破片	
59	7	17住	17・18住6	[illegible]	陶器	甕	平安	-	(8.7)	-	外面タタキ、内面おさえ痕	灰	灰	赤・白粒	破片	胎土にぶい赤褐色
60	1	18住	17・18住23・64、18住一括	[illegible]	土師器	坏	平安	〔12.2〕	(3.2)	-	ロクロナデ	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	30	
60	2	18住	17・18住76	[illegible]	土師器	皿	平安	8.6	2.6	4.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	100	
60	3	18住	17・18住79	[illegible]	土師器	皿	平安	8.3	2.2	3.9	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	95	
60	4	18住	17・18住65	[illegible]	土師器	皿	平安	8.3	2.2	5.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	赤・白・黒粒	60	
60	5	18住	17・18住63	[illegible]	土師器	皿	平安	〔8.0〕	2.0	〔3.6〕	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	40	
60	6	18住	17・18住70	[illegible]	土師器	皿	平安	〔8.2〕	2.2	4.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕不明瞭	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白粒	40	
60	7	18住	17・18住78・84	[illegible]	土師器	皿	平安	〔8.8〕	(2.1)	〔4.7〕	ロクロナデ、底面回転糸切り痕不明瞭	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	40	
60	8	18住	17・18住51	[illegible]	土師器	皿	平安	〔7.6〕	2.3	〔4.2〕	ロクロナデ、底面回転糸切り痕不明瞭	褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	60	
60	9	18住	17・18住20	[illegible]	土師器	柱状高台	平安	-	(3.5)	7.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	赤・白・黒粒	破片	

図	番号	出土位置	遺物番号	掲載	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調（内）	色調（外）	胎土	残存率	備考
60	10	18住	17・18住27	[illegible]	土師器	柱状高台	平安	-	(1.9)	4.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕不明瞭	明褐	明褐	石英・赤・白粒	破片	
60	11	18住	17・18住75	[illegible]	土師器	甕	平安	[33.8]	(7.4)	-	内面ヘラナデ、外面ナデ	褐	暗褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
60	12	18住	17・18住54・56・57・60	[illegible]	土師器	甕	平安	[31.8]	(11.1)	-	内外面ナデ	暗褐	暗褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
60	13	18住	17・18住77	[illegible]	土師器	鉢?	平安	[24.1]	(4.2)	-	内外面ナデ	褐	暗褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
60	14	18住	17・18住73	[illegible]	土師器	甕	平安	[19.6]	(4.2)	-	内外面ハケ	明褐	明褐	石英・赤・白・黒粒	破片	
60	15	18住	17・18住90	[illegible]	土師器	鉢?	平安	-	(4.2)	[13.0]	内外面ナデ	褐	褐	石英・赤・白・黒粒	破片	
60	16	18住	17・18住52	[illegible]	土師器	甕	平安	-	(3.3)	[13.0]	外面・底面ヘラ削り	褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
60	17	18住	17・18住一括	[illegible]	陶器	皿	平安	-	(0.7)	[4.0]		褐	褐	-	破片	胎土灰色
60	1	19住	7・10・13	3	土師器	杯	平安	10.8	3.9	6.0	内面暗文、外面ヘラ削り、底面全面ヘラ削り	灰褐	橙	金雲母・石英・赤・白・黒粒	50	
60	2	19住	6	2	土師器	杯	平安	[9.0]	4.2	[4.6]	内面暗文、外面ヘラ削り、底面ヘラ削り	橙	橙	雲母・石英・赤・白粒	20	
60	3	19住	8・9	1	土師器	杯	平安	[10.4]	(3.8)	-	内面暗文、外面下部ヘラ削り	明赤褐	明赤褐	雲母・赤・白粒	30	
60	4	19住	15	6	土師器	甕	平安	-	(7.1)	7.2	内外面ハケ、底面木葉痕	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	20	内面輪積み痕、器面荒れてる
60	5	19住	11	4	土師器	杯	平安	-	(1.0)	[4.4]	底面回転糸切り痕	浅黄橙	暗褐	雲母・赤・白粒	破片	全体に磨耗、内面荒れてる
60	6	19住	一括	5	土師器	蓋	平安	[14.0]	(1.1)	-		橙	橙	雲母・赤・白・黒粒	破片	
61	1	20住	240・一括	7	土師器	杯	平安	14.8	4.7	5.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	70	
61	2	20住	55・186・一括	12	土師器	杯	平安	[17.2]	(5.3)	-	ロクロナデ	橙	橙	金雲母・赤・白粒	破片	
61	3	20住	60・254・一括	13	土師器	杯	平安	-	(1.9)	9.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
61	4	20住	72	9	土師器	杯	平安	-	(1.9)	7.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・赤・白粒	40	
61	5	20住	133・232・256	8	土師器	杯	平安	-	(2.9)	6.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白粒	60	
61	6	20住	2カマド2	10	土師器	杯	平安	-	(2.1)	[7.0]	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい褐	にぶい褐	金雲母・赤・白粒	30	
61	7	20住	138	4	土師器	皿	平安	9.6	2.2	4.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	99	
61	8	20住	53	11	土師器	杯	平安	[17.2]	3.3	7.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	金雲母・石英・赤・白粒	70	
61	9	20住	253	3	土師器	皿	平安	9.0	2.4	4.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・石英・赤・白・黒粒	99	
61	10	20住	63	2	土師器	皿	平安	8.8	2.5	4.6	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	雲母・赤・白粒	98	口縁部内面煤付着（灯明皿）
61	11	20住	116	5	土師器	皿	平安	[8.4]	2.6	4.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白粒	80	
61	12	20住	157	1	土師器	皿	平安	8.6	2.8	4.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	98	
61	13	20住	139・140・142	6	土師器	皿	平安	9.2	2.2	4.6	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	雲母・石英・赤・白粒	80	
61	14	20住	81・84・85・86・185	18	土師器	高台付杯	平安	-	(5.9)	[11.6]		褐	にぶい褐	金雲母・赤・白粒	30	杯部内面剥離
61	15	20住	131・210	17	土師器	柱状高台杯	平安	14.2	6.1	7.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・石英・赤・白粒	75	
61	16	20住	1カマド20	15	土師器	柱状高台皿	平安	[8.0]	2.4	5.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐	金雲母・石英・白・黒粒	80	
61	17	20住	24・一括	14	土師器	柱状高台皿	平安	[8.6]	2.6	4.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	褐	褐	金雲母・石英・赤・白粒	75	
61	18	20住	225	16	土師器	柱状高台皿	平安	9.2	2.7	4.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・赤・白粒	95	高台部磨耗、器形が歪んでる
61	19	20住	246	19	土師器	?	平安	-	(2.9)	-	削り	明赤褐	-	金雲母・赤・白粒	破片	腰部
61	20	20住	161・201・202・一括	32	土師器	甕	平安	[33.2]	(8.2)	-	内面ハケ	褐	赤褐	金雲母・石英・赤・白粒・小石	破片	
61	21	20住	10	37	土師器	甕	平安	[30.4]	(4.2)	-	内外面ハケ	橙	褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	外面ハケ目か
61	22	20住	75、1カマド21・一括、F-17G1792	25	土師器	甕	平安	-	(2.1)	[12.4]	外面ハケ、底面木葉痕	橙	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
62	23	20住	1カマド9・10・13	28	土師器	甕	平安	[26.0]	(12.5)	-	内面ハケ	赤褐	黒褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
62	24	20住	163・180・181・209、2カマド1	31	土師器	甕	平安	[24.9]	(17.4)	-	内面上部ハケ、外面ハケ・削り	褐	褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	輪積み痕
62	25	20住	47	24	土師器	甕	平安	-	(1.5)	14.5	底面木葉痕	褐	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	整形が悪
62	26	20住	255、1カマド3・14	23	土師器	甕	平安	-	(3.0)	[14.6]	内外面ハケ、底面木葉痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	ハケ薄い
62	27	20住	66・220・221・222・259・一括	30	土師器	堝	平安	[31.3]	(19.4)	-	内外面ハケ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白・黒粒・小石	破片	把手1残存
62	28	20住	1カマド7・12	35	土師器	堝	平安	[31.8]	(9.3)	-	外面ヘラナデ	褐	褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
62	29	20住	127・239	36	土師器	堝	平安	[23.8]	(4.4)	-		褐	褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
62	30	20住	170	33	土師器	羽釜	平安	-	(8.6)	-	内外面ハケ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	ハケ薄い
63	31	20住	32・107	38	土師器	置きカマド	平安	-	(3.8)	[34.4]	内面ハケ・ヘラナデ、底面ハケ	橙	褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
63	32	20住	67・68・88・218・224	34	土師器	置きカマド	平安	-	(9.0)	[33.4]	内面指頭痕、底面ハケ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
63	33	20住	90	29	土師器	置きカマド	平安	-	(12.5)	[30.8]	内面ヘラナデ、外面指頭痕	赤褐	黒褐	金雲母・白・黒粒・小石	破片	
63	34	20住	197	21	灰釉陶器	碗	平安	[14.0]	(3.2)	-		灰白	-	-	破片	
63	35	20住	一括	22	灰釉陶器	皿	平安	[9.0]	(1.2)	-		灰白	-	赤・白粒	破片	
63	36	20住	74	20	緑釉陶器	?	平安	-	(1.4)	-		灰白	-	-	破片	
63	37	20住	183	43	鉄製品	鉄鏃	平安	長(9.3)	最大幅1.4	最大厚0.7	-	-	-	-	-	保存処理番号29538、柄部欠損
63	38	20住	一括	44	鉄製品	不明	平安	長(5.4)	最大幅0.8	最大厚0.8	-	-	-	-	-	保存処理番号29539、両端欠損
63	39	20住	一括	45	鉄製品	不明	平安	長(3.0)	最大幅0.7	最大厚0.6	-	-	-	-	-	保存処理番号29540、両端欠損
63	40	20住	62	27	-	羽口	平安	長(7.0)	外径(8.6)	内径(3.6)	厚2.5	黄褐	暗灰黄	石英・赤・白・黒粒・植物	破片	一部被熱・発泡
63	41	20住	90	26	-	羽口	平安	長(5.4)	外径(8.6)	内径(2.6)	厚3.0	明褐	明褐	石英・赤・白・黒粒・植物	破片	
63	42	20住	98-1・2・3	39	-	羽口	平安	長(5.5)	外径(7.2)	内径(1.8)	厚2.7	褐	黄灰	石英・赤・白・黒粒・植物	破片	
63	43	20住	257	40	-	羽口	平安	長(3.7)	外径(7.6)	内径(1.8)	厚2.6～3.0	明褐	黒褐	石英・赤・白・黒粒・植物	破片	
63	44	20住	231	42	-	羽口	平安	長(3.3)	外径(7.0)	内径(2.2)	厚2.7	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白・黒粒・植物	破片	
63	45	20住	93	41	-	羽口	平安	長(3.3)	外径(8.2)	内径(3.0)	厚2.5～2.7	明褐	にぶい黄褐	石英・赤・白・黒粒・植物	破片	
-	-	20住	一括	-	鍛冶滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.11

図	番号	出土位置	遺物番号	資料	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調（内）	色調（外）	胎土	残存率	備考
-	-	20住	E-17G1889	-	鍛冶滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No. 12
64	1	21住	57	4	土師器	坏	平安	12.8	4.2	6.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	85	
64	2	21住	52	3	土師器	坏	平安	12.9	4.1	6.2～6.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	赤・白・黒粒	90	
64	3	21住	86・87・97・98・一括	7	土師器	坏	平安	13.0	4.6	6.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	赤・白・黒粒	80	器形が非常に歪んでる
64	4	21住	38・69	6	土師器	坏	平安	(12.6)	4.0	(6.4)	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	30	器形が歪んでる
64	5	21住	26・29・30・40・72	8	土師器	坏	平安	(11.2)	3.4	5.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	赤・白・黒粒	40	
64	6	21住	58	9	土師器	坏	平安	(8.7)	3.2	5.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	60	
64	7	21住	10・61・62・一括	5	土師器	皿	平安	9.8	2.6	5.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	90	器形が歪んでる
64	8	21住	11	11	土師器	甕	平安	-	(5.2)	(9.2)	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	
64	9	21住	36・42・一括	10	土師器	甕	平安	-	(5.6)	(7.2)	内外面ハケ、底面木葉痕	暗褐	暗褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
64	10	21住	44・45・46・47・49・73・81・82・8390・91・94・95・96・一括、22住一括	12	土師器	置きカマド	平安	(32.6)	(15.2)	-	内外面ハケ	褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	13と同一個体か
64	11	21住	93	13	土師器	置きカマド	平安	-	(10.0)	-	内外面ハケ	黒褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	12と同一個体か
64	12	21住	50・55・74・75・77	1	灰釉陶器	碗	平安	16.0	6.5	高台径 8.6	体部下部回転ヘラ削り	灰白	-	白・黒粒	85	漬け掛け
64	13	21住	62	2	灰釉陶器	皿	平安	(10.0)	(1.3)	-		灰白	-	-	破片	
65	1	22住	79	11	土師器	坏	平安	11.5	4.3	5.2	内面暗文、外面下部ヘラ削り、底面回転糸切り後周囲ヘラ削り	橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	90	
65	2	22住	143	12	土師器	坏	平安	(11.8)	(4.9)	-	内面暗文、外面体部下部ヘラ削り	赤褐	橙	金雲母・赤・白粒	20	
65	3	22住	18	7	土師器	坏	平安	-	(4.1)	(6.7)	ロクロナデ・底面回転糸切り痕	黄橙	黄橙	石英・白粒	破片	
65	4	22住	141・一括	10	土師器	坏	平安	(10.6)	3.5	4.2	内面暗文、外面下部ヘラ削り、底面全面ヘラ削り	赤褐・にぶい赤褐	赤褐	金雲母・赤・白粒	25	外面荒れてる
65	5	22住	48・56、F-15G1830・一括	6	土師器	皿	平安	(9.0)	1.7	5.2	底面回転糸切り痕	褐	褐	金雲母・石英・赤・白粒	60	
65	6	22住	163・164	8	土師器	皿	平安	8.7	2.5	4.0	ロクロナデ・底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・石英・赤・白粒	70	器形が歪んでる
65	7	22住	42	9	土師器	皿	平安	9.0	2.4	4.0	ロクロナデ・底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・石英・赤・白粒	70	
65	8	22住	67・74・一括	3	土師器	柱状高台坏	平安	-	(3.3)	6.0	底面回転糸切り痕	橙	橙	石英・赤・白粒	破片	回転糸切り痕非常に薄い
65	9	22住	70	4	土師器	高台付坏	平安	-	(3.2)	8.1		明赤褐	明赤褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	高台部内面一部煤付着
65	10	22住	71・73	5	土師器	柱状高台皿	平安	(7.1)	(3.1)	3.4	底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・石英・赤・白粒	30	
65	11	22住	160	1	土師器	甕	平安	(25.2)	(5.6)	-	内外面ハケ	赤褐	黒褐	金雲母・石英・白粒	破片	内面付着物
65	12	22住	139・152	2	土師器	甕	平安	(25.6)	(10.6)	-	内外面ハケ、内面指頭痕	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	外面付着物
65	13	22住	88・89・92	13	土師器	甕	平安	(21.6)	(16.1)	-	内外面ハケ、内面指頭痕	にぶい赤褐	黒褐	金雲母・石英・白粒	破片	
65	14	22住	34・135、F-15G1828	20	土師器	甕	平安	-	(3.1)	(13.6)	内面指頭痕、外面ヘラナデ、底面木葉痕	橙	橙	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
65	15	22住	58	16	土師器	甕	平安	(28.8)	(6.3)	-	内外面ハケ	にぶい褐	にぶい褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	ハケ薄い
65	16	22住	93	14	土師器	甕	平安	-	(4.9)	(7.6)	内外面ハケ、内面指頭痕、底面木葉痕	橙	褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
65	17	22住	122・158、F-15G2422	17	土師器	置きカマド	平安	-	(9.2)	(29.4)	内面ハケ、底面削り	明赤褐	明赤褐・暗赤褐	金雲母・石英・白・黒粒・小石	破片	
66	18	22住	161	19	土師器	置きカマド	平安	(37.4)	(7.2)	-		明赤褐	暗灰褐	金雲母・石英・白粒	破片	外面荒れてる
66	19	22住	37・F-15G1861・1863	22	土師器	置きカマド	平安	-	(9.2)	(30.0)	内面ハケ、底面ヘラ削り	褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
66	20	22住	29	18	土師器	置きカマド	平安	-	(5.9)	(26.4)		褐	褐	金雲母・石英・白粒・小石	破片	
66	21	22住	49・50・53	15	土師器	置きカマド	平安	-	(10.5)	(24.0)	内面ハケ	暗褐	暗褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒・小石		
66	22	22住	46	23	土師器	置きカマド	平安	-	(5.3)	(26.6)	内面ハケ、底面削り	にぶい赤褐	褐	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
66	23	22住	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・84・121・123・128・133・134・135・138・142・144・145・148・149・150・151・157・159、F-15G一括、F-16G1817	21	須恵器	凸帯耳壺	平安	-	(22.5)	12.8	内面指頭痕、外面タタキ目	褐灰	褐灰	石英・白粒・小石	60	胴部最大径に凸帯が巡り、貫通孔のある耳をもつ
67	1	23住	カマド2、F-18G	5	土師器	坏	平安	12.6	3.5	6.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・黒粒	85	歪んでる
67	2	23住	カマド3	4	土師器	坏	平安	11.0	2.8	5.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	雲母・石英・赤・白粒	80	口縁歪んでる
67	3	23住	カマド4	3	土師器	坏	平安	10.6	3.0	4.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	石英・赤・白・黒粒・植物	90	
67	4	23住	カマド7	2	土師器	坏	平安	-	(1.6)	6.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	褐	褐	雲母・赤粒	破片	歪んでる
67	5	23住	15	10	土師器	甕	平安	(36.0)	(3.6)	-	内外面ハケ	赤褐	赤褐	雲母・石英・白・黒粒	破片	
67	6	23住	12	1	土師器	甕	平安	-	(15.0)	-	内外面ハケ	黒褐	黒褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
67	7	23住	18	7	土師器	甕	平安	-	(5.9)	(9.8)	底面木葉痕	暗赤褐	暗赤褐	雲母・石英・赤・白粒	破片	外面煤付着
67	8	23住	27	6	土師器	甕	平安	-	(2.8)	(9.0)	底面に擦痕	褐	褐	金雲母・石英・白粒	破片	底面は擦痕の周囲がツルツル
67	9	23住	カマド6	9	灰釉陶器	碗	平安	(15.0)	(2.7)	-	-	灰白	-	-	破片	内外全面釉
67	10	23住	21、カマド8・9	8	灰釉陶器	碗	平安	-	(2.3)	7.2	-	灰白	-	白粒	破片	
67	1	1土	1	1	土師器	壺	古墳	(13.6)	(3.3)	-	内面ハケ	にぶい橙	にぶい橙	金雲母・白・黒粒	破片	
67	2	1土	2	2	土師器	甕	古墳	(11.6)	(2.0)	-	内外面ミガキ	明黄褐	明黄褐	白・黒粒	破片	
67	1	2土	7・8	1	土師器	皿	平安	-	(1.3)	(4.0)	底面回転糸切り痕	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
67	1	4土	1・4・5・7・9・10・11・一括	2	土師器	高台付坏	平安	(16.4)	7.4	8.0	外面下部～底面回転ヘラ削り	橙	橙	赤・白粒	40	削り出し高台
67	2	4土	2・50・12	1	土師器	高台付坏	平安	(16.0)	6.1	(8.0)	内面暗文、外面下部～底面回転ヘラ削り	橙	橙	金雲母・赤・白粒	30	削り出し高台、口縁部外面煤付着
67	3	4土	8	3	土師器	高台付坏	平安	(16.4)	(5.5)	-	外面下部回転ヘラ削り	橙	橙	金雲母・赤粒	破片	
68	1	5土	3	1	土師器	坏	平安	-	(2.8)	6.3	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	明黄褐	金雲母・赤・白・黒粒	破片	
68	2	5土	33	2	土師器	坏	平安	-	(3.4)	6.3	ロクロナデ、底面回転糸切り後ハケ	橙	暗褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	

図	番号	出土位置	遺物番号	瑞料	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調（内）	色調（外）	胎土	残存率	備考
68	3	5土	37	6	土師器	皿	平安	-	(2.5)	[7.0]	内面渦巻き暗文、外面体部下半・底面回転ヘラ削り	暗褐	黒褐	金雲母・白・黒粒	破片	
68	4	5土	34	3	土師器	皿	平安	9.1	2.0	4.2	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	褐	暗褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	100	
68	5	5土	35	4	土師器	皿	平安	9.2	2.2	4.6	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	雲母・赤・白・黒粒	100	内面煤付着
68	6	5土	11	5	土師器	甕	平安	-	(2.6)	-	内面指頭痕	にぶい赤褐	明褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	丸底
68	7	5土	29	7	土師器	鉢	平安	[8.6]	4.7	4.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明黄褐	明褐	赤・白・黒粒	50	
68	8	5土	14	8	-	羽口	平安	長(12.6)	外径8.7	内径2.8	厚2.6～3.2	褐・黒褐	褐・黒褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	外面付着物・発泡
-	-	5土	一括	-	剥片?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No.14
68	1	1溝	一括	1	土師器	坏	平安	[11.0]	(1.9)	-	ロクロナデ	明褐	明褐	赤・白・黒粒	破片	
68	2	1溝	一括	2	土師器	坏	平安	-	(1.7)	[7.4]	ロクロナデ	明褐	黄褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	全面磨耗
68	3	1溝	16	3	土師器	高坏	古墳	-	(2.5)	-	-	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	全面磨耗
68	4	1溝	23	5	土師器	壺?	古墳	-	(2.7)	[9.6]	内面ハケ、外面ヘラナデ、底面木葉痕	橙	橙	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	全面やや磨耗
68	5	1溝	一括	6	土師器	壺?	古墳	-	(2.1)	[8.0]	-	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
68	6	1溝	13	4	土師器	壺?	古墳	-	(2.2)	[6.8]	内面ヘラナデ、外面ハケ・ヘラ削り、底面ヘラ削り	にぶい黄褐	にぶい黄褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	全面磨耗
68	1	2溝	10	1	土師器	坏	平安	[14.0]	(2.7)	-	ロクロナデ	明褐	明褐	赤・白・黒粒	破片	
68	2	2溝	35	6	土師器	高坏	古墳	-	(5.1)	-	外面ヘラミガキ	橙	橙	雲母・赤・白・黒粒	破片	全面磨耗
68	3	2溝	37	5	土師器	壺	古墳	-	(2.7)	丸底	内面指ナデ	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	外面荒れてる
68	4	2溝	22	4	土師器	壺	古墳	-	(2.6)	[7.4]	内面ハケ、外面・底面ミガキ	明褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
68	5	2溝	26	3	土師器	壺	古墳	-	(2.6)	[6.2]	内面指ナデ	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	全面磨耗
68	6	2溝	15	2	土師器	壺	古墳	-	(2.0)	[5.2]	外面ハケ	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	全面やや磨耗
68	1	3溝	14	1	土師器	器台	古墳	[8.2]	(3.0)	-		明褐	明褐	赤・白・黒粒	破片	全面やや磨耗
69	1	4溝	16	5	土師器	坏	平安	-	(1.1)	[5.8]	内面暗文、底面全面ヘラ削り	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	底面墨書
69	2	4溝	18	3	土師器	坏	平安	[14.0]	(3.1)	-	ロクロナデ	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	
69	3	4溝	17	2	土師器	皿	平安	[12.8]	(2.2)	-	ロクロナデ	明褐	明褐	雲母・赤・白・黒粒	破片	
69	4	4溝	19	4	土師器	皿	平安	[14.0]	2.5	[9.2]	外面体部下部・底面ヘラ削り	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
69	5	4溝	11・13	7	土師器	壺	古墳	-	(2.6)	[9.4]	内外面ヘラナデ、底面木葉痕	黒褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
69	6	4溝	1	6	土師器	壺	古墳	-	(2.3)	[4.2]	内・外・底面ミガキ	褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
69	7	4溝	2・4・7	1	須恵器	甕	平安	-	(9.0)	-	外面タタキ目	黄灰	黄灰	白粒	破片	
69	1	5溝	3	1	土師器	坏	平安	-	(1.8)	[5.5]	内面暗文、外面・底面ヘラ削り	橙	橙	雲母・赤・白粒	破片	
69	2	5溝	2	2	土師器	坏	平安	-	(0.7)	4.5	内面暗文、外面ヘラ削り、底面回転糸切り後周縁ヘラ削り	橙	橙	雲母・赤・白粒	破片	
69	1	鉄14	1	1	土師器	皿	平安	[17.6]	(3.1)	-	内面渦巻き暗文	橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	破片	
69	1	流れ跡	7	1	土師器	坏	平安	[13.0]	(1.3)	-	ロクロナデ	黄褐	黄褐	雲母・赤・白粒	破片	
69	2	流れ跡	6	2	土師器	坏	平安	-	(1.4)	[6.2]	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	黒褐	黄褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	内面黒色土器
69	3	流れ跡	4	3	青磁	碗	平安	-	(1.8)	[5.6]		オリーブ灰	オリーブ灰		破片	胎土：灰白色
69	1	E-13	402・1416・1572	21	土師器	壺	古墳	[19.0]	(7.0)	-	内外面ハケ後ミガキ、口唇部棒状工具による刻み	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白粒	破片	
69	2	D・E-11	317・1404	54	土師器	壺	古墳	[12.6]	(6.5)	-	内外面ミガキ	褐	褐	石英・白・黒粒	破片	
69	3	D-9・10	278・286	56	土師器	壺	古墳	[10.4]	(3.7)	-	内外面ミガキ	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白粒	破片	
69	4	E-13	1517	44	土師器	壺	古墳	[16.6]	(4.0)	-	内面ミガキ・ヘラ削り、外面ミガキ	橙	橙	金雲母・石英・赤・白粒	破片	
69	5	C-9	1317	29	土師器	壺	古墳	-	(3.2)	-	頸部幅広の隆帯上に棒状工具による連続刻み	にぶい黄褐	にぶい黄橙	金雲母・赤・白粒	破片	全面磨耗、二重口縁壺
69	6	D-9	一括	25	土師器	壺	古墳	-	(2.2)	-	内面ハケ、外面櫛描波状文	にぶい黄	橙	金雲母・赤・白粒	破片	
69	7	D-11	1423	26	土師器	壺	古墳	-	(3.0)	-	内面ハケ、外面ハケ後櫛描波状文	にぶい黄橙	橙	金雲母・赤・白粒	破片	内面輪積み痕
69	8	E-13	134・136・137・375・1422・1548・1550・1559・1564・1566・1593・1599・1605・1633・一括	28	土師器	壺	古墳	-	(13.0)	4.0	内面ミガキ・ハケ・指頭痕、外面ミガキ	にぶい黄橙	橙	金雲母・赤・白粒	75	内面輪積み痕
69	9	E-13	1546	19	土師器	壺	古墳	-	(4.9)	[8.2]	内外面ハケ	にぶい黄	にぶい黄褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	30	
69	10	D-10	1123	40	土師器	壺	古墳	-	(2.5)	[7.4]	外面ハケ後ミガキ、内面ハケ不明瞭	にぶい黄橙	にぶい黄橙	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
69	11	E-13	1486	41	土師器	壺	古墳	-	(2.3)	[8.6]	外面ハケ	にぶい黄褐	にぶい褐	石英・赤・白・黒粒	破片	
69	12	E-13	1658	35	土師器	壺	古墳	-	(4.0)	[4.0]	内外面ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	20	
69	13	D-13	1585	18	土師器	壺	古墳	-	(4.0)	[5.3]	内面ナデ、外面ハケ後ナデ、底面削り	橙	赤褐	金雲母・石英・赤粒	40	
70	14	D-9・10	506・1622	5	土師器	S字甕	古墳	[14.8]	(5.0)	-	内面ヘラナデ、外面ハケ	にぶい黄橙、一部暗褐	にぶい褐・黒褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
70	15	D-9	348・535	4	土師器	S字甕	古墳	[14.0]	(3.8)	-	外面ハケ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・赤・白粒	破片	
70	16	E-13	1541	3	土師器	S字甕	古墳	[14.4]	(3.8)	-	内外面ハケ	にぶい橙	にぶい橙	金雲母・赤粒	破片	
70	17	D-9	1259	2	土師器	S字甕	古墳	[14.0]	(3.7)	-	内面指頭痕、外面ハケ	橙	にぶい褐	金雲母・赤粒	破片	
70	18	D-10・13	505・1197・1433・1602・1609	51	土師器	甕	古墳	[37.0]	(5.9)	-	内外面ハケ	赤褐	赤褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
70	19	E-13	1412・1531・1539・1600	42	土師器	甕	古墳	[23.2]	(8.1)	-	内外面ハケ後ミガキ	明褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
70	20	D-13	70	39	土師器	壺	古墳	[19.4]	(5.2)	-	内外面ハケ	にぶい橙	にぶい橙	金雲母・赤・白粒	破片	
70	21	D-12	552	32	土師器	甕	古墳	[11.0]	(5.8)	-	内面ハケ後ミガキ、外面ケズリ不明瞭	明赤褐	明赤褐	雲母・石英・白・黒粒	破片	
70	22	E-13	1646	6	土師器	台付甕	古墳	-	(7.6)	[12.0]	内外面ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・黒粒	破片	
70	23	E-13	404	1	土師器	台付甕	古墳	-	(6.4)	9.9	内外面ヘラ削り	にぶい赤褐	にぶい褐	金雲母・石英・白粒	破片	
70	24	D-9	239・240・241・242・1272・1274・1275・1276・1280・1285・1286・1287・1288・1313・1348・一括、C-9一括	34	土師器	高坏	古墳	[26.0]	16.4	12.2	坏部内外面ミガキ、脚部内面ハケ・外面ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	金雲母・石英・白・黒粒	70	孔3個
70	25	D-9	1279	43	土師器	高坏	古墳	[12.2]	6.8	[7.2]	坏部内外面ミガキ、脚部外面ハケ・ヘラ削り	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	30	孔4個

図	番号	出土位置	遺物番号	写真	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調（内）	色調（外）	胎土	残存率	備考
70	26	C-13	一括	24	土師器	壺？	古墳	[16.0]	(1.7)	-	内面ミガキ後２本単位の沈線文	にぶい黄橙	にぶい黄褐	金雲母・石英・白粒	破片	
70	27	A-9	1335	7	土師器	高坏	古墳	-	(11.8)	[16.8]	坏部内外面ミガキ、脚部内面ハケ・外面ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・白粒	70	孔３個
70	28	D-13	1584	8	土師器	高坏	古墳	-	(4.7)	[8.6]	内面ナデ、外面ミガキ	明褐	明褐	石英・赤・白・黒粒	脚部のみ	孔３個
70	29	D-9	218・1223・1242	22	土師器	器台	古墳	[10.0]	(6.4)	-	受け部内面ミガキ、脚部ヘラ削り	赤褐	橙	金雲母・赤・白粒	60	
70	30	E-13	1491・1499	9	土師器	器台	古墳	[9.6]	(3.2)	-	外面ヘラ削り	明赤褐	橙	石英・赤・白粒	破片	全体に磨耗
70	31	D-9・10	253・1032	52	土師器	器台	古墳	[8.2]	(4.4)	-	内外面ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英	25	
70	32	C-13	413	55	土師器	鉢？	古墳	[25.4]	(6.9)	-	内外面ミガキ	にぶい黄橙	黒褐	金雲母・白・黒粒	破片	
70	33	D-10	1198、C-10 一括	36	土師器	底部穿孔鉢	古墳	-	(4.5)	[4.8]	内面ハケ、内外面指頭痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
70	34	D-9	216	20	土師器	底部穿孔鉢	古墳	-	(4.4)	3.0	内面ミガキ、外面ヘラ削り	赤褐	明褐	金雲母・石英・赤・白粒	60	孔径約 0.8cm
70	35	D-11	1389	23	土師器	鉢？	古墳	[8.0]	(2.1)	-	内外面ハケ後ミガキ	橙	橙	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
70	36	D-10	1118	27	土製品	鈴？	-	-	(3.0)	-	端部上端に刻み	橙	にぶい黄橙	金雲母・赤・白粒	破片	内面粘土貼り付け痕
71	37	H-22	1939	58	土師器	坏	平安	-	(2.0)	[5.0]	内面暗文、外面下部ヘラ削り、底面ヘラ削り	橙	橙	金雲母・赤・白粒	20	底面墨書
71	38	D-9	1292・一括	33	土師器	坏	平安	11.0	3.6	6.8	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	金雲母・赤・黒粒	100	内面に粘土貼り付け痕
71	39	F-20	13 住 44	13住2	土師器	坏	平安	9.6	2.8	4.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	99	
71	40	D-11	1044	31	土師器	皿	平安	[8.0]	2.5	4.4	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	橙	橙	雲母・石英・白粒	40	
71	41	F-20	2167	13住4	土師器	皿	平安	[10.8]	2.2	5.0	ロクロナデ	明褐	明褐	雲母・石英・赤・白粒	35	
71	42	I-27	1714	10	土師器	脚高高台皿	平安	[9.2]	3.9	[5.6]	内外面ロクロナデ	橙	橙	赤・白粒	70	
71	43	H-22	1934	57	土師器	皿	平安	7.3	2.1	3.6	ロクロナデ、底面回転糸切り痕	明赤褐	明赤褐	金雲母・白・黒粒	80	
71	44	F-20	13 住 77・78	13住8	土師器	柱状高台皿	平安	[15.2]	4.3	7.0	ロクロナデ、底面回転糸切り痕不明瞭	橙	橙	雲母・赤・白粒	80	
71	45	I-27	1715	11	土師器	甕	平安	-	(2.3)	8.0	外面うすいハケ、底面ヘラ削り	黒褐	褐	赤・白・黒粒	破片	内面輪積み痕
71	46	C-10	602	37	土師器	蓋さカマド	平安	-	(4.4)	-	内外面ハケ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
71	47	C-14・E-12	174・319-1	13	-	羽口	平安	長 [8.7]	外径 (7.4)	内径 [2.6]	厚 2.0 ～ 2.8	褐	褐	石英・赤・白粒・植物	破片	
71	48	E-12	319-2	12	-	羽口	平安	長 [5.6]	外径 (8.4)	内径 [3.0]	厚 2.7 ～ 3.3	明褐	にぶい黄褐	石英・赤・白粒・植物	破片	
71	49	C-10	1112	15	-	羽口	平安	長 [3.6]	外径 (5.2)	内径 [1.2]	厚 2.0 ～ 2.1	明褐	灰	石英・赤・白・黒粒	破片	外面発泡・付着物
71	50	C-10	1104	17	-	羽口	平安	長 [6.2]	-	-	厚 2.0 ～ 2.3	明褐	褐灰	石英・赤・白・黒粒・植物	破片	外面発泡
71	51	F-20	13 住 65	13住17	陶器	壺	不明	[8.6]	(1.2)	—	-	黒褐	暗褐	雲母・白・黒粒	破片	全面に釉
71	52	G-21	3067	12住11	灰釉陶器	碗	平安	-	(2.4)	7.3	-	灰白	-	白粒・小石	破片	旧河道の中
71	53	G-20	2191	53	石器	砥石	-	長 [6.45]	幅 3.9	厚 3.6	凝灰岩					4 面磨
71	54	西一括	-	30	石器	砥石	-	長 [3.7]	幅 2.6	厚 1.2	凝灰岩					4 面磨
71	55	G-21	13 住 91	13住18	石器	磨石	不明	長 8.8	幅 3.8	厚 3.0	-	-	-	-	完形	1 面磨
71	56	F-17	1767	61	鉄製品	不明	不明	長 6.7	最大幅 1.1	最大厚 0.3	-	-	-	-	-	保存処理番号 29541
71	57	E-17	1877	62	鉄製品	不明	不明	長 [3.7]	最大幅 0.7	最大厚 0.7	-	-	-	-	-	保存処理番号 29542
71	58	E-20	一括	59	鉄製品	不明	不明	長 [2.7]	最大幅 1.3	最大厚 0.3	-	-	-	-	-	保存処理番号 29543、一端欠損
71	59	E-17	1887	60	銅製品	環状	不明	長 1.9	幅 2.1	厚 0.6	-	-	-	-	-	保存処理番号 29544
71	60	B-10	522	38	土器	内耳鍋	中世	[23.0]	(6.3)	-	外面ヘラナデ	暗灰黄	黒褐	金雲母・赤・白粒	破片	
-	-	D-17	2481	-	鋳型片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	資料No. 13
-	-	C-11	879	-	鉄滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	76 g
-	-	C-14	63	-	鉄滓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	211 g

表3　第4次　遺物観察表

図	番号	出土位置	遺物番号	注記No	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調（内）	色調（外）	胎土	残存率	備考
73	1	1住	一括・F-35	1住9	土師器	坏	平安	〔15.0〕	(4.9)	-	内面暗文	暗褐	暗褐	金雲母・白・黒粒	破片	
73	2	1住	22	1住14	土師器	坏	平安	〔14.0〕	(3.2)	-		橙	橙	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
73	3	1住	15・55	1住4	土師器	坏	平安	〔12.8〕	(3.9)	-	ナデ	暗オリーブ褐	オリーブ褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
73	4	1住	一括	1住5	土師器	坏	平安	〔10.8〕	(2.4)	-	ナデ	橙	橙	赤・白・黒粒	破片	
73	5	1住	7・8・9, F-35	1住6	土師器	坏	平安	〔10.0〕	3.3	〔5.6〕	底面回転糸切り	橙	橙	赤・白・黒粒	30	
73	6	1住	一括	1住7	土師器	坏	平安	-	(1.1)	〔4.5〕	底面回転糸切り	橙	橙	金雲母・赤・白粒	破片	
73	7	1住	72	1住8	土師器	甕	平安	〔16.0〕	(2.5)	-	内外面ハケ	赤褐	黒褐	石英・赤・白・黒粒	破片	
73	8	1住	28・29・31・33・76・77・79・82・83, F-34G490, F-35	1住11	土師器	甕	平安	〔24.2〕	(12.9)	-	内外面ハケ	暗褐	暗褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	外面付着物あり
73	9	1住	80	1住1	土師器	甕	平安	〔19.0〕	(2.3)	-	内外面ナデ	褐	褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
73	10	1住	23	1住2	土師器	甕	平安	〔23.6〕	(2.6)	-	内面ナデ, 外面ハケ	橙	橙	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
73	11	1住	46	1住13	土師器	甕	平安	〔8.6〕	(2.5)	-	外面ハケ	にぶい橙	にぶい橙	赤・白粒	破片	口唇部欠
73	12	1住	16	1住10	土師器	甕	平安	-	(1.7)	6.4	底面回転糸切り	暗褐	暗褐	雲母・石英・白・黒粒	20	
73	13	1住	25・80・84・85・一括	1住12	土師器	甕	平安	〔11.0〕	(6.8)	-	ロクロ	橙	橙	白・黒粒	破片	内面剥離
73	14	1住	73	1住15	鉄製品	鉄鏃	平安	長〔12.1〕	幅(2.6)	厚〔0.7〕					柄部欠	未保存処理
73	15	1住	32	1住17	鉄製品	不明	平安	長〔5.6〕	幅(0.3)	厚〔0.5〕					両端欠	
73	16	1住	74	1住16	鉄製品	不明	平安	長〔3.4〕	幅(0.3)	厚〔0.4〕					両端欠	
74	1	C-27	18	43	石器	磨製石斧	縄文	長〔14.2〕	幅(5.8)	厚〔3.4〕					90	緑色凝灰岩, 刃部欠
74	2	E-33・34	900・904・905・1072・1190・1260・1261・1266・1270・1278・1583・1584・1585・1586・1589・1592・1612・1665・1673・1674・1675・1734・1735・1756	30	土師器	壺	古墳	〔15.6〕	(12.8)	-	内面口縁部ミガキ・胴部ハケ, 外面ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白粒	20	内面ほとんど剥離
74	3	E-33・34, F-34	485・964・1032・1033・1034・1083・1084・1179・1220・1221・1222・1223・1226・1537・1543・1698	18	土師器	壺	古墳	〔14.3〕	(12.4)	-	内面ハケ, 外面口縁部ハケ後ヘラナデ・胴部ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	内面肩部僅かに指頭痕
74	4	E・F-33	299・300・384・399・437・443・445・446・447・450・625・627・630・631・632・633・634・636-1・636-2・648・649・1097・1651・1652・1812	20	土師器	壺	古墳	〔13.2〕	(14.1)	-	内面口縁部ミガキ・胴部ハケ・頸部下指頭痕, 外面ハケ後ミガキ	灰褐	にぶい褐	白粒	破片	内面輪積み痕
75	5	F-33	554・564・599・610・612・613・615・616・823・826・829・835・858・1008・1366・1402・1417・1529	34	土師器	壺	古墳	〔17.6〕	17.0	〔5.0〕	内面ハケ後ミガキ・指頭痕, 外面ハケ後ミガキ, 底面ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・白・黒粒	45	
75	6	E-33	1741	6	土師器	壺	古墳	13.5	(14.2)	-	内外面ハケ	橙	橙	赤・白・黒粒	20	輪積み痕
75	7	E・F-34	353・356・357・360・371・959・960・1018・1019・1022・1026・1027・1028・1030・1033・1036・1211・1213・1224・1227・1242・1544・1545・1548	41	土師器	壺	古墳	〔12.6〕	(16.9)	-	内外面うすいハケ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	50	
75	8	F-33	452・459・590・1367・1368・1405・1435	78	土師器	壺	古墳	〔16.1〕	(11.1)	-	内面ハケ・指頭痕, 外面ハケ	暗褐	にぶい橙	石英・赤粒	破片	胴部外面下部の器面荒れてる
75	9	E-33	1659	85	土師器	壺	古墳	-	(7.2)	-	内面頸部ハケ後ミガキ・胴部ハケ後ナデ, 外面ハケ	浅黄橙	橙	赤・白粒	破片	
75	10	E-34・35	763・764・765・767・770・774・775・776・777・780・782・787・918・919・921・922・1058・1387・1389, 1住 2・3・59・65・88	81・98	土師器	壺	古墳	〔12.0〕	(22.7)	〔7.0〕	内面ミガキ・ヘラナデ・指頭痕, 外面ミガキ・ヘラナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	金雲母・白粒	70	胴部内面輪積み痕, 底面黒化
75	11	E-33・34	1077・1262	39	土師器	壺	古墳	〔15.2〕	(3.6)	-	内外面ハケ後ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
75	12	1住	63, E-35G1145	1住3	土師器	壺	古墳	〔15.0〕	(4.4)	-	内外面ミガキ	暗褐	褐	金雲母・白・黒粒	破片	外面頸部に横ミガキ
75	13	E-33	431	63	土師器	壺	古墳	〔11.0〕	(4.2)	-	内面指ナデ, 外面うすいハケ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白・砂粒	破片	
75	14	一括	-	95	土師器	壺	古墳	〔17.2〕	(3.4)	-		明褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
75	15	E-35	1694・1695	49	土師器	壺	古墳	〔13.4〕	(5.5)	-	内面口縁部ハケ・胴部指頭痕, 外面ハケ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
75	16	E-34	312・372・373・872・873	12	土師器	壺	古墳	〔15.6〕	(10.7)	-	内外面ハケ, 外面頸部僅かにハケ	黄橙	にぶい黄橙	白粒	破片	
75	17	D-31	232	44	土師器	壺	古墳	〔8.8〕	(5.2)	-	外面ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	外面の上部ナデ
75	18	E-34	1068・1279	38	土師器	壺	古墳	〔14.1〕	(6.0)	-	内外面ミガキ, 口縁部櫛歯状工具による刺突	橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	破片	
75	19	D-28	120	55	土師器	壺?	古墳	-	(3.0)	-		橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	破片	坏系の胎土
75	20	E-35	757	62	土師器	壺	古墳	〔12.4〕	(4.4)	-	内外面ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白・砂粒	破片	
76	21	E-33・F-34	328・1616・1626・1627・1649・1650	40	土師器	甕	古墳	〔9.8〕	(8.1)	-	内面ヘラナデ, 外面ハケ・ヘラナデ	赤褐	赤褐	赤・白粒	30	口唇部ひび
76	22	E-33	1206・1208	19	土師器	壺	古墳	-	(9.8)	〔4.3〕	内面ヘラナデ, 外面ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	石英・白・黒粒	25	内面輪積み痕
76	23	E-34	1240・1546・1669	48	土師器	壺?	古墳	-	(2.8)	6.7	内面ハケ, 外面下部に僅かにハケ	暗褐	暗褐	金雲母・石英・白粒	破片	
76	24	F-33	563	94	土師器	壺?	古墳	-	(1.5)	6.5	外面ハケ, 底面木葉痕	褐	暗褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
76	25	C-27	6	58	土師器	壺	古墳	-	(4.2)	-	内面ハケ, 外面ミガキ・ヘラ刻み・刺突	明赤褐	明赤褐	金雲母・赤・白・黒粒	破片	
76	26	一括	-	105	土師器	壺?	古墳	-	(1.6)	4.2	内外面ヘラナデ	褐	赤褐	石英・白・黒粒	破片	
76	27	E-35	748・1393・1830	97	土師器	壺?	古墳	-	(4.6)	〔4.5〕	内面ハケ, 外面ハケ・下部ヘラ削り	暗赤灰	暗赤灰	金雲母・石英・白粒	破片	外面のハケうすい
76	28	E-34	972・981・1243	47	土師器	壺	古墳	-	(2.2)	〔7.0〕	内面うすいハケ・ヘラナデ, 外面ナデ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
76	29	E-34	870	65	土師器	壺?	古墳	-	(1.8)	7.6	内面ヘラナデ, 外面ハケ	橙	橙	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
76	30	E-34	1273	84	土師器	壺	古墳	-	(2.7)	〔4.5〕	内面ヘラナデ, 外面ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
76	31	E-33	1079	82	土師器	壺	古墳	-	(2.0)	4.8	内面ヘラナデ, 外面ハケ, 底面ヘラ削り	暗褐	赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
76	32	E-34	805・808・818・1146・1147・1148・1149・1315・1323-1・1324・1325・1326・1332・1339・1398・1342・1349・1350・1454・1455・1458・1459・1461・1466・1470・1471・1474・1492・1494・1495・1496・1497・1499・1500-1・1500-2・1502・1503・1504・1505-1・1505-2・1506・1508・1601・1603・1604・1605	37	土師器	S字甕	古墳	14.4	25.1	8.8	内面ヘラナデ・指頭痕, 外面ハケ	明赤褐	明赤褐（黒く煤けている）	金雲母・白粒	65	

図	番号	出土位置	遺物番号	実測番号	種別	器種	時期	口径	器高	底径	整形	色調（内）	色調（外）	胎土	残存率	備考
76	33	E-34	803・806・807・809・1312・1316・1317・1318・1319・1320・1321・1323-2・1327・1328・1329・1330・1335・1336・1337・1338・1341・1351・1352・1353・1354・1355・1356・1399・1400・1401・1453・1599・1600	36	土師器	Ｓ字甕	古墳	13.9	22.0	9.3	内外面ハケ・指頭痕	橙	橙	金雲母	80	胴部外面黒く焼けてる
76	34	F-34	1121	68	土師器	Ｓ字甕	古墳	[13.6]	(5.1)	-	内面指頭痕、外面ハケ	にぶい橙	暗褐	金雲母・白粒	破片	頸部に横位のハケ
76	35	E-34	815・816・817・819・1305	28	土師器	Ｓ字甕	古墳	14.7	(4.6)	-	内面指頭痕、外面ハケ	橙	橙	金雲母・石英・赤・白・黒粒	口縁部のみ	頸部横位のナデ
76	36	D-29	175	69	土師器	Ｓ字甕	古墳	[18.6]	(3.4)	-	内面ヘラナデ、外面ハケ	明褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	
76	37	F-33	934	67	土師器	Ｓ字甕	古墳	[16.7]	(3.6)		内面指頭痕、外面ハケ	褐	褐	金雲母・石英・白粒	破片	
76	38	E-33	1804	70	土師器	Ｓ字甕	古墳	[18.6]	(4.5)	-	内面指頭痕、外面ハケ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	頸部に横位のハケ
76	39	E・F-34	343・1069・1682	73	土師器	Ｓ字甕	古墳	[16.8]	(4.8)	-	内面指頭痕、外面ハケ	赤褐	赤褐・黒褐	金雲母・白粒	破片	外面頸部にナデ
77	40	E-34	800・801・811・1334・1347・1394・1395・1428・1460-1・1462・1468・1473・1476・1478・1480・1481・1482・1483・1485・1486・1487・1488・1489・1493・1597・1606・1607・1609・1610・1683・1688・1690	23	土師器	甕	古墳	16.1	24.3	5.0	内外面ハケ	赤褐	赤褐・赤黒	金雲母・石英・白粒	80	
77	41	E・F-33・34	332・466-1・467・574・575・576・577・580・581・601-1・602-1・602-2・968・1137・1289・1290・1291・1648・	29	土師器	甕	古墳	[11.4]	20.5	6.0	内外面ハケ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒・小石	50	外面胴部中央付近こげ
77	42	F-33	268・293・548・551・856・1403・1408・1409・1410・1416・1511	13	土師器	甕	古墳	[23.6]	(13.9)	-	内面ハケ後ナデ、外面ハケ	暗褐	暗褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	30	
77	43	E-33	1792・1793・1799・1800	50	土師器	甕	古墳	[26.8]	(13.6)	-	内面ハケ、外面口縁部指頭痕・胴部ハケ	極暗赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	破片	内面輪積み痕
77	44	E-33	405・407・408・409・411・414・417・424	16	土師器	甕	古墳	[27.2]	(11.1)	-	内面口縁部ハケ、外面ハケ・胴部上指頭痕	褐	褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
77	45	E・F-34	1129・1132・1225	71	土師器	甕	古墳	[13.5]	(4.0)	-	口縁部内外面ミガキ、胴部内面指頭痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	金雲母・白粒	破片	
77	46	E-33	1158・1641・1655・1723・1729・1778	2	土師器	甕	古墳	[15.8]	(10.8)	-	内外面ハケで、口縁内面のみハケ後ナデ	暗赤褐	黒褐	金雲母・石英・白・黒粒	10	外面荒れている
77	47	E-34	1061・1296・1297・1298・1667・1676・1677・1733・1810	15	土師器	甕	古墳	18.0	(21.0)	-	内外面ハケ	暗褐	暗褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒	80	外面胴上半付着物、外面全体に荒れてる
77	48	F-33・34	540・926・927	7	土師器	甕	古墳	17.0	(4.5)	-	外面ハケ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・白・黒粒	10	内面に輪積痕
77	49	E-33	1631	87	土師器	台付甕	古墳	-	(3.5)	-	甕部内面ハケ後ナデ・外面ハケ、台部内面指頭痕	赤	赤	金雲母・石英・白・黒粒	破片	
77	50	D-31	241	72	土師器	甕	古墳	[17.0]	(3.2)	-	外面ハケ後ミガキ	にぶい黄橙	赤褐	金雲母・石英・白・黒粒・小石	破片	外面赤色塗彩か
78	51	E-34	1023・1024・1025・1029	24	土師器	台付甕？	古墳	-	(5.7)	[14.4]	内外面ハケ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白・黒粒	台部のみ	台部端部折り返し、外面輪積み痕
78	52	E-33	1805	63	土師器	甕	古墳	-	(2.1)	[6.8]	内面胴部ミガキ・底面ハケ、外面ミガキ、底面木葉痕	暗褐	明褐	金雲母・赤・白・黒粒	破片	
78	53	F-33	855	64	土師器	甕	古墳	-	(3.2)	[10.0]	内面ヘラナデ、外面ハケ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	底面木葉痕
78	54	E-33	1079・1094・1100	51	土師器	台付甕	古墳	-	(5.9)	[9.3]	内外面ハケ、台部内面指頭痕	橙～赤褐	明赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	ハケはうすい
78	55	F-33	1446	22	土師器	台付甕	古墳	-	(5.0)	8.5		にぶい赤褐	にぶい赤褐	金雲母・石英・白粒	台部のみ	内面に折り返し
78	56	E-34	762・781・916・917・920	3	土師器	台付甕	古墳	-	(6.6)	[9.6]	内外面ハケ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	金雲母・白粒	破片	ハケはうすい
78	57	E-34	822・903・908・1303・1306・1307	10	土師器	高坏	古墳	[11.4]	10.1	[16.2]	内面坏部ミガキ・脚部ハケ、外面ミガキ	橙	橙	赤・白粒	50	外面やや荒れてる、孔3個
78	58	E-34	1686	79	土師器	高坏	古墳	[9.9]	(6.8)	-	内外面ハケ後ミガキ	橙	橙	白・赤粒	破片	
78	59	D-28	244	37	土師器	高坏	古墳	-	(1.4)	-		橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	破片	
78	60	E-34	894-2・990・1304	17	土師器	高坏	古墳	-	(2.5)	-	内外面ミガキ	橙	橙	雲母・赤・白・黒粒	破片	全体に磨耗、脚部剥離
78	61	E-34	894-1	9	土師器	高坏？	古墳	[10.2]	(3.0)	-	内面ミガキ	橙	橙	雲母・赤・白・黒粒	破片	外面磨耗
78	62	E-33	1518	46	土師器	高坏？	古墳	[9.6]	(2.3)	-	内面ハケ後ミガキ、外面ナデ	赤褐	赤褐	石英・白・黒粒	15.0	
78	63	E-33・34	1188・1519・1520・1765	5	土師器	坏	古墳	[15.9]	(4.6)	-	内面ミガキ、外面ケズリ後よくミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・白粒	50	
78	64	F-33	279・280・287・289・294・549・556・569・570・571・572・573・583・584・585・586・587・588・589・596・597・839・840・844・997・1002・1004・1356・1419・1422・1425	25	土師器	鉢	古墳	26.0	11.0	丸底	内面一部剥離、外面口縁部ミガキ・胴部ヘラ削り	暗赤褐	暗赤褐	金雲母	60	
78	65	E-33・34	1195・1254・1624・1781	4	土師器	鉢	古墳	-	(4.1)	-	内面下部ミガキ、外面ミガキ	赤褐	橙	金雲母・白粒	50	内面剥離部分にハケ、底面荒れている
78	66	E-33	1175	88	土師器	器台	古墳	-	(4.7)	-		褐	褐	金雲母・赤・白・黒粒	破片	外面剥離のところにハケ
78	67	一括	-	90	土師器	器台	古墳	-	(3.5)	-	内面幅広のミガキ・ナデ、外面ケズリ・ミガキ	橙	橙	金雲母・白粒	40	孔3個（径1.2cm）
78	68	E・F-34	667	45	土師器	鉢	古墳	-	(4.5)	4.5	内面ミガキ、外面ハケ・ミガキ	橙	橙	金雲母・白・赤粒	15	
78	69	E-34	810・1477	74	土師器	鉢	古墳	[14.2]	3.7	3.0	外面ミガキ	灰黄褐	橙	雲母・石英・赤・白・黒粒	50	外面朱、内面黒色
78	70	E-34	1277	86	土師器	鉢？	古墳	-	(1.1)	3.4	内外底面ミガキ	橙	橙	白粒	破片	
78	71	E-34	957	92	土師器	ミニチュア鉢	古墳	[6.8]	(4.6)	-	内面指頭痕、外面ヘラナデ	赤褐	赤褐	金雲母・石英・白粒	20	内面輪積み痕
78	72	E-33	1727	90	土師器	ミニチュア鉢	古墳	[6.8]	(4.0)	-	内面指頭痕	暗赤褐	暗赤褐	金雲母・石英・白粒	破片	内外面輪積み痕
78	73	D-29	172	1	土師器	ミニチュア壺	古墳	5.8	3.5	2.0	内外面ミガキ	明赤褐	明赤褐・黒	金雲母・白粒	90	
78	74	E-35	1391	93	土師器	ミニチュア鉢	古墳	-	(1.9)	[2.5]	内面指頭痕、外面ヘラ削り	明黄褐	明黄褐	金雲母・赤・白粒	破片	
78	75	E-34	1671・1672	21	土師器	ミニチュア鉢	古墳	-	(3.2)	[1.8]	内外面ミガキ	明赤褐	明赤褐	金雲母・白・黒粒	30	
78	76	F-34	486	100	土師器	ミニチュア鉢	古墳	[3.4]	2.4	2.8	内面指頭痕	暗褐	暗褐	金雲母・赤・白粒	40	
78	77	F-35	一括	89	土師器	甑	古墳	-	(3.6)	-		明褐	明褐	赤・白粒	破片	把手部
78	78	F-35	713	99	土師器	坏	奈良	-	(1.2)	[9.8]	内面暗文、底面全面ヘラミガキ	黒	褐	金雲母	破片	
78	79	一括	-	35	須恵器	蓋	奈良	[15.0]	(1.2)	-		灰	灰	白粒	破片	
78	80	D-28	156	56	土師器	皿	平安	[15.6]	2.5	[5.6]	外面下部回転ヘラ削り	黄橙	黄橙	金雲母・赤・白・黒粒	破片	全体に磨耗
78	81-82	C-27	13-1・13-2・14・861	11	土師器	坏	平安	[12.1]	(4.2)	[4.0]	体部外面下部ヘラ削り、底面ヘラ削り	橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	30	13-2は接合しないが同一個体
78	83	C-27	13-3・一括	8	土師器	坏	平安	12.4	4.2～4.6	4.4	外面下半ヘラ削り、底面全面ヘラ削り	橙	橙	赤・白・黒粒	70	
78	84	D-31	222	75	土師器	皿	平安	-	(1.2)	-		にぶい黄橙	橙	金雲母・赤粒	破片	底面刻書
78	85	一括	-	61	土師器	小皿	平安	[8.6]	1.6	[4.6]	底面回転糸切り	にぶい黄褐	にぶい黄褐	金雲母・白・赤粒	35	内外面煤付着

図	番号	出土位置	遺物番号	図版	種別	時期	口径	器高	底径	整形	色調（内）	色調（外）	胎土	残存率	備考
78	86	一括	-	104	土師器	皿	平安	(8.6)	2.3	4.8～5.0	底面回転糸切り	橙	橙	金雲母・石英・赤・白粒	80	
79	87	D-28	152	53	土師器	有低台坏	平安	(15.0)	5.4	(7.6)		浅黄橙	浅黄橙	雲母・石英・赤・白・黒粒	70	底面回転糸切り痕、別れ口が僅斑
79	88	D-28	137	54	土師器	有低高台皿	平安	-	(2.0)	8.4		橙	橙	金雲母・赤・白・黒粒	破片	全体に磨滅
79	89	C-29	170	57	土師器	皿	平安	-	(2.6)	-		橙	橙	赤・白粒	破片	
79	90	D-28	117・118	53	土師器	甕	平安	-	(2.3)	(7.2)		黄橙	黄橙	金雲母・赤・白・黒粒	破片	底面回転糸切り痕
79	91	E-29	252	101	須恵器	甕	平安	-	(8.6)	-	内面同心円状当具痕、内面若干タタキ目痕	灰	灰	赤・白粒	破片	
79	92	一括	西館	96	土師器	羽釜?	平安	(26.0)	(3.3)	-		明黄褐	橙	金雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
79	93	一括	-	59	須恵陶器	椀	平安	(16.2)	(3.6)	-		灰白		白・黒粒	破片	
79	94	C-27	15	60	須恵陶器	椀	平安	(12.0)	(2.5)	-		灰白	-	白・黒粒	破片	
79	95	E-28	77	32	須恵陶器	椀	平安	-	(2.2)	(7.4)		灰白		白粒	10	
79	96	F-35	707	31	須恵陶器	盆	平安	(11.0)	2.5	(6.0)	ロクロナデ	灰白		白・黒粒	25	漬け掛け
79	97	E-28	85	103	陶器	壺?	平安	-	(3.0)	(7.6)		褐灰		雲母・石英・赤・白・黒粒	破片	
79	98	D-29	188	33	須恵陶器	壺	平安	-	(6.4)	(13.4)		灰白		白・黒粒	破片	
79	99	F-34	493	36	青磁	椀	平安	-	(3.3)	-	連弁文	暗オリーブ	暗オリーブ	白粒	破片	越州窯
79	100	E-27	46・47	76	陶器	甕	13世紀	(44.6)	(5.1)	-		橙		赤・白粒・小石	破片	常滑か
79	101	一括	-	66	陶器	甕?	中世	-	(8.3)	(13.4)	内外面ナデ	橙	-	金雲母・赤・白・黒粒	破片	
79	102	一括	-	77	陶器	甕	13世紀	-	(4.9)	(18.4)	内面ヘラナデ・指頭痕	明赤褐	明赤褐	白・黒粒	破片	常滑か
79	103	一括	-	102	陶器	鉢	近世	(20.6)	(3.2)	-	口縁部から内面に施釉	橙		石英・赤・白・黒粒	破片	白色釉
79	104	F-35	一括	14	土器	鉢?	?	(33.6)	(4.9)	-	内外面ロクロナデ	明赤褐	明赤褐	金雲母・石英・赤・白・黒粒・小石	破片	
79	105	F-35	715	42	土製品	鳥形	不明	長 4.9	幅 2.3	高 2.9					99	足部一部欠
79	106	一括	-	91	石器	剥石	?	長 6.2	幅 4.4	厚 2.5					-	凝灰岩、2個

第５章　科学分析
第１節　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

足原田遺跡は、甲府盆地北東部の扇状地上に位置しており、平安時代後半を主とした遺構が検出されている。検出された遺構の中には、焼失家屋も認められ（第１次調査）、住居構築材などと考えられる炭化材が出土している。また、住居の竈内から、種実遺体や骨片が検出されている。

本報告では、住居跡から出土した炭化材、種実遺体、骨片の同定を行い、木材を含めた植物利用や動物利用に関する資料を得る。

１.炭化材の樹種

（１）試料

試料は、８住（カマド）、１０住（№８３）、１３住（№４７）、１５住（№３２・４２）、１８住（１７・１８住№３９・４２）から出土した炭化材７点である。

（２）分析方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（１９８２）およびWheeler他（１９９８）を参考にする。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林（１９９０）、伊東（１９９５,１９９６,１９９７,１９９８,１９９９）や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

（３）結果

炭化材は、全て落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属クヌギ節に同定された。

（４）考察

住居跡から出土した炭化材は、８住の試料がカマドから出土しており、燃料材に由来する可能性があるが、他は全て床面から出土しており、垂木等の住居構築材に由来する可能性がある。これらの炭化材は、全て落葉広葉樹のクヌギ節であった。クヌギ節にはクヌギとアベマキの２種があるが、本地域ではクヌギが一般的で、アベマキは分布していないことから、今回の試料もクヌギの可能性がある。クヌギは、コナラと共に二次林を構成する種類であり、集落周辺に一般的であるが、河畔や後背湿地などコナラに比較してより湿った場所に生育する。木材は重硬で強度が高く、加工は困難な部類に入る。これらのことから、重硬で強度が高く、集落周辺で普通にみられるクヌギ節（クヌギ）を住居構築材や燃料材に利用したことが推定される。

本遺跡では、これまでにも３住（第１次調査）から出土した炭化材の樹種同定が実施されており、クヌギ節を主とした結果が得られており、今回の結果とも調和的である（パリノ・サーヴェイ株式会社,２００５）。また、山梨県内では、韮崎市前田遺跡や長坂町健康村遺跡で平安時代の住居構築材等について樹種同定が実施されている（パリノ・サーヴェイ株式会社,１９８８,１９９４）。その結果をみると、健康村遺跡ではクヌギ節の多い結果が得られており、今回の結果ともよく似ている。一方、前田遺跡では、同じコナラ亜属のコナラ節が多く、クヌギ節が少ないが、コナラ節もクヌギ節と共に二次林を構成する種類であり、材質もよく似ていることから、基本的にはクヌギ節の多い住居跡と調和的な結果と考えられる。これらの結果から、平安時代の山梨県では住居構築材にクヌギ節やコナラ節等のコナラ亜属が住居構築材として利用されていたことが推定される。

２.種実遺体の種類

（１）試料

種実同定は、1住カマド、3住カマド、4住カマド、5住カマド、8住カマド、10住カマド、12住カマド、13住カマド、15住（89）、19住カマド、20住（212）、20住カマド1、23住カマド、5号土坑4から検出された種実遺体14試料について実施する。

（2）分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実を抽出する。現生標本および原色日本植物種子写真図鑑（石川，1994）、日本植物種子図鑑（中山ほか，2000）等との比較対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで表示する。分析後の種実遺体等は、種類毎に容器に入れて保管する。

（3）結果

種実同定の結果、栽培植物のモモ、イネ、アワ－ヒエ－キビ、オオムギ、コムギ、マメ類の炭化種実が検出された他に、木の芽、炭化材、木材組織が確認されない種類・部位共に不明の炭化物などが確認された（表1）。

モモは、15住（89）から8個、20住（212）から1個、計9個が検出された。イネは、5号土坑4から8個、3住竈・8住竈から各2個、5住竈・13住竈から各1個、計14個が検出された。アワ－ヒエ－キビは、1住竈から1個検出された。オオムギは、23住竈から2個、コムギは8住竈・5号土坑4から各1個、オオムギ－コムギは5号土坑4から1個検出された。マメ類は、1住竈から4個、5住竈・8住竈から2個、計8個が検出された。

検出された種実遺体は、全て炭化しており状態は不良である。

表1. 種実同定結果

試料名	部位	状態	1住竈	3住竈	4住竈	5住竈	8住竈	10住竈	12住竈	13住竈	15住(89)	19住竈	20住(212)	20住竈1	23住竈	5土4
モモ	核	炭化 破片	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-
	種子	炭化 破片	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
イネ	穎果	炭化	-	2	-	1	2	-	-	1	-	-	-	-	-	8
アワ－ヒエ－キビ	穎果	炭化	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オオムギ	穎果	炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
コムギ	穎果	炭化	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
オオムギ－コムギ	穎果	炭化 破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
マメ類	種子	炭化 完形	2	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		破片	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木の芽		炭化	4	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
炭化材		炭化	3	2	3	5	-	-	-	1+	-	-	-	-	-	3
不明炭化物		炭化	-	-	10	7	-	1	3	2	10	2	6	3	1	6

（4）考察

モモ、イネ、アワ－ヒエ－キビ、オオムギ、コムギ、マメ類は、古くからの栽培植物で古墳時代では確実とされる（南木，1991）。モモは、中国からの渡来種とされ、観賞用の他、果実や核の中にある仁（種子）などが食用、薬用等に広く利用される。山梨県内でも度々種実や木材が確認されており、栽培されていたことが明らかとなっている。穀類のイネ、アワ－ヒエ－キビ、オオムギ、コムギ、マメ類は、胚乳や種子が食用される植物質食糧である。これらの栽培植物の可食部である種実が、平安時代とされる住居内の竈や土坑から検出された状況を考慮すると、当該期の本遺跡周辺域における植物質食糧として利用されていたことが推定される。また、全て炭化していることから、火を受けたことが推定される。山梨県内では弥生時代～中世の住居跡から検出された炭化種実遺体の調査が行われており、本遺跡が所在する甲府盆地では、11遺跡における炭化種実遺体の調査事例が集成されている（櫛原，1999）。この調査によれば、弥生時代後期、古墳時代まではイネの比率が圧倒的に高く、8世紀前期から中期はムギ（オオムギ・コムギ）が、8世紀後期から11世紀まではイネが、12～13世紀は圧倒的にムギが高くなることが指摘されている。また、笛吹市一宮町内の9遺跡の検討からは、10世紀第二四半期頃からムギを中心とする雑穀類（アワ・キビ等）が増加する傾向が指摘されている。

本遺跡で確認されたモモ、イネ、アワ－ヒエ－キビ、オオムギ、コムギ、マメ類は、量的検討に至る検出量ではないが、これらの複数種の植物質食糧が利用されていたことが指摘される。今後は、周辺遺跡の出土事例も併せて、植物質食糧の利用の詳細について検討していきたいと考える。

3．骨の同定

（1）試料

試料は、3号住居のカマドから採取された3住カマドおよび3住カマド（骨）①の2試料である。2試料とも土壌が付いた小片が複数点認められ、前者が1．0g、後者が2．0gである。なお、時代的には平安時代後期とされている。

（2）分析方法

試料についた土壌を分離すると骨が崩壊するため、そのままの状態で肉眼観察し、その形態的特徴から種と部位の同定を行う。

（3）結果および考察

試料は、いずれも白色～灰色を呈し、焼骨の特徴を示す。貝類や魚骨でなく、いずれも獣骨の骨片とみられる。ただし、微細片であり、特徴的な部位も認められないため、種の同定までには至らない。出土状況を考慮すると、食糧資源として用いられた後にカマド内へ投棄され、高温あるいは複数回にわたる熱を受け、さらに埋積後の経年変化によって細片化したと思われる。

引用文献

林　昭三．1991．日本産木材　顕微鏡写真集．京都大学木質科学研究所．

石川　茂雄．1994．原色日本植物種子写真図鑑．石川茂雄図鑑刊行委員会．328p.

伊東　隆夫．1995．日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ．木材研究・資料31．京都大学木質科学研究所．81-181.

伊東　隆夫．1996．日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ．木材研究・資料32．京都大学木質科学研究所．66-176.

伊東　隆夫．1997．日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ．木材研究・資料33．京都大学木質科学研究所．83-201.

伊東　隆夫．1998．日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ．木材研究・資料34．京都大学木質科学研究所．30-166.

伊東　隆夫．1999．日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ．木材研究・資料35．京都大学木質科学研究所．47-216.

櫛原　功一．1999．炭化種実から探る食生活 - 古代～中世を中心に -．櫛原　功一（編著），帝京大学山梨文化財研究所研究集会報告集2　食の復元　遺跡・遺物から何をよみとるか．株式会社岩田書院．81-98.

松谷　暁子．1980．十勝太若月遺跡出土炭化物の識別について．浦幌町郷土博物館報告．第16号．203-211.

松谷　暁子．2000．植物遺残の識別と保存について．Ouroboros. 東京大学総合研究博物館ニュース．Volume 5．Number 1．8-10.

南木　睦彦．1991．栽培植物．古墳時代の研究　4　生産と流通Ⅰ．石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編．雄山閣．165-174.

南木　睦彦・中川　治美．2000．大型植物遺体．琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書3-2　栗津湖底遺跡　自然流路（栗津湖底遺跡Ⅲ）．滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会．49-112.

中山　至大・井之口　希秀・南谷　忠志．2000．日本植物種子図鑑．東北大学出版会．642p.

パリノ・サーヴェイ株式会社．1988．前田遺跡出土炭化材同定．「山梨県韮崎市　前田遺跡　県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」．韮崎市教育委員会．37-39.

パリノ・サーヴェイ株式会社．1994．健康村遺跡自然科学分析調査報告．「山梨県北巨摩郡長坂町　健康村遺跡－（仮称）東京都新宿区立区民健康村建設事業に伴う発掘調査報告書－」．新宿区区民健康村遺跡調査団．116-128.

パリノ・サーヴェイ株式会社．2005．理化学的分析．「山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第230集　足原田遺跡Ⅰ　西関東連絡道路関連発掘調査報告書」．山梨県教育委員会・山梨県土木部．63-68.

島地　謙・伊東　隆夫．1982．図説木材組織．地球社．176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）．1998．広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト．伊東　隆夫・藤井　智之・佐伯　浩（日本語版監修）．海青社．122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

矢野　梓，２００２．遺跡から出土した小型豆のＤＮＡ分析．DNA 考古学 Newsletter ３．
吉崎　昌一，１９９２．古代雑穀の検出．月刊考古学ジャーナル，№３５５，2-１４．

第２節　鉄関連遺物の成分分析

JFE テクノリサーチ株式会社　分析・評価事業部　埋蔵文化財調査研究室

１．はじめに

山梨市万力に所在する足原田遺跡から出土した鉄関連遺物について，学術的な記録と今後の調査のための一環として化学成分分析を含む自然科学的観点での調査を依頼された。調査の観点として，出土鉄滓の化学成分分析、外観観察、ミクロ組織観察およびX線回折に基づき，資料の製造工程上の位置づけおよび始発原料などを中心に調査した。

２．調査項目および試験・観察方法

（１）調査項目

調査資料の記号、出土遺構・注記および調査項目を表１に示す。

（２）調査方法

（ｉ）重量計測、外観観察および金属探知調査

資料重量の計量は電子天秤を使用して行い、少数点２位で四捨五入した。各種試験用試料を採取する前に、資料の外観を㎜単位まであるスケールを同時に写し込みで撮影した。資料の出土位置や資料の種別等は提供された資料に準拠した。

着磁力調査については，直径３０㎜のリング状フェライト磁石を使用し，６㎜を１単位として３５㎝の高さから吊した磁石が動きは始める位置を着磁度として数値で示した。遺物内の残存金属の有無は金属探知機（ＭＣ：metal checker）を用いて調査した。金属検知にあたっては参照標準として直径と高さを等しくした金属鉄円柱（１．５㎜φＸ１．５㎜Ｈ、２．０㎜φＸ２．０㎜Ｈ、５㎜φＸ５㎜Ｈ、１０㎜φＸ１０㎜Ｈ、１６㎜φＸ１６㎜Ｈ、２０㎜φＸ２０㎜Ｈ、３０㎜φＸ３０㎜Ｈ）を使用し、これとの対比で金属鉄の大きさを判断した。

（ⅱ）化学成分分析

化学成分分析は鉄鋼に関するＪＩＳ分析法に準じて行っている。

- 全鉄(T.Fe)：三塩化チタン還元－二クロム酸カリウム滴定法。
- 金属鉄(M.Fe)：臭素メタノール分解－ EDTA 滴定法。
- 酸化第一鉄(FeO)：二クロム酸カリウム滴定法。
- 酸化第二鉄(Fe_2O_3)：計算。
- 化合水(C.W)：カールフィッシャー法。
- 炭素(C)、イオウ(S)：燃焼－赤外線吸収法。
- ライム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化マンガン(MnO)、酸化ナトリウム(Na_2O)、珪素(Si)、マンガン(Mn)、リン(P)、銅(Cu)、ニッケル(Ni)、コバルト(Co)、アルミニウム(Al)、ヴァナジウム(V)、チタン(Ti)：ICP 発光分光分析法。
- シリカ(SiO_2)、アルミナ(Al_2O_3)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、二酸化チタン(TiO_2)、酸化リン(P_2O_5)、酸化カリウム(K_2O)：ガラスビード蛍光X線分析法。
  但し CaO、MgO、MnO は含有量に応じて ICP 分析法またはガラスビード蛍光X線分析法を選択。
- 酸化ナトリウム(Na_2O)：原子吸光法。

なお、鉄滓中成分は、１８成分（全鉄 T.Fe、金属鉄 M.Fe、酸化第一鉄 FeO、酸化第二鉄 Fe_2O_3、シリカ SiO_2、アルミナ Al_2O_3、ライム CaO、マグネシア MgO、酸化ナトリウム Na_2O、酸化カリウム K_2O、二酸化チタン TiO_2、酸化マンガン MnO、酸化リン P_2O_5、コバルト Co、化合水 C.W、炭素 C、ヴァナジウム V、銅 Cu）を化学分析している。分析は各元素について分析し、酸化物に換算して表示している。

羽口・胎土成分は，１３成分（全鉄 T.Fe，酸化鉄 FeO，シリカ SiO_2，アルミナ Al_2O_3，ライム CaO，マグネシア MgO，化合水 C.W.，灼熱減量 Ig.Loss，二酸化チタン TiO_2，酸化マンガン MnO，酸化ナトリウム Na_2O，酸化カリウム K_2O，炭素 C.）を化学分析している。なお，粘土については産地検討のためルビジュウム Rb　とストロンチュウム Sr についても分析した。

鉄製品中成分の化学分析は，１３成分（炭素 C，シリコン Si，マンガン Mn，リン P，イオウ S，銅 Cu，ニッケル Ni，コバルト Co，アルミニウム Al，ヴァナジウム V，チタン Ti，カルシウム Ca，マグネシウム Mg）を化学分析している。

（ⅲ）顕微鏡組織観察

資料の一部を切り出し樹脂に埋め込み，細かい研磨剤などで研磨（鏡面仕上げ）する。炉壁・羽口・粘土などの鉱物性資料については顕微鏡で観察しながら代表的な鉱物組織などを観察し，その特徴から材質，用途，熱履歴などを判断する。滓関連資料も炉壁・羽口などと同様の観察を行うが特徴的鉱物組織から成分的な特徴に結びつけ製・精錬・鍛造工程の判別，使用原料なども検討する。金属鉄はナイタール（５％硝酸アルコール液）で腐食後，顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し，顕微鏡組織および介在物（不純物，非金属鉱物）の存在状態等から製鉄・鍛冶工程の加工状況や材質を判断する。原則として１００倍および４００倍で撮影を行う。必要に応じて実体顕微鏡（５倍～２０倍）による観察もする。

（ⅳ）Ｘ線回折測定

試料を粉砕して板状に成形し、Ｘ線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれに固有な反射（回折）された特性Ｘ線を検出（回折）できることを利用して、試料中の未知の化合物を同定することができる。多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定される。

測定装置　理学電気株式会社製　ロータフレックス（RU-３００型）

測定条件　①使用Ｘ線：Cu-Ｋα（波長＝１.５４１７８Å）　②Ｋβ線の除去：グラファイト単結晶モノクロメーター　③管電圧・管電流：５５kV・２５０mA　④スキャニング・スピード：４.０°/min　⑤サンプリング・インターバル：０.０２０°　⑥D.S.スリット：１°　⑦R.S.スリット：０.１５mm　⑧S.S.スリット：１°　⑨検出器：シンチレーション・カウンター

３.調査結果および考察

表１に調査資料と調査項目をまとめた。全資料の外観写真を図版４０に示す。各資料の調査結果をまとめ、最も確からしい推定結果を最後にまとめる。

資料番号No.１　鉄滓→精錬鍛冶滓，着磁度：１，メタル反応：無し

外観：重量　３９.４g，長さ４１.５mm，幅３６.４mm，厚さ３２.３mm。全面に水酸化鉄の褐色を呈する酸化土砂が付着した資料で，数カ所に滓と思われる黒色部が見られる。全体的には鉄滓か鉄塊の銹化物か判断しにくい。破面は３である。１mm弱の大きさの白い粒状物が混じっている。全体に着磁はなく、一部褐色の濃い部分に着磁度１位の着磁がある。この部分を調査する。

顕微鏡組織：資料の全面にやや白色を帯びた灰色で樹枝状のウスタイトが観察され、それらの間にややまばらに灰色の濃い多角形が崩れた形状のウルボスピネルが観察される。この２つの鉱物相の裏に隠れるように棒状のファイヤライトが観察される。明瞭な鉱物相はこの３種類である。ウルボスピネルは砂鉄を始発原料とする鉄滓によく見られる鉱物相である。

Ｘ線回折：ウスタイトが最高強度を示し、次いでウルボスピネルが高い強度を示している。ファイヤライトは中程度の回折線を示している。他の鉱物相は見られない。

化学成分：全鉄５７.４%に対して金属鉄は０.２８％とわずかである。FeO は６２.２%，Fe_2O_3 は１２.５%，SiO_2 は１０.５%である。TiO_2 は４.８７％含まれており、始発原料は砂鉄と推察される。FeOn-SiO_2-TiO_2 の３成分系に換算すると FeOn は８２.９%，SiO_2 は１１.７%，TiO_2 は５.４%となり参考の FeOn-SiO_2-TiO_2 系の平衡状態図ではウルボスピネ

ルとの境界に近いウスタイト領域にあり鉱物相としてウスタイト、ウルボスピネル、ファイヤライトが晶出すると考えられる。顕微鏡観察、X線回折の結果と一致する。

以上の結果を総合すると本資料は砂鉄を始発原料とし、(1) 鍛冶工程で生成した鉄滓で、(2) 精錬鍛冶滓と推察される。

資料番号No.2 鉄滓→製錬滓、着磁度：＜1、メタル反応：無し

外観：重量70.2g、長さ46.8mm、幅38.8mm、厚さ32.8mm。暗褐色の滓に炉壁が溶融付着したように見える。滓と思われる部分は比較的緻密だが、炉壁と滓の接合部分は大きく発泡している。破面は4である。滓部分から調査試料は採取する。

顕微鏡組織：資料全面がやや灰色の多角形が崩れたウルボスピネルとファイヤライトおよびガラス質から成っている。外観で炉壁と反応しているように見えたが顕微鏡観察でもそれを裏付けるようにガラス質が多くなっている。

X線回折：ウルボスピネルが最高強度を示し、ファイヤライトの弱い回折線が観察される。リュウサイトの弱い回折も現れている。

化学成分：全鉄39.6%と低く、金属鉄は0.50%である。FeOは45.3%、Fe_2O_3は5.56%でSiO_2は20.4%と高い。TiO_2も9.66%と高く、始発原料は砂鉄と推察される。FeOn-SiO_2-TiO_2の3成分系に換算するとFeOnは62.9%、SiO_2は25.2%、TiO_2は11.9%となり参考のFeOn-SiO_2-TiO_2系の平衡状態図ではファイヤライト、クリストバライトとの境界に近いウルボスピネル領域にあり、鉱物相としてガラス質が多く、ウルボスピネル、ファイヤライトが晶出すると考えられる。顕微鏡観察、X線回折の結果と一致する。一方、成分的な特徴としてはCaO、MgO、K_2Oが高く、さらにMnO、P_2O_5も高い点が上げられる。ほぼ炉壁の胎土成分と見られる資料No.11のSiO_2、Al_2O_3に対するCaO、MgO、K_2O、P_2O_5に比べ明らかに本資料の方が高く、単に炉壁が溶けたと言うよりも造滓材使用の可能性を伺わせる。

以上の結果を総合すると本資料は砂鉄を始発原料する製錬滓が炉壁などの耐火材と反応した滓の可能性が高いと思われる。CaO、MgO、K_2O、MnO、P_2O_5等が高い特徴があり、造滓材などが使用された可能性がある。

資料番号No.3 鍛冶滓→製錬滓、着磁度：＜1、メタル反応：無し

外観：重量74.0g、長さ51.4mm、幅45.0mm、厚さ33.0mm。基地が黒色の滓に酸化土砂あるいは炉壁材などが付着した不定形な滓である。重量感はあるものの、小さな気孔が多く見られる鍛冶滓と思われる資料である。明瞭な被面は2で、着磁は非常に弱く1以下、メタル反応はない。滓部分を1/3カットして調査する。

顕微鏡組織：資料全面に乳白色の樹脂状ウスタイトとその背後のガラス質の中に大きく成長したファイヤライトが観察される。鉱物組織としてはこの2種類のみである。精錬鍛冶滓や鍛錬鍛冶滓によく見られる組織である。

X線回折：ウスタイトとファイヤライトが最高回折強度を示し、リューサイトの中程度の回折線が見られる。ゲーサイトの存在も確認される。主要鉱物相は顕微鏡組織と一致している。

化学成分：全鉄52.8%に対して金属鉄は0.11%とわずかである。FeOは59.9%、Fe_2O_3は8.76%でSiO_2は20.8%と高い。TiO_2は0.37%とわずかである。結合水は0.53%と低く錆化鉄などはあまりないと思われる。FeOとFe_2O_3の比は87.2：12.8でFeO-Fe_2O_3-SiO_2の3成分系に換算するとFeOは67.0%、Fe_2O_3は9.8%、SiO_2は23.2%となり参考のFeO-Fe_2O_3-SiO_2系の平衡状態図ではウスタイトとファイヤライトの境界付近にあり、この両相が主要鉱物相になると考えられる。平衡状態図上の位置は顕微鏡観察、X線回折と一致する。造滓成分は30.35%と比較的多い。原料に含まれていたと思われるTiO_2は0.37%と少なく始発原料が砂鉄であるかは判断できない。

以上の結果を総合すると本資料は(1) 鍛冶工程で生成した鉄滓で、(2) 精錬鍛冶工程の後期か鍛錬鍛冶工程の初期に生成した鍛冶滓と推察される。

資料番号No.4　鍛冶滓、着磁度：無し、メタル反応：無し

外観：重量９７．２g、長さ６２．０㎜、幅５５．４㎜、厚さ３２．７㎜。滓に炉底の土砂が厚く付着した鍛冶滓と思われる。上面は平らで５～１０㎜大の窪みが数ヶ所ある。下面側は滓に茶褐色の土砂が厚く付着している。破面は３である。滓は黒色で小さな気孔が多く存在している。外観上は資料３と類似の滓である。滓部分１/３カットで調査する。

顕微鏡組織：代表的な組織では樹枝状のウスタイトが全面にあり、その背後に同じく全面にファイヤライト観察される。全体の１/４ではファイヤライトが圧倒的に多く細く小さな樹枝状にウスタイトが生成している。SiO_2が多い精錬鍛冶滓によく見られる組織である。

X線回折：ウスタイトとファイヤライトが最高回折強度を示しハーシナイトの弱い回折線が見られる。主要鉱物相は顕微鏡組織と一致している。

化学成分：全鉄５４．１%に対して金属鉄は０．３１％とわずかである。FeOは６１．９%、Fe_2O_3は８．１１%でSiO_2は２０．４％と多い。でTiO_2は０．４１％と少ない。結合水は０．４２％と低く錆化鉄はあまりないと思われる。FeOとFe_2O_3の比は８８．４：１１．６でFeO-Fe_2O_3-SiO_2の３成分系に換算するとFeOは６８．５%、Fe_2O_3は９．０%、SiO_2は２２．６%となり参考のFeO-Fe_2O_3-SiO_2系の平衡状態図では資料３とほとんど同じウスタイトとファイヤライトの境界付近にあり、この両相が主要鉱物相となると考えられる。平衡状態図上の位置は顕微鏡観察、X線回折と一致する。造滓成分は２７．９３%と比較的多い。原料由来と思われるTiO_2は０．４１％と少なく始発原料が砂鉄であるかは判断できない。

以上の結果を総合すると本資料は（1）鍛冶工程で生成した鉄滓で、（2）精錬鍛冶工程の後期か鍛錬鍛冶工程の初期に生成した鍛冶滓と推察される。

資料番号No.5　鍛冶滓、着磁度：無、メタル反応：無

外観：重量１５．０g、長さ４５．２㎜、幅３１．３㎜、厚さ１７．２㎜。暗褐色の不定形な鍛冶滓と思われる資料である。上面は凹凸が著しく、１ヶ所に木炭痕が認められる。半溶融状態のものが固着したように見える。破面で見ると気孔の多い粗鬆な滓である。下面には白色の小さな石灰石様のものが付着している。中央でカットし、試料採取する。

顕微鏡組織：全体的に気孔の多い資料である。全面が樹脂状のウスタイトと破損した短冊状のファイヤライトからなる組織である。他には明瞭な鉱物相は観察されない。SiO_2が多い精錬鍛冶滓によく見られる組織である。

X線回折：ウスタイトが最高回折強度を示し、ファイヤライトとリューサイトの弱い回折線が見られる。主要鉱物相は顕微鏡組織と一致している。

化学成分：全鉄５０．６%に対して金属鉄は０．４７％とわずかである。FeOは５５．２%、Fe_2O_3は１０．３%、SiO_2は１８．６%である。TiO_2は０．２９％と少ない。結合水は１．１１％含まれており、錆化鉄が存在していると思われる。CaO、K_2Oが高い成分的特徴もある。特にP_2O_5が０．６９５％と非常に高く、CaO、K_2O、P_2O_5の高い点は資料２と共通した傾向である。FeOとFe_2O_3の比は８４．２：１５．８でFeO-Fe_2O_3-SiO_2の３成分系に換算するとFeOは６５．６%、Fe_2O_3は１２．３%、SiO_2は２２．１%となり参考のFeO-Fe_2O_3-SiO_2系の平衡状態図では資料３とほとんど同じウスタイトとファイヤライトの境界付近のファイヤライト領域にあり、この両相が主要鉱物相となると考えられる。平衡状態図上の位置は顕微鏡観察、X線回折と一致する。造滓成分は３０．４９%と比較的多い。原料由来と思われるTiO_2は０．２９%と少なく始発原料が砂鉄であるかは判断できない。

以上の結果を総合すると本資料は（1）鍛冶工程で生成した鉄滓で、（2）精錬鍛冶工程の後期か鍛錬鍛冶工程の初期に生成した鍛冶滓と推察される。

資料番号No.6　鉄塊→鋳鉄、着磁度：３、メタル反応：無

外観：重量８６．３g、長さ５３．７㎜、幅４１．２㎜、厚さ３１．８㎜。錆化した鉄塊と思われる。ずんぐりとしただる

ま形をしている。太い側には銹化膨張に伴う亀裂が数条入っている。長手方向2/3で切断し、調査を行う。
顕微鏡組織：資料の大部分は銹化しているが写真のように銹化途中の共晶鋳鉄が明瞭に観察される。従って、本資料はCが4．3％位の鋳鉄製品であったと思われる。
X線回折：マグネタイトとシデライト（炭酸鉄）が最強強度の回折線を示し、コーエナイト（セメンタイト）の強い回折線が観察される。ゲーサイト（銹化鉄）と石英の弱いが明瞭な回折線も見られる。この結果は顕微鏡観察とともに本資料が非常にCの高い鉄の銹化物であることを示している。
化学成分：全鉄61．7％に対して金属鉄は17．4％と相当量の金属鉄が残っている。P_2O_5は0．309％と相当高い値である。TiO_2は0．04％と非常に低く、TiO_2による始発原料の推定はできない。SiO_2は3．95％と少ない。その他のAl_2O_3なども非常にすくなく、これらは分析資料に不可避的に混入した土砂の一部と考えられる。結合水は4．05％と非常に高く、ゲーサイトなどの銹化鉄が相当含まれていることを示している。Cも4．87％と非常に高く。顕微鏡組織で見られたようにCの高い鋳鉄が銹化していることやX線回折でセメンタイトが同定されていることと一致する。
以上の結果を総合すると本資料は（1）鋳鉄銹化物と推察されれるが（2）用途、始発原料は特定できない。

資料番号No.7　鉄塊→鋳鉄、着磁度：3以下、メタル反応：無し
外観：重量　7．8g、長さ20．5㎜、幅18．1㎜、厚さ16．5㎜。重量感のある鉄塊資料で、大きさの割に着磁が強く、着磁度3である。メタル反応はない。表面は鉄銹の茶褐色を呈し、一見泥の固まりのようにも見えるが、銹化膨張に伴う亀裂が一条認められる。破面はない。
顕微鏡組織：資料の一部に針状のセメンタイトと思われる金属鉄が遺存している。レーデブライト共晶（C：4．3％）の鋳鉄組織の痕跡を残す銹化組織が観察される。また、鋳鉄の片状黒鉛が観察され本資料は鋳鉄であったことが分かる。
化学成分：全鉄50．8％に対して金属鉄は2．57％残っている。結合水は7．11％と非常に高く、ゲーサイトなどの銹化鉄が相当含まれていることを示している。Cも4．22％と非常に高く、顕微鏡組織で見られたようにCの高い鋳鉄が銹化していることと一致する。P_2O_5は0．330％と相当高い値である。TiO_2は0．09％と非常に低く、TiO_2による始発原料の推定はできない。SiO_2は10．9％含まれており、Al_2O_3などもすくなく、これらは分析資料に不可避的に混入した酸化土砂の一部と考えられる。
以上の結果を総合すると本資料は（1）鋳鉄と推察されるが、鉄製品か素材かは特定できない。また、始発原料についても不明である。

資料番号No.8　鉄→銹化鉄、着磁度：無、メタル反応：無
外観：重量6．0g、長さ40．1㎜、幅20．1㎜、厚さ3．8㎜。一端がまが玉のように細く伸び、他端が犬の足骨のような形状の鉄銹の茶褐色をした資料である。縦方向に銹化膨張に伴う長さ20㎜の鋭い亀裂が認められる。表面は大きな凹凸は少なく、酸化土砂が薄く付着しているような外観である。銹化鉄塊と思われる。着磁、メタル反応ともにない。
顕微鏡組織：資料全体が銹化鉄と土砂が渾然一体となった中空の酸化土砂の状態となっており資料を特定する情報は得られない。
化学成分：全鉄50．1％に対して金属鉄は0．45％とわずかである。FeOは2．72％、Fe_2O_3は68．0％、SiO_2は18．9％、TiO_2は0．14％とわずかである。
以上の結果を総合すると本資料は鉄の銹化物と推察されるが、用途、始発原料等不明である。

資料番号No.9　鉄塊→鋳鉄、着磁度：3、メタル反応：無
外観：多片に割れた資料で表面は鉄銹の茶褐色を呈するが、割欠面は一部に赤銹も見られるが、黒銹化している。大きめの資料3個の重量などは以下の通りである。重量5．2g、長さ20．8㎜、幅16．4㎜、厚さ13．7㎜。重量1．4g、

長さ１５．９㎜、幅８．１㎜、厚さ７．８㎜。重量１．８g、長さ１５．１㎜、幅１１．０㎜、厚１１．５㎜。その他の重量は６．６gである。錆化鉄塊と思われる資料である。最大被片の緻密な部分について検鏡、X線回折する。

顕微鏡組織：全面が錆化物の組織となっている。亜共晶の鋳鉄組織の痕跡がみられ、鋳鉄の錆化物と推察される。

X線回折：中程度のマグネタイトの回折線があり、ゲーサイト、石英、の弱い回折線、シデライト、セメンタイト、アノーサイトなどの存在が確認できる。本資料が鋳鉄の錆化物でそれに土砂が一部混じっていることを示している。

化学成分：全鉄５６．４%に対して金属鉄は２．９６%残っている。結合水は７．５２%と非常に高く、ゲーサイトなどの錆化鉄が相当含まれていることを示している。Cも２．９１%と非常に高く、顕微鏡組織で見られたようにCの高い鋳鉄が錆化していることと一致する。P_2O_5は０．３７２%と相当高い値である。TiO_2は０．０８%と非常に低く、TiO_2による始発原料の推定はできない。SiO_2は７．０１%と低く、Al_2O_3などもすくなく、これらは分析資料に不可避的に混入した酸化土砂の一部と考えられる。

以上の結果を総合すると本資料は錆化した鋳鉄と推察されるが、鉄製品か素材かは特定できない。また、始発原料についても不明である。

資料番号No.１０　錆化鉄塊→錆化鋳鉄製品、着磁度：２、メタル反応：無し

外観：重量　３０．０g、長さ　５３．９㎜、幅　２９．３㎜、厚さ　２３．０㎜。生ガキのような細長く丸く太った形状の資料で表面は鉄錆の茶褐色を呈し、酸化土砂が薄く付着しているように見える。資料の一端に巾５㎜、長さ１２㎜位の木炭片が噛み込んでいる。長手方向に細い錆化亀裂が一条、太い側の端面に同じく二条観察される。錆化鉄塊のように思われる。切断写真（資料No.１０）に見られるように本資料は中空円筒状の鉄製品が錆化していることがわかる。

顕微鏡組織：資料全面が錆化鉄と酸化土砂である。ウスタイトがわずかに見られる部分もあるが、鉄あるいは鉄製品に関する知見は得られない。

X線回折：錆化鉄であるゲーサイトの中程度の回折線と同じくマグネタイトの中程度の回折線がみられる。土砂成分の石英、アノーサイトの回折線も見られる。これらの結果は本資料が錆化鉄と酸化土砂の混合物であることを示している。また、Fe_3C（セメンタイト）の存在も弱いながら確認でき、本資料が高Cの鉄であったことを示している。おそらく、鋳鉄であったと見られる。

化学成分：全鉄５２．７%に対して金属鉄は０．２８%である。結合水は７．００%と非常に高く、ゲーサイトなどの錆化鉄が相当含まれていることを示している。Cも４．５７%と非常に高く、確認されCの高い鋳鉄が錆化している可能性があり、X線回折でFe_3C（セメンタイト）が同定されていることと一致する。P_2O_5は０．２３４%と高い値である。TiO_2は０．０８%と非常に低く、TiO_2による始発原料の推定はできない。SiO_2は８．７５%と低く、Al_2O_3などもすくなく、これらは分析資料に不可避的に混入した酸化土砂の一部と考えられる。

以上の結果を総合すると本資料は錆化した鋳鉄製の中空円筒状鉄製品と推察されるが、用途、始発原料は不明である。

資料番号No.１１　鍛冶滓→炉壁付着滓（精錬鍛冶滓）、着磁度：１、メタル反応：無し

外観：重量２３．２g、長さ５５．４㎜、幅３２．８㎜、厚さ１９．０㎜。炉壁のような耐火物と接触結合した鍛冶滓と思われる。不定形な形状の資料である。上面側は小さな凹凸が著しく、半分は黒褐色、半分は茶褐色を呈している。下面側は小さな粒子に押し付けられたような状態になっており充塡層の状態を映している。色は暗褐色である。滓側に弱い着磁がある。メタル反応はない。破面は２である。

顕微鏡組織：顕微鏡組織の大部分はファイヤライトを主体とする組織であるが一部に樹枝状ウスタイトとファイヤライトの混合組織と成っている。ガラス質滓や炉壁付着滓に見られる組織である。外観から想定される組織である。

X線回折：長石類の代表鉱物の１つであるアノーサイトが中程度の強度の回折線を示し、その他のハーシナイト、ファイヤライト、マグネタイト、カルサイトの弱い回折線が見られる。鉄酸化物と炉壁などが反応していることを示している。

化学成分：全鉄は１１．５％と非常に少なく、SiO_2とAl_2O_3はそれぞれ４７．０％、２４．１％と非常に多く炉壁などの耐火材が主体であることが分かる。TiO_2は１．０９％含まれている。T.Feが５０％～６０％含まれる通常の精錬鍛冶滓がT.Feが１１．５％位まで炉壁で薄まったと仮定するとTiO_2は約５～６倍の５．５～６．５％位と推定され、始発原料は砂鉄と判断できる。

以上の結果を総合すると本資料は砂鉄を始発原料とする精錬鍛冶滓と炉壁が反応した炉壁付着滓と推察される。

資料番号No.１２　鍛冶滓→精錬鍛冶滓、着磁度：２、メタル反応：無し

外観：重量５６．４g、長さ７０．７㎜、幅４２．７㎜、厚さ１６．７㎜。重量感のある偏平な滓で鍛冶滓と思われる。右端約1/４は茶褐色の酸化土砂のように見える。上面はやや凹形で平滑である。下面はしわが寄り充填物の状態を映し、凹凸が大きい。着磁は弱く、メタル反応はない。

顕微鏡組織：ファイヤライトが主体で乳白色ウスタイトが観察される。また、多角形状のやや灰色の濃いウルボスピネルも観察される。ウスタイトが多く、銹化鉄のゲーサイト、ファイヤライトが観察される組織である。ウルボスピネルが見られることから始発原料が砂鉄と考えられ、鍛冶滓でも精錬鍛冶滓の可能性が強い。

X線回折：ウスタイトが最強回折強度を示し、ファイヤライトが強い回折強度を示す。ハーシナイト、マグネタイトは中程度の回折線を示している。リューサイト、ゲーサイトは存在が確認される。

化学成分：全鉄５４．３％に対して金属鉄は０．１７％とわずかである。化合水が１．８％あり、ゲーサイトなどの銹化鉄が含まれていると見られる。FeOは４４．６％、Fe_2O_3は２７．８％、SiO_2は１８．２％でTiO_2は０．３２％と少ない。FeOとFe２O３の比は８５．１：１４．９でFeO-Fe_2O_3-SiO_2の３成分系に換算するとFeOは４９．２％、Fe_2O_3は３０．７％、SiO_2は２０．１％となり参考のFeO-Fe_2O_3-SiO_2系の平衡状態図ではマグネタイト領域にある。平衡状態図上の位置と顕微鏡観察、X線回折と一致しないのはゲーサイトなどの銹化鉄の存在により実体はFe_2O_3が多い側にずれているためと思われる。造滓成分は２５．４５％とやや高い。

以上の結果を総合すると本資料は砂鉄を始発原料とし、（1）鍛冶工程で生成した鉄滓で、（2）精錬鍛冶工程の後期か鍛錬鍛冶工程の初期に生成した鍛冶滓と推察される。

資料番号No.１３　椀型滓→鍛冶滓、着磁度：１、メタル反応：無し

外観：重量２９．９g、長さ４８．９㎜、幅２９．１㎜、厚さ２０．３㎜。椀型滓の被片と思われる下面側が湾曲し、上面は大きなしわが寄り、表面は滑らかだが凹凸の大きい資料である。被面は１である。側面には１０㎜大の木炭痕があり、上面にも木炭の噛み込み跡が２ヶ所ある。破面で見ると大きな気泡が数個認められるが、基地は緻密で重量感がある。着磁度１の弱い着磁があり、メタル反応は無い。色は褐色である。

顕微鏡組織：資料の８０％位は樹枝状や繭玉状のウスタイトが多く、その背後に沈むような棒状ファイヤライトとからなる組織である。残り２０％位はファイヤライトの方が多い組織からなっている。全体的にはこの２種類の鉱物相から成る組織で精錬鍛冶滓や鍛錬鍛冶滓によく見られる組織である。

X線回折：ウスタイトが最高強度を示し、次いでファイヤライトの中程度の回折線が観察される。他の鉱物としては弱いリューサイトが同定される。主要鉱物は顕微鏡観察と一致している。

化学成分：全鉄５５．９％に対して金属鉄は０．１４％とわずかである。FeOは６２．１％、Fe_2O_3は１０．７％、SiO_2は１７．３％、TiO_2は０．３４％とわずかである。FeOとFe_2O_3の比は８５．３：１４．７でFeO-Fe_2O_3-SiO_2の３成分系に換算するとFeOは６８．９％、Fe_2O_3は１１．９％、SiO^2は１９．２％となり参考のFeO-Fe_2O_3-SiO_2系の平衡状態図ではファイヤライトの境界に近いウスタイト領域にある。ウスタイト、ファイヤライトが鉱物相として現れると考えられる。平衡状態図上の位置は顕微鏡観察、X線回折と一致する。造滓成分は２５．０６％とやや高い。一方、成分的な特徴としてはCaO、MgO、K_2Oが高く、さらにP_2O_5も高い点が上げられる。原料に含まれていたと思われるTiO_2は０．３４％と少な

く始発原料が砂鉄であるかは判断できない。

以上の結果を総合すると本資料は（1）鍛冶工程で生成した鉄滓で、（2）精錬鍛冶工程の後期か鍛錬鍛冶工程の初期に生成した鍛冶滓と推察される。始発原料は明らかでない。

資料番号No.１４　鍛造剥片？→上皮片？、着磁度：測定できず、メタル反応：無し

外観：酸化鉄色を帯びた砂礫である。全量を調査したが鍛造剥片と思われる資料は４片である（外観写真１４の幅の広い資料）。大きなもの３点は順に、重量０．０７６ｇ、長さ７．２㎜、幅５．０㎜、厚さ１．７㎜。重量０．０１４g、長さ６．０㎜、幅３．５㎜、厚さ１．２㎜。重量　０．０２４g、長さ　８．４㎜、幅　３．６㎜、厚さ　０．８㎜。他６点は０．０３７ｇ。しかし、これらも通常の鍛造剥片に比べやや厚く上皮片の可能性も考えられる。顕微鏡観察のみ実施した。

顕微鏡組織：剥片資料の組織はいわゆる鉄滓のものとは異なり灰汁の様に見られる。鍛錬鍛冶で灰汁などが使われた可能性があり、上皮片ではないかと思われる。米粒状資料の組織は木炭で樹皮に近い部分で樹種は広葉樹と見られる。

４．まとめ

１）遺跡の性格

１号住居跡から出土した資料１と資料２はそれぞれ砂鉄を原料とする精錬鍛冶滓と製錬滓と推察された。特に資料１は判断には曖昧さが少なく、製錬滓や鍛錬鍛冶滓の可能性は非常に少ない。１２号住居跡から出土した資料３と資料４は精錬後期から鍛錬鍛冶初期にかけての滓と推察された。１５号住居跡から出土した資料５、６、７、８、９、１０は資料５を除き鋳鉄または鉄の錆化物と判断され、資料５は精錬後期から鍛錬鍛冶の初期の滓と推察された。２０号住居跡から出土した資料１１は炉壁付着滓と判断されたが滓そのものは精錬鍛冶滓と推察された。資料１２は精錬鍛冶滓の可能性がある。本住居跡からは羽口も出土していることから精錬鍛冶が行われていた可能性が高い。Ｄ－１７Ｇ２４８１の旧河道の澱より出土した資料１３は精錬後期から鍛錬鍛冶初期の滓と判断された。羽口も出土している５号土坑から出土の資料１４は鍛錬鍛冶の灰汁の可能性が考えられた。

以上から本遺跡では精錬鍛冶から鍛錬鍛冶の作業が行われていた可能性が高いように思われる。

鋳鉄と推察された資料は資料１０を除きいずれも鉄製品か否か明瞭でなく、鋳造が行われていたのか、素材であったのかは明らかでない。

２）滓の成分的特徴

本調査の鉄滓はCaO、MgO、K_2O、P_2O_5の高いものが多く成分的な特徴と成っている。鋳鉄と判断された資料のＰも高い傾向があり、調査した滓との関連も考えられるが、詳細にはさらにデータの積み重ねが必要である。

３）始発原料

本調査の鉄滓では資料１、資料２、資料１１がTiO_2の含有量から始発原料は砂鉄と判断した。その他の資料はTiO_2が低く、始発原料を砂鉄とは判断できなかった。しかし、Cu や MnO も低く鉱石系とも判断できない。

４）鍛錬鍛冶滓

本調査では明瞭に鍛錬鍛冶滓と判断できる資料は無く、唯一資料１４がその可能性があるにとどまった。さらに、分析調査を増やすか、鍛造剥片の検出に期待したい。

表１　調査資料と調査項目

資料 No.	遺構コード　台帳番号	資料種別	着磁度	ＭＣ反応	外観写真	化学成分	組織写真	Ｘ線回折
1	１号住居跡　番号（注記）４０	鉄滓？	○	○	○	○	○	○
2	１号住居跡　番号（注記）４２	鉄滓	○	○	○	○	○	○
3	１２号住居跡　番号（注記）１９	鍛冶滓	○	○	○	○	○	○
4	１２号住居跡　番号（注記）６４	鍛冶滓	○	○	○	○	○	○
5	１５号住居跡　番号（注記）４４	鍛冶滓	○	○	○	○	○	○

6	１５号住居跡　番号（注記）１０６	鉄滓	○	○	○	○	○	○
7	１５号住居跡　番号（注記）１２８	鉄滓	○	○	○	○	○	
8	１５号住居跡　番号（注記）１３０	鉄滓？	○	○	○	○	○	
9	１５号住居跡　番号（注記）１３３	鉄滓	○	○	○	○	○	○
１０	１５号住居跡　番号（注記）１１４	鉄滓	○	○	○	○	○	○
１１	２０号住居跡　番号（注記）一括	鍛冶滓	○	○	○	○	○	○
１２	２０号住居跡　番号（注記）E-１７G　１８８９	鍛冶滓	○	○	○	○	○	○
１３	D-１７G　番号（注記）２４８１	椀型滓	○	○	○	○	○	○
１４	５号土坑	剥片？	○	○	○		○	

種別は外観観察した結果で、提供されたものではない

第６章　まとめ

今回までの調査で、足原田遺跡が東西約４００ｍの範囲に及ぶことが確認された。南北に約１５ｍと細長いトレンチのような調査範囲である。

古墳時代では、第１次調査で谷跡と称された場所から出土した土器と同時期、４世紀後半から５世紀初頭の土器が多数出土した。谷跡出土土器と同じ傾向として、完形のものがほとんどないこと、接合関係からその場所で割れたものが大部分であること、壺・甕類の割合が多く、高坏・器台・ミニチュアが少ないことなどがあげられる。しかし、人頭大以上の石が一緒に出土していないことは谷跡の状況と異なる。調査範囲内には、住居跡などの遺構は発見されなかったが、近くに居住域があることは否めないだろう。

平安時代では、第１次調査で１１～１２世紀の住居跡６軒が発見されたが、今回の調査で９世紀からの居住が確かめられた。おおまかな変遷をみると、９世紀には遺跡の西側、第３次調査の範囲に偏り、１０世紀は第３次２１・２３号住居跡の２軒、１１世紀以降は、遺跡の東側にあたる第１次１～６号住居跡と、西側の第３次調査区に分かれる。１１世紀以降に居住域が二分するのか、旧河道によって流されたかは不明である。

本遺跡からは、鍛冶関連の遺物が出土している。第１次調査では、グリッド出土の羽口片が１点、第２次調査でもグリッド出土の２点、第３次調査では、羽口片が２０号住居跡から６点、５号土坑からは大きめの破片１点が出土し、鉄滓は、１号住居跡から精錬鍛冶滓と製錬滓が炉壁などの耐火材と反応した可能性の高い滓が出土し、１２号住居跡から精錬鍛冶の後半か鍛錬鍛冶の初期の鍛冶滓が２点、１５号住居跡からは精錬鍛冶の後半か鍛錬鍛冶の初期の鍛冶滓１点、２０号住居跡から精錬鍛冶滓と炉壁が反応した鍛冶滓１点と精錬鍛冶の後半か鍛錬鍛冶の初期の鍛冶滓１点、５号土坑からは鍛錬鍛冶の灰汁の可能性がある剥片が出土している。第４次調査では羽口は出土していないが、１～３７４ｇの鉄滓がＥ－２７・２８グリッドを中心に約１１０点（約４４００ｇ）出土した。これらのことから調査区内には鍛冶関連の確かな遺構は発見されなかったが、本遺跡内に鍛冶関連の遺構が存在する可能性は高いと言えるだろう。

中世の遺物は、第１次から第４次までグリッド出土として擂鉢・内耳土器・陶器甕などいくつか出土している。近くに概期の遺跡がある可能性が高いとおもわれる。

本遺跡周辺はこれまで遺跡の空白地帯であった。現在の耕作土も土というよりは砂であり、古墳時代前期・平安時代の生活の痕跡が残っている層も砂である。発掘中には、たくさんの沢蟹に出会えた。中世以降に水が流れた時期があり、現在は果樹地帯となっている。今後、この近辺で古墳時代前期のムラが発見されること期待したい。

写　真　図　版

1. 第２次　調査直後全景

2. 第２次　セクションB-B'

3. 第２次　遺物出土状況（A-1G）

4. 第２次　遺物出土状況（A-2G）

5. 第２次　第8図30出土状況

図版 2

1. 第３次　１号住居跡遺物出土状況

2. 第３次　１号住居跡カマド遺物出土状況

3. 第３次　１号住居跡カマド袖石

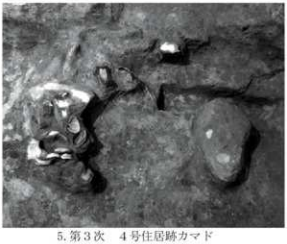
4. 第３次　１号住居跡ピット2

1. 第３次　２号住居跡

2. 第３次　３号住居跡

3. 第３次　３号住居跡カマド

4. 第３次　４号住居跡

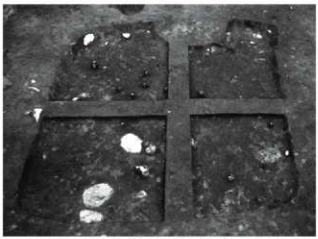


5. 第３次　４号住居跡カマド

6. 第３次　５号住居跡

7. 第３次　５号住居跡カマド

図版４

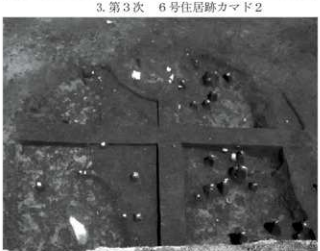


1. 第３次　６号住居跡

2. 第３次　６号住居跡カマド１

3. 第３次　６号住居跡カマド２

4. 第３次　６号住居跡第51図１（奥）・２出土状況



5. 第３次　７号住居跡遺物出土状況

7. 第３次　７号住居跡カマド

6. 第３次　７号住居跡

1. 第３次　８号住居跡遺物出土状況

2. 第３次　８号住居跡第52図６・７出土状況

3. 第３次　８号住居跡カマド遺物出土状況

4. 第３次　８号住居跡カマド袖石

5. 第３次　８号住居跡第52図10出土状況

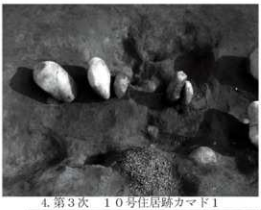
6. 第３次　８号住居跡ピット１遺物出土状況

図版 6

1. 第３次　９号住居跡

2. 第３次　９号住居跡カマド

3. 第３次　１０号住居跡遺物出土状況



4. 第３次　１０号住居跡カマド１

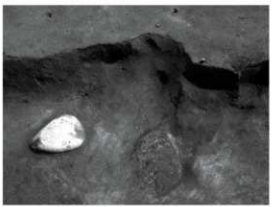
5. 第３次　１０号住居跡カマド２

6. 第３次　１０号住居跡カマド１遺物出土状況

1. 第３次　１１号住居跡遺物出土状況

2. 第３次　１２号住居跡ピット１・２遺物出土状況

3. 第３次　１２号住居跡遺物出土状況



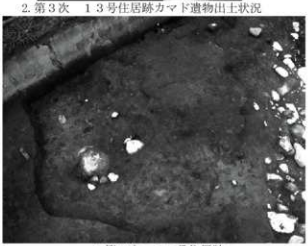
4. 第３次　１２号住居跡カマド１

5. 第３次　１２号住居跡カマド２・３遺物出土状況

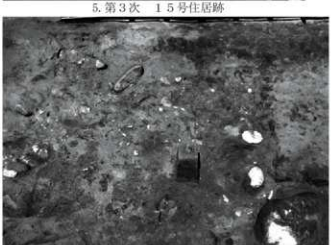
図版８

1. 第３次　１３号住居跡カマド

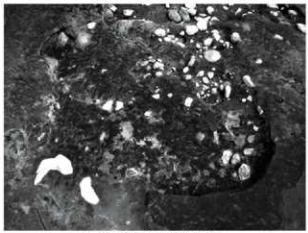
2. 第３次　１３号住居跡カマド遺物出土状況



5. 第３次　１５号住居跡



7. 第３次　１６号住居跡



3. 第３次　１４号住居跡

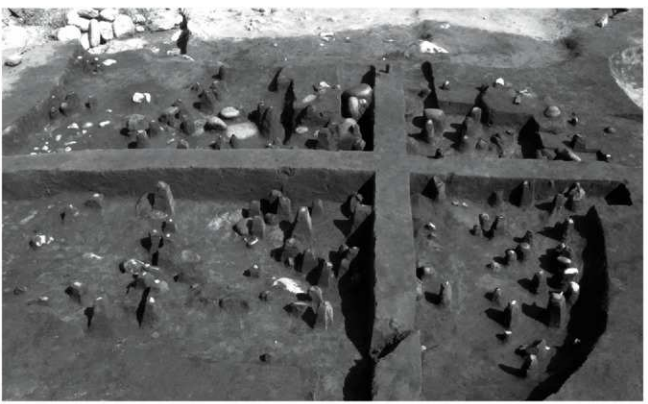
4. 第３次　１４号住居跡遺物出土状況

6. 第３次　１５号住居跡遺物出土状況

8. 第３次　１６号住居跡第59図５・６出土状況

1. 第３次　１７・１８号住居跡遺物出土状況

2. 第３次　１９号住居跡

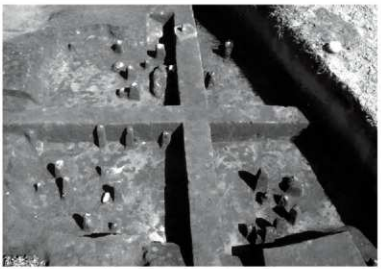


3. 第３次　２０号住居跡遺物出土状況

4. 第３次　２０号住居跡カマド１

5. 第３次　２０号住居跡カマド２

図版 10



1. 第３次　２１号住居跡遺物出土状況

2. 第３次　２１号住居跡カマド

3. 第３次　２２号住居跡遺物出土状況1

4. 第３次　２２号住居跡カマド

5. 第３次　２２号住居跡遺物出土状況2

6. 第３次　２３号住居跡

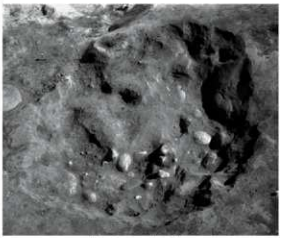
7. 第３次　２３号住居跡カマド

1. 第３次　１号土坑

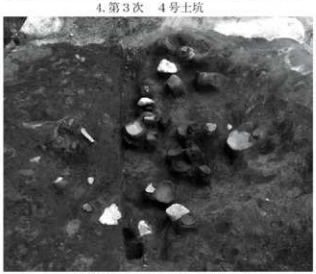
2. 第３次　２号土坑

3. 第３次　３号土坑

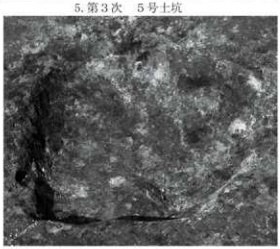
4. 第３次　４号土坑



5. 第３次　５号土坑



6. 第３次　５号土坑遺物出土状況



7. 第３次　６号土坑

8. 第３次　６号土坑遺物出土状況

9. 第３次　７号土坑

図版 12

1. 第３次　１号溝

2. 第３次　１号溝セクション

3. 第３次　２号溝石出土状況

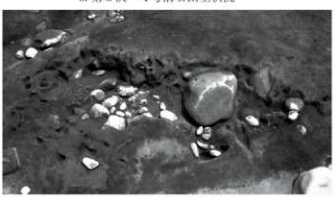
4. 第３次　２号溝

5. 第３次　２号溝セクション

1. 第３次　３号溝

2. 第３次　４号溝

3. 第３次　４号溝石出土状況



4. 第３次　流れ跡

5. 第３次　５号溝

図版 14

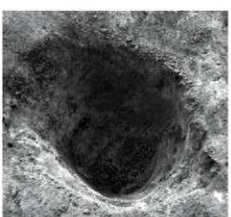
1．第4次　調査前

2．第4次　1号住居跡遺物出土状況

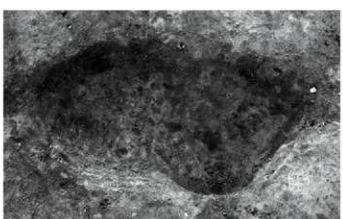
1．第4次　1号住居跡カマド

2．第4次　1号住居跡ピット1

3．第4次　1号住居跡完掘

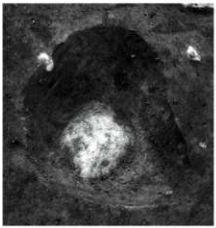


4．第4次　1号ピット



5．第4次　2号ピット

図版 16

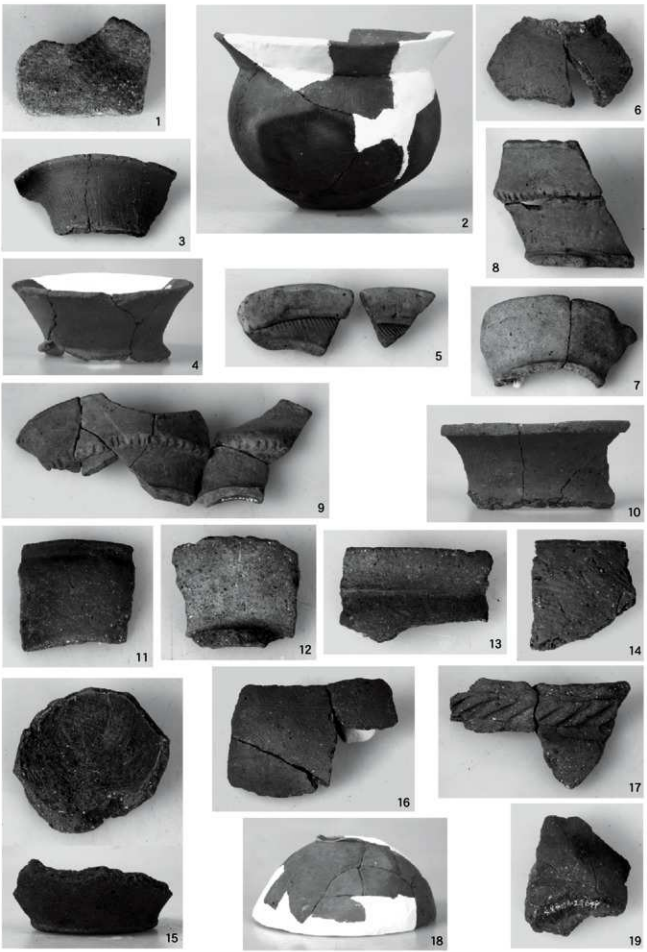


1．第4次　3号ピット

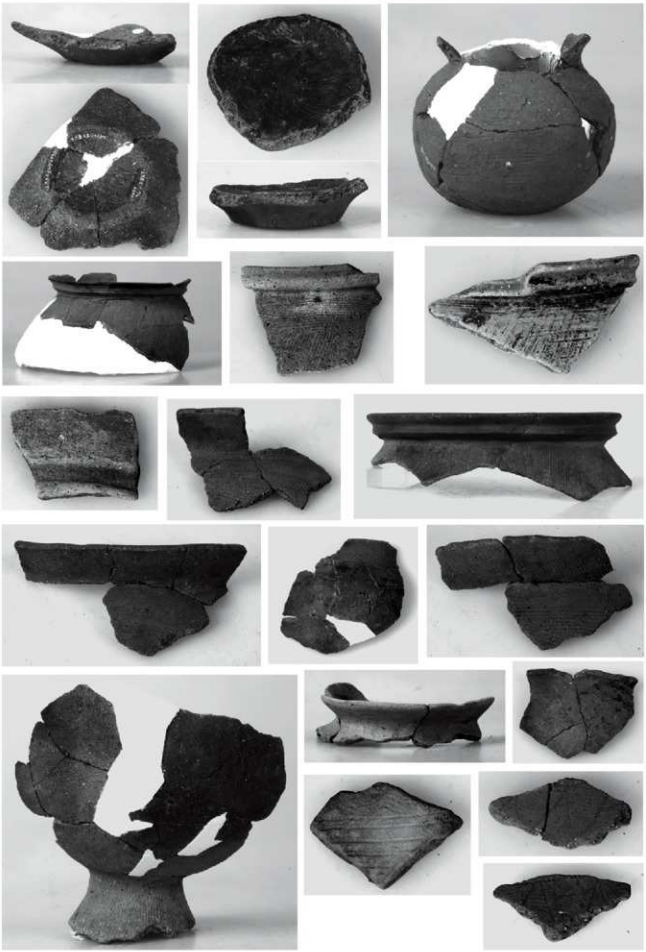
2．第4次　遺物出土状況（D-29G）

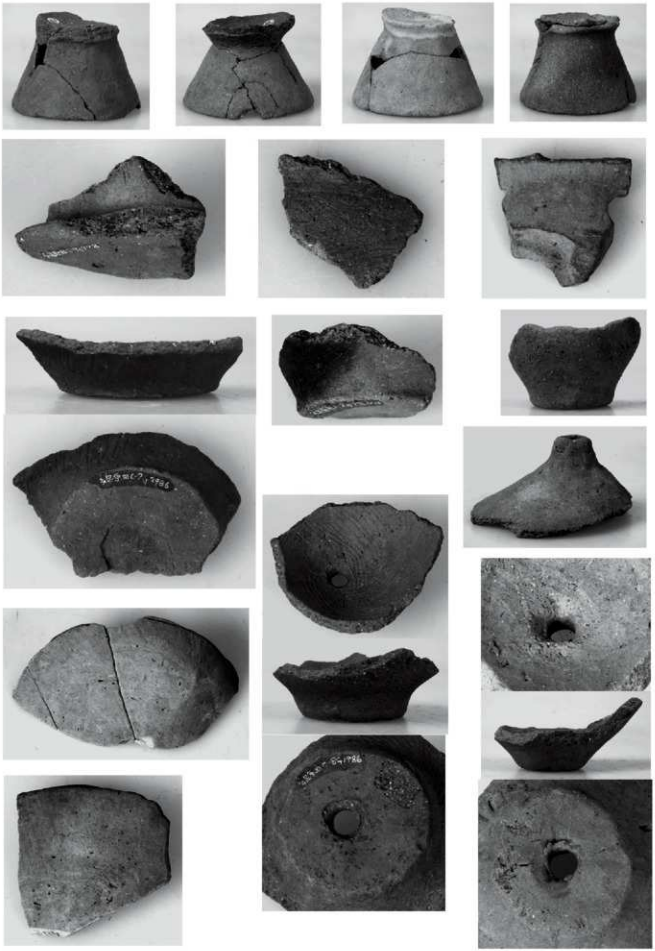
3．第4次　遺物出土状況（C-28G）

4．第4次　遺物出土状況（E・F-33・34G）

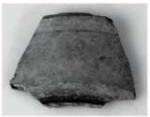

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

図版 18　第 2 次　グリッド出土遺物(2)

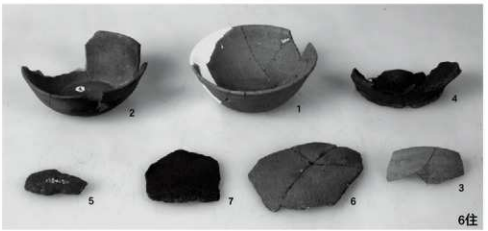




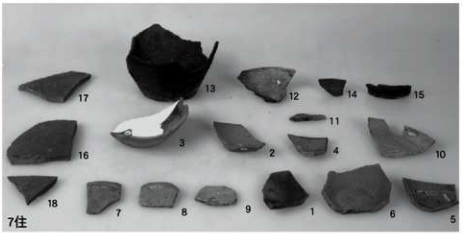
図版 20　第 2 次　グリッド出土遺物(4)

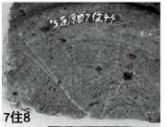


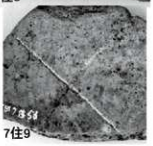
図版 22　第 3 次　6 ～ 8 住

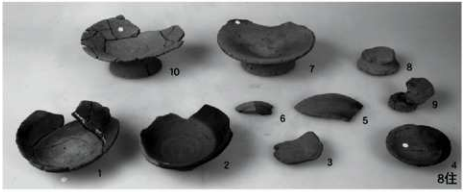

2
1
4
5
7
6
3
6住

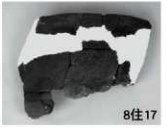
6住2
6住1

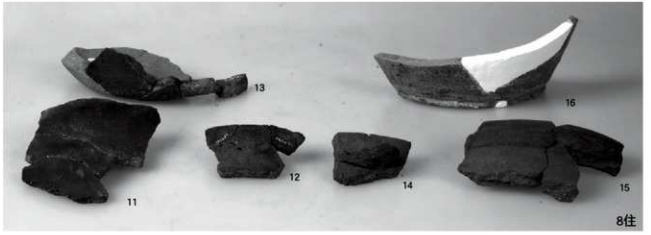

17
13
12
14
15
16
3
11
2
4
10
18
7
8
9
1
6
5
7住

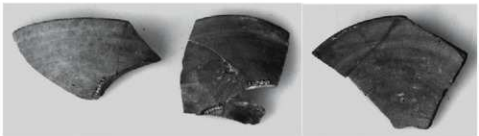

7住8


7住9

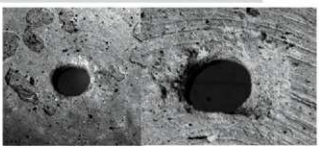

10
7
8
6
5
9
1
2
3
4
8住


8住17

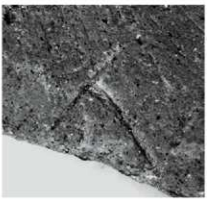

13
16
12
14
11
15
8住

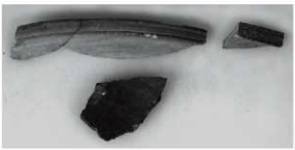


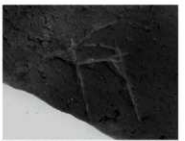
図版 24　第 3 次　11～12住

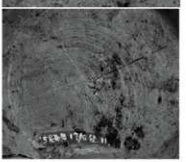


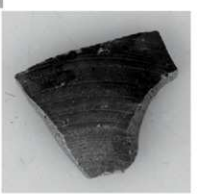
図版 26　第 3 次　15～16住



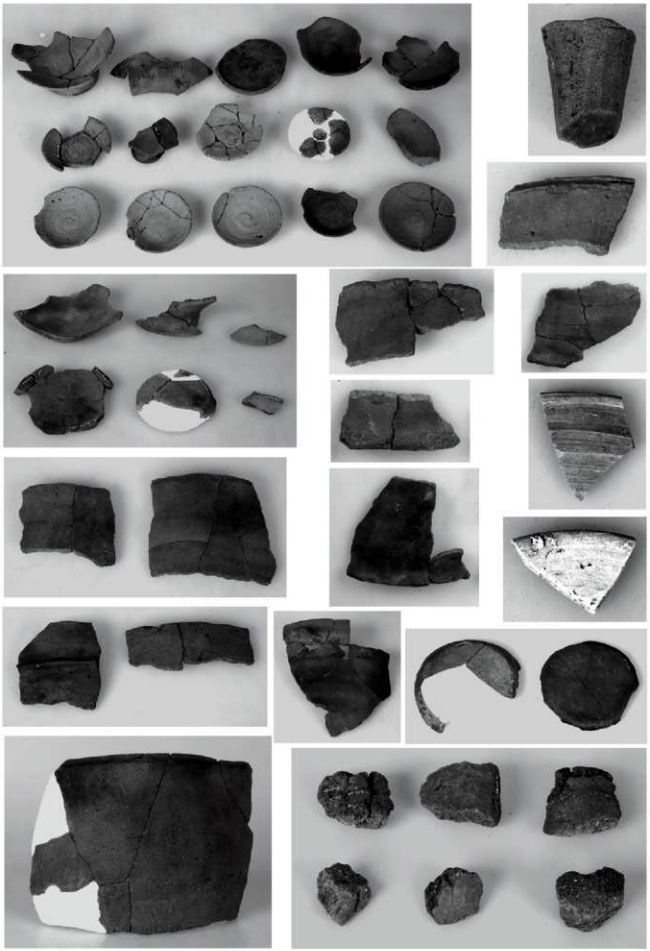




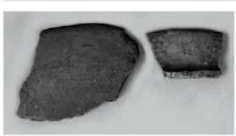


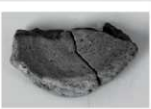


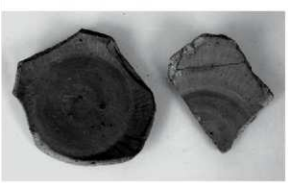
図版 28　第 3 次　20住

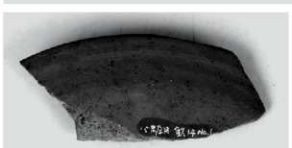


図版 30　第 3 次　22～23住・1～5土



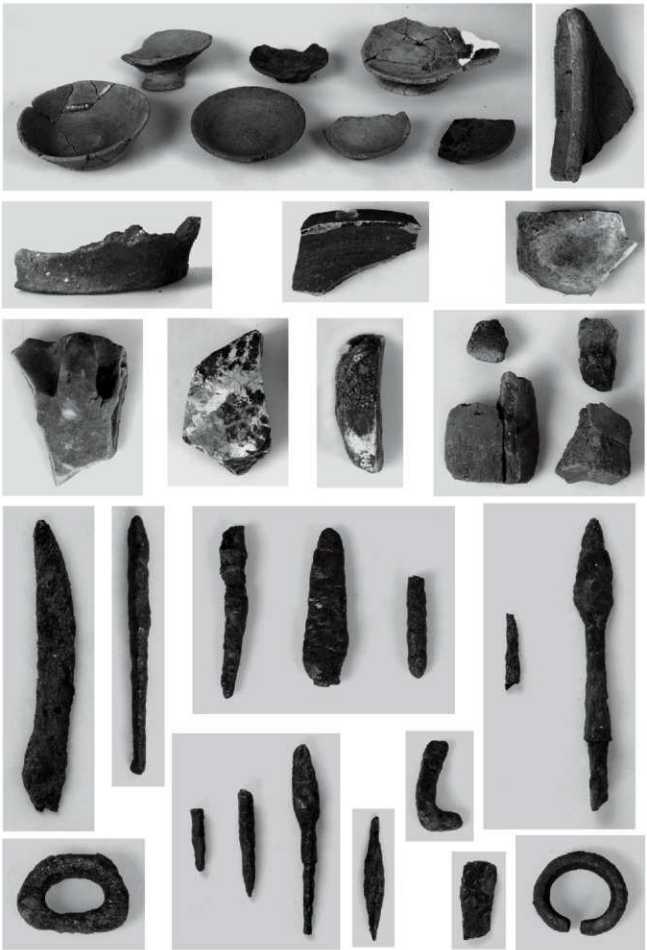




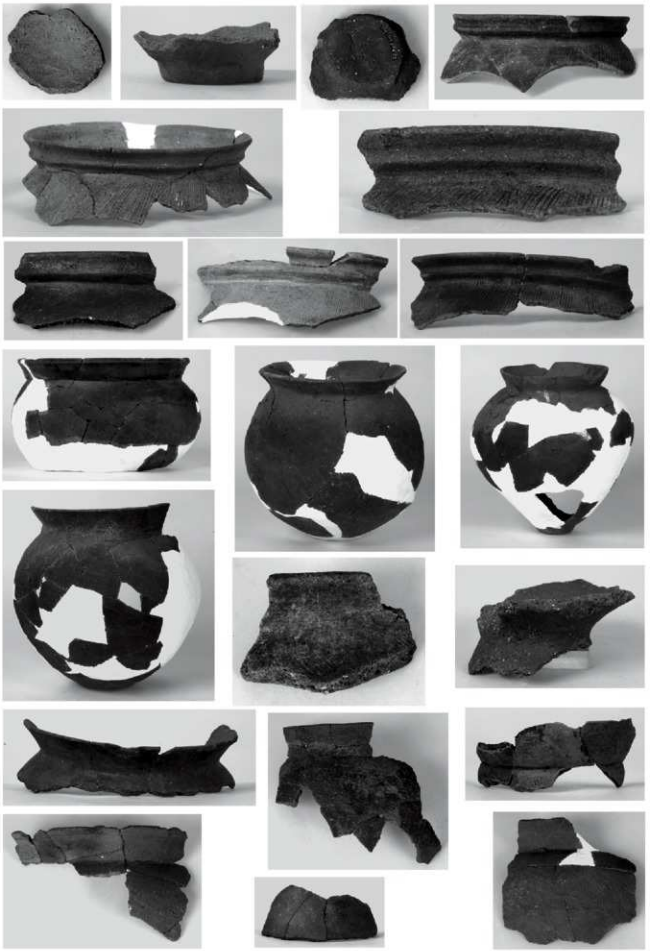


図版 32　第 3 次　グリッド出土遺物(1)

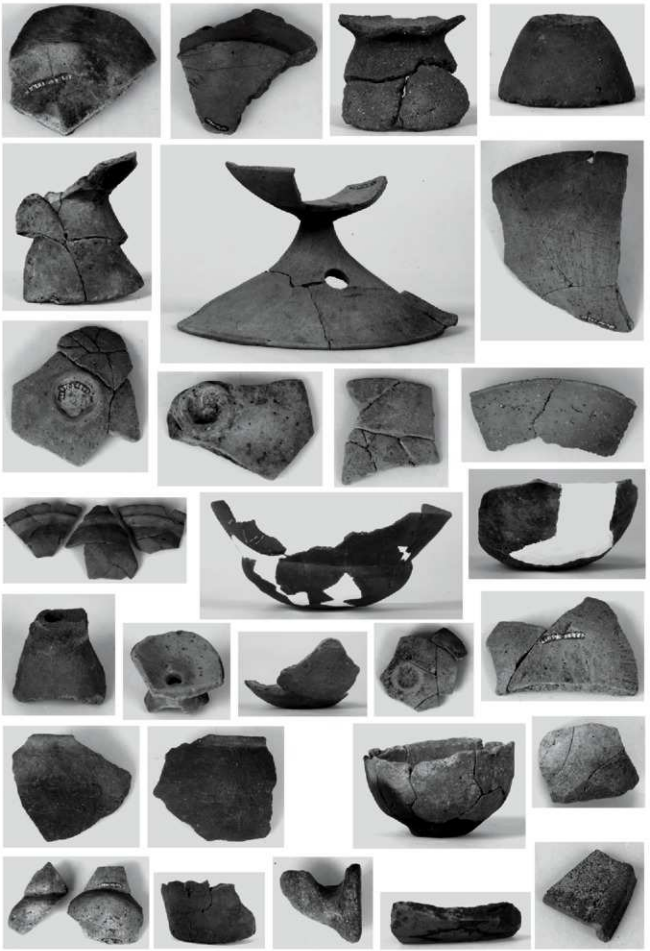
図版 34　第 3 次　グリッド出土遺物(3)・金属製品

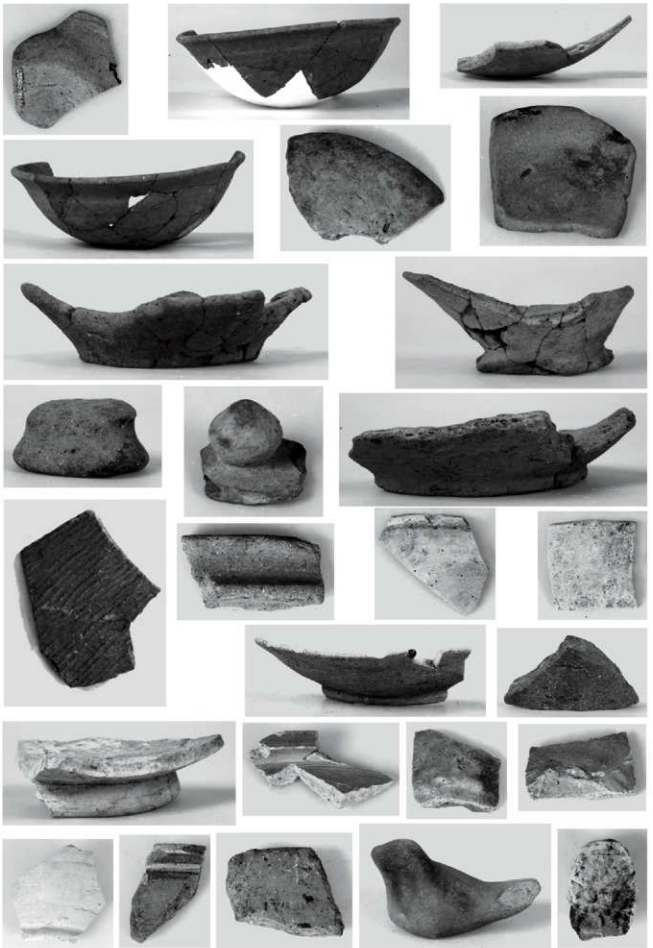


図版 36　第４次　グリッド出土遺物(2)

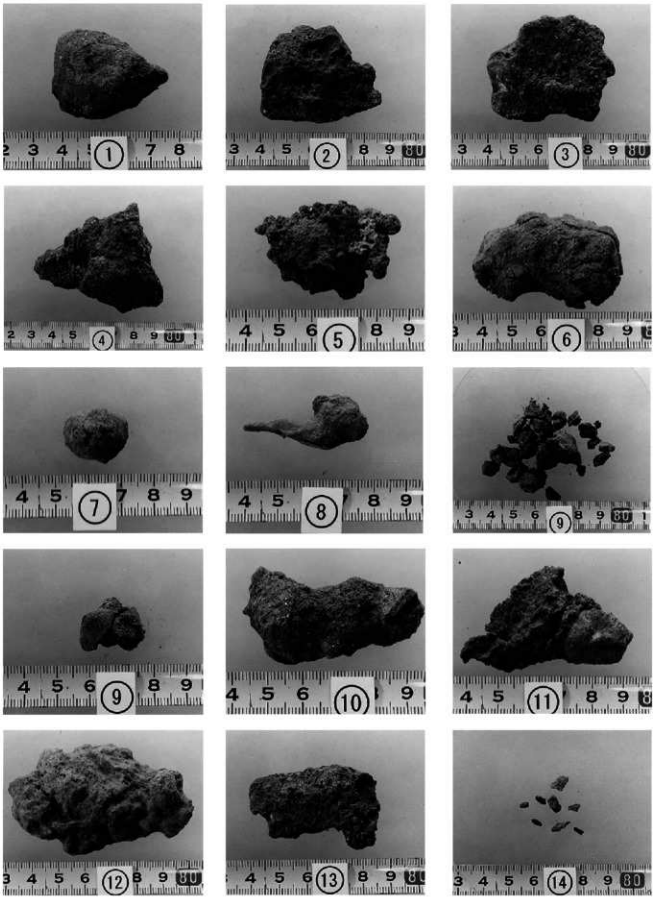


図版 38　第４次　グリッド出土遺物(4)





図版 40



鉄関連遺物の外観写真

報告書抄録

ふりがな	いしはらだいせき２
書名	足原田遺跡Ⅱ
副書名	西関東連絡道路関連発掘調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第２４６集
著者名	田口 明子・鶴田 博・上野桜
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地	〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町 923　TEL：055-266-3016
発行者	山梨県教育委員会・山梨県土木部
発行日	２００７（平成１９）年３月２６日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
いしはらだいせき	やまなしけん やまなしし まんりき	19205	187	35°	138°	2004(平成16)年 11月10日 ～ 12月24日	500	西関東連絡道路建設に伴う発掘調査
足原田遺跡	山梨県 山梨市 万力 851 外			41′	40′	2005(平成17)年 5月10日 ～ 9月27日	2,200	
				20″	25″	2006(平成18)年 5月9日 ～ 6月12日	300	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
足原田遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代	竪穴住居跡 土坑 溝 畝状遺構	Ｓ字状口縁台付甕 土師器（坏・皿・甕） 凸帯付四耳壺 灰釉陶器・青磁 鞴の羽口・鉄滓	平安時代後期の住居跡が２３軒発見された他か、鞴の羽口なども出土した。また、古墳時代前期の台付甕などが遺構には伴わないが多数出土した。

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第246集

足原田遺跡Ⅱ

西関東連絡道路関連発掘調査報告書
2007（平成19）年3月20日印刷
2007（平成19）年3月26日発行

編　集　山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923
TEL：055-266-3016　maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp
発　行　山梨県教育委員会
山梨県土木部
印　刷　株式会社　峡南堂印刷所